取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

このたびはRAV4をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書はＲＡＶ４の取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
・メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の取扱書も併せてお読みください。
・トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。
・装備については、販売店でカタログをご請求ください。
・ご不明な点は、担当営業スタッフにおたずねください。

●保証および点検整備については、「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
●トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
●取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートとともにお車に大切に保管してください。
●お車をゆずられるときは、次のユーザーのために、この取扱書およびメンテナンスノートをお車につけておいてください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。
とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので、必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただくかたのために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転装置の取り扱い

スマートエントリー ＆ スタートシステム、ドアの開閉、シート、シートベルト、エンジンのかけ方、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第4章：室内装備の取り扱い

エアコン、室内装備品（時計、小物入れなど）の取り扱いを説明しています。

第5章：安全・快適装備の解説と注意

ＳＲＳエアバッグ、ＡＢＳなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第6章：車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境にやさしい経済的な運転方法などについて説明しています。

第7章：メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第8章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

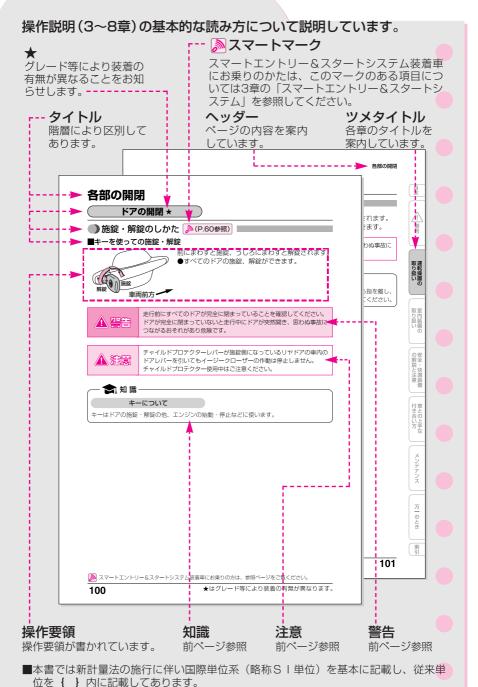
「運転者やほかの人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。

記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること。

記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること。

その他の表示

「知っておくと便利なこと」・「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています。

知っておくと便利なこと。
知っておいていただきたいこと。

イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには、下記のマークが記載されています。

してはならない行為。

操作説明（3〜8章）の見方

操作説明（3〜8章）の基本的な読み方について説明しています。

■本書では新計量法の施行に伴い国際単位系（略称ＳＩ単位）を基本に記載し、従来単位を｛　｝内に記載してあります。

※このページはサンプルですので、記載内容は実際の車とは異なります。

検索方法について

本書では、お客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、次のような工夫がしてあります。

目　次

イラスト目次

インストルメントパネル

※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

※装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

室　　内

※装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

ラゲージルーム

デッキサイド

※装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

車　両　外　観

※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

スペアタイヤ装着車

スペアタイヤ非装着車

※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

1 安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

1. 点検整備実施のお願い

点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。

①点検整備を必ず実施してください。

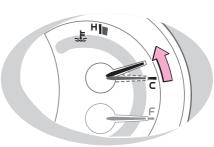
●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。
日常点検（P.440）や定期点検など、点検整備の詳細については、「メンテナンスノート」をお読みください。

- 定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、12か月ごとに実施する点検です。定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。

●点検整備は自動車の健康診断です。
定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、末永く車と付き合っていくうえで最も大切なことです。

●点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼きつきなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役目を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）を越えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。

●日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。

2. お出かけ前の注意

お出かけ前に、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

●思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

②水温計の指針が動き出すまでは、極端にアクセルペダルをあおらないでください。

●暖機不足の状態では触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するおそれがあります。
●暖機は水温計の指針が動き出す程度で十分です。

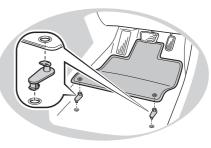
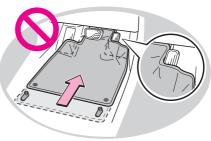
③走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときは、半ドア警告灯（P.277参照）が点灯します。

④フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などがついているときは取り除いてください。

●外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

⑤停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。

●ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥運転席足元、運転席下にものを置かないでください。

●空缶などがあると、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦フロアマットはお車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
- エンジン停止およびシフトレバーがⓅの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

⑧助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。

●急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●荷物はラゲージルームに安定した状態（例えば、ラゲージルーム前方に均等に）で置いてください。必要に応じ、ラゲージルームのデッキフックを使用して、荷物をネットやロープなどで固定してください。（P.348参照）

⑨燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑩ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

●ロックせずに走行すると、ボンネットが開いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●いつもと違う音や臭いや振動がするとき。
●ハンドル操作に異常を感じたとき。
●ブレーキ液が不足しているとき。
●地面に油のもれたあとが残っているとき。
●メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき。

⑫お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

●飲酒運転は法律で禁止されています。
●飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⑬エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

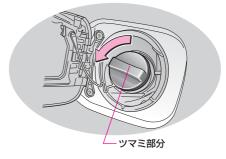
●エンジン始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。

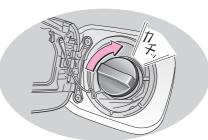
3. 燃料補給時の注意

燃料を補給するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、燃料に引火して、やけどなどの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①指定以外の燃料を使用しないでください。

●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
●指定以外の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

②燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●エンジンは必ず停止してください。
●車のドア、窓は閉めてください。
●タバコなど火気を近づけないでください。
●フューエルリッド・フューエルキャップを開けるときなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。

●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。
その音が止まってからゆっくり開けてください。

●給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください（再帯電のおそれがあります）。
●給油口には静電気除去を行ったかた以外の人を近づけないでください。
●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。
●車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
●そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

③給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。

●燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、注意してください。

4. 走行前の注意

この車は構造上、通常の乗用車に比べ車両の直前、ななめ前方および後方が確認しにくいので、発進時は、車両のまわりの状況をより十分に注意してください。

①発進前に車のまわりの安全を十分確認してください。

●駐車後発進するときは、車のまわりの安全を十分確認してから発進してください。

●後退するときに十分な視界が得られない場合は、車からおりて後方を確認してください。

●信号待ちなどで停車したときは、いつもまわりの状況に目を配り、安全を十分確認してから発進してください。

5. 走行するときの注意

走行するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①走行中はエンジンを停止しないでください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中、誤って“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押し続け、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車）

②走行中はハンドル位置やミラー・運転席シートの調整はしないでください。

●調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

●ドアミラーによる後方確認ができず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

●運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

⑤ブレーキペダルに足をのせたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

●ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

⑦車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●パワーステアリングモーターが、過熱により損傷するおそれがあります。
●停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防ぐため、パワーステアリング制御が制限されハンドル操作が重くなります。この場合は、しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約10分が経過すると、通常の重さにもどります。
●過熱防止の制限がかかるような操作を繰り返すと、システムの故障の原因になります。

⑨ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。

●ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは、法律で禁止されています。
●電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。

⑩ぬれた路面や積雪路・凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

⑪冠水した道路は走行しないでください。

●冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

⑫湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。

●外気とウインドゥガラスの温度差でウインドゥガラス外側表面が曇り、視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑬スタック※したときは

※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

●スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤなど）の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
- シフトレバーをⒹまたはⓇに確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- 過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
- 過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってからブレーキ操作をしてください。
- 数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。

●スタック脱出には、次の方法が有効です。
- タイヤ前後の土や雪を取り除く。
- タイヤの下に木や石などをあてがう。

●けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。

⑭洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。

●ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⑮走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、頭などを強く打ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑯窓・ムーンルーフから手や顔を出さないでください。

●走行中、手や顔を出していると、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ムーンルーフ装着車は、ムーンルーフの開口部に腰かけないでください。ルーフがへこんだり、万一のとき車から投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑰ドアガラス・ムーンルーフを閉めるときは、ほかの人の手や頭などを挟まないように注意してください。

●ドアガラスやムーンルーフに挟まれると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑱グローブボックスや小物入れのフタを開けたまま走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑲ウインドゥガラスにアクセサリーを取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上にものを置いたまま走行しないでください。

●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑳バックドアを開けたまま走行しないでください。

●開けたまま走行すると、バックドアが車外のものなどに当たり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

㉑走行中はドアレバーを引かないでください。

●走行中はドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

6. 走行中、異常に気づいたら

走行中、異常に気づいたら、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。（P.260参照）

②ブレーキ警告灯が点灯したまま走行し続けないでください。

ブレーキ警告灯

●警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
  この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
- ブレーキ警告灯がＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき。
  この場合、ＡＢＳ、またはブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

③エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

●エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングのモーター装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。
この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

④走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
●次のようなときはパンクやバーストが考えられます。
- ハンドルが取られるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤ装着車はスペアタイヤに交換し（P.478参照）、タイヤパンク応急修理キット装着車は応急修理（P.488参照）をしてください。

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。

●ブレーキ液や燃料がもれたり、サスペンション部品・タイヤ・ディスクホイール・駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近づいたことを運転者に知らせます。
警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

7. 駐停車するときの注意

**駐停車するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止し、施錠してください。

●車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。
●車から離れるとき、以下のことを守ってください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを🅿にする。
- パーキングブレーキをかける。
- エンジンを停止する。
- ドアを施錠する。

②可燃物付近に車を止めたりしないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。
●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を約30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。
●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると、火災につながるおそれがあり危険です。

③バックドアを開けて駐停車するときは、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。

●バックドアが開いていると非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。（P.398参照）

●輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤停車中に空ぶかしをしないでください。

●排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑥炎天下で駐車するときは、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。

●車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●炭酸飲料の缶が破裂したりして室内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
●車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

⑦仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。

●エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。
また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

8. 排気ガスに対する注意

**排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれています。
誤って排気ガスを吸い込まないようにするため、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①換気が悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。

●車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

●エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③排気管はときどき点検してください。

●排気管の腐食などによる穴やき裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●排気管は排気ガスにより高温になります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。

④バックドアを開けたまま走行しないでください。

●開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。

- すべての窓を全開にしてください。
- 空調の内外気切り替えを外気導入にして風量を最大にし、新鮮な外気を車内に入れてください。(P.308参照)
- すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

9. お子さまを乗せるときの注意

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①お子さまはリヤシートに座らせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターを使用してください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。
チャイルドプロテクターの使用方法は、P.160を参照してください。

②お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。（P.197参照）
●シートベルトの肩部ベルトが首やあごに当たったり、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、お子さまの身体に合った子供専用シートを使用してください。子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

③お子さまをシートベルトで絶対に遊ばせないでください。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

④ドア・ドアガラス・ムーンルーフなどはお子さまに操作させないでください。

●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●チャイルドプロテクター（P.160）やウインドゥロックスイッチ（P.168）を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意して操作してください。

⑤車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

●炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。

●電子キーを車内に置いたまま、お子さまを残しておくと、パワーウインドゥやムーンルーフのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対に電子キーを車内に置いたまま、お子さまを車内に残さないでください。（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

●エンジン スイッチにキーをつけたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウインドゥを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対にキーをつけたままお子さまを車内に残さないでください。（スマートエントリー& スタートシステム非装着車）

1．シートについての注意

シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①シートは正しい運転姿勢が取れるように位置を調整してください。

●正しい運転姿勢を取らないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト・ＳＲＳエアバッグ・ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
正しい運転姿勢については、Ｐ.182を参照してください。

②シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

●固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③走行中はシートの操作をしないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

●必要以上に背もたれを倒していると、衝突、または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、身体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。

●正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●衝突したときなどに首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⑦ヘッドレストは、それぞれのシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。

●ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑧トノカバーの上に荷物を置いたり、お子さまが乗ったりしないでください。

●トノカバーが破損し、荷物が損傷したり、お子さまが生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑨フロントシートにはＳＲＳエアバッグが内蔵されていますので、取り扱いに注意してください。（ＳＲＳサイドエアバッグ装着車）

●不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（P.182の「シートの調整」の警告文を参照してください。）

⑩リヤシートのリクライニング調整をするときは、次のことをお守りください。

●背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑪リヤフラットスペースを作るとき、またはもどしたときは、次のことをお守りください。

●リヤフラットスペースを作る、およびもとにもどすときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけ、エンジンを停止させてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中はリヤフラットスペースを作る、およびもとにもどす操作をしないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤフラットスペースを作ったあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤフラットスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートベルトが背もたれに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

2. 子供専用シートについての注意

**子供専用シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、身体に合った子供専用シートに座らせてください。

●乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭はほかの部分に比べて極めて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
●幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合に、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②子供専用シートを使用するときは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってご使用ください。

●使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
●子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

③子供専用シートは確実に固定できるように取りつけてください。

子供専用シートは、取りつけ位置や取りつけ方向に注意をして確実に取りつけてください。取りつけが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■子供専用シートはリヤシートに取りつけてください。

●運転席側リヤシートで、運転席の位置により、安全に取りつけられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取りつけず、助手席側に取りつけてください。

■助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。

●うしろ向きに取りつけた場合、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

警　告　　助手席SRSエアバッグ

このシートに、ベビーシートを取り付けたり
後向きのチャイルドシートを取り付けないでください。
また、絶対にお子さまを前席の前に立たせたり
膝の上に抱いたりしないでください。

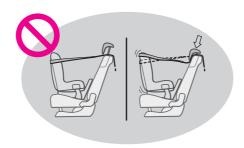
エアバッグの衝撃により、死亡または重大な傷害に
至るおそれがあります。

●やむを得ず、前向きに助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整をいちばんうしろにして取りつけてください。
お守りいただかないと、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。

■ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を取りつけるときは、チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。

●異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■子供専用シートを取りつけるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力を掛けてください。

●テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ヘッドレストを上げた状態で子供専用シートを取りつけるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。

●ヘッドレストの上に掛けると、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ヘッドレストを上げた状態で子供専用シートを取りつけるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

●ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどに子供専用シートが動いて重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

④子供専用シートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

3. シートベルトについての注意

シートベルトについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの着用は法律で義務づけられています。運転者は乗員全員が次の使用方法にしたがって、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

〈正しい着用のしかた〉

■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。

●正しい姿勢については、P.182を参照してください。

■シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。

●シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。

●ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■アジャスタブルシートベルトアンカーを確実に調整してください。（P.198参照）

●シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。

●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

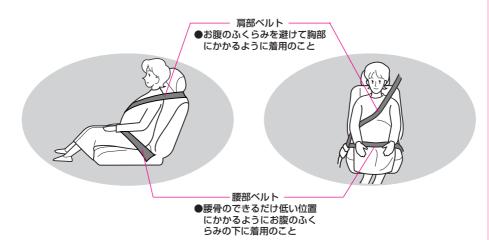
■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

●シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときに、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■シートベルトは必ず１人で１本のベルトを着用してください。

●2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。

■**分離格納式シートベルトを使用するときは、必ず下図のプレートとバックルを結合してください。**

●結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

●妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

●ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

④シートベルトは、ねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。

正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。
- ●ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみをつけて使用しないでください。

- ●肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで身体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、ベルトが胸部などを圧迫して危険です。また、頭をハンドルにぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

■プレートをバックルに差し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。

- ●異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。

⑤シートベルトを損傷させたり、損傷したシートベルトは使用しないでください。

損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷がつくおそれがあり、そのまま使用すると危険です。

■ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷ついたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

●このまま使用すると、衝突のときなどにベルトが切れる可能性があります。また、正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。
●シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。

■シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。

●衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■プリテンショナー付シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどはしないでください。

●プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店で行ってください。

■プリテンショナー付シートベルトは再使用しないでください。

●作動するとＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。

●シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

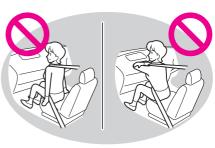
●清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

**ＳＲＳエアバッグについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないだけでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの正しい着用については、P.194を参照してください。

■シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。

●ＳＲＳエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近づきすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

《運転者のかたは》
運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

《助手席乗員のかたは》
助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。
シートの調整・正しい姿勢については、P.182を参照してください。

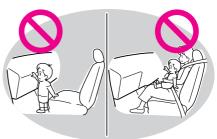
■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

■ドアにもたれかかったり、フロント・センター・リヤピラーやルーフサイド部に近づかないようにしてください。（ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車）

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。とくにお子さまを乗せるときには、注意してください。

■お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをするときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
不適切な作業を行うと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロント・センター・リヤピラー、およびルーフサイド部や天井の取りはずし・取りつけなどＳＲＳエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

●サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグが誤作動し危険です。

●車両前部、または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

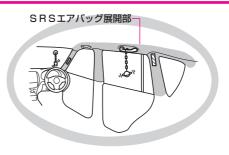
③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

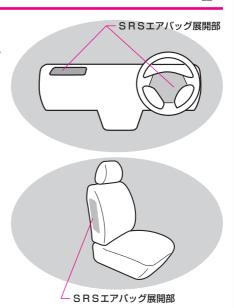
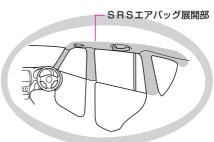
●ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。
ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

●インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロントウインドゥガラス、フロントドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、およびルーフサイド部、アシストグリップや天井などＳＲＳエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイク、ハンガーなどを取りつけないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、リヤ席アシストグリップ部のコートフックにはハンガー・重いもの、とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。

④ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたかないでください。

●ステアリングパッド（運転席ＳＲＳエアバッグ）、インストルメントパネル上部（助手席ＳＲＳエアバッグ）、フロント・センター・リヤピラー、およびルーフサイド部（ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ）、フロントシート側面（ＳＲＳサイドエアバッグ）など、ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください

●構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

5. ＥＢＤ付ＡＢＳ&ブレーキアシストについての注意

ＥＢＤ付ＡＢＳ&ブレーキアシストについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ＥＢＤ付ＡＢＳ&ブレーキアシストを過信しないでください。

●ＥＢＤ付ＡＢＳ&ブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
ＥＢＤ付ＡＢＳ&ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
- ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。

※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ＥＢＤ付ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ＥＢＤ付ＡＢＳのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

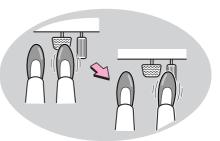
TRC・S-VSCについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①TRCを過信しないでください。

●TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯（P.254参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

②S-VSCを過信しないでください。

●S-VSCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、S-VSC作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（P.254参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

オートマチック車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①オートマチック車の特性

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

②運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。

- アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 後退するときは、身体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

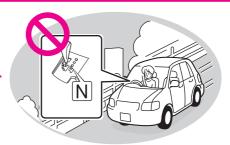
●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、エンジンをかけてください。

●安全のためシフトレバーは車輪が固定されるⓅに入れ、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンをかけてください。

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中はシフトレバーをⓃに入れないでください。

●Ⓝにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●Ⓝにしたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

⑦走行中はシフトレバーをⓅに入れないでください。

●オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、シフトレバーをⓇに入れないでください。

●同様に後退で走行中は、シフトレバーをⒹに入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

⑨停車中は、空ぶかしをしないでください。

●シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩駐車するときは、シフトレバーを🅟に入れてください。

●🅟以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪坂道などでは、シフトレバーを🅓、🅜に入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

●同様に🅡に入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑫そのほかにも以下の点に注意してください。

●少し後退したあとなどは、シフトレバーが🅡にあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐ🅝にもどすよう習慣づけましょう。
●切り返しなどでシフトレバーを🅓から🅡、🅡から🅓と何度もレバー操作をするときは、その都度、ブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。

2. 4WD車についての注意

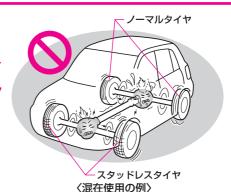
4WD車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①無理な運転は禁物です。

●この車の4WD（アクティブトルクコントロール4WD）は、ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした4WDですので、無理な運転はしないでください。

②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

●4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

③脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

●前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください。

④渡河などの水中走行はしないでください。

●渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
●万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
- エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

⑤タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

〈混在使用の例〉

●タイヤはすべて、指定サイズで同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
- 4輪の空気圧の差が著しいとき。
- 空気圧が指定値からはずれているとき。

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.415参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.461参照）

3. クルーズコントロールについての注意

クルーズコントロールについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにしてください。

●誤ってクルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②次のような状況のときは、クルーズコントロールを使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●交通量の多い道や急カーブのある道では、道路の状況に合った速度で走行できないため、事故につながるおそれがあり危険です。
●凍結路や積雪路などのすべりやすい路面では、タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。
●急な下り坂では、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

4. ヒルスタートアシストコントロールについての注意

ヒルスタートアシストコントロールについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な障害につながるおそれがあり危険です。

①ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。

●極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に運転してください。
●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための装置ではありません。坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②ヒルスタートアシストコントロール作動中に下記の操作をしないでください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにしないでください。ヒルスタートアシストコントロールが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＬＯＣＫ ” にしないでください。ヒルスタートアシストコントロールが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

5.DACについての注意

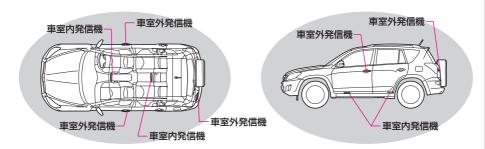
**DACについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な障害につながるおそれがあり危険です。**

①DACを過信しないでください。

●極端に急な坂道、凍結路、泥道ではすべりやすいので一定の低速度（およそ5km/h前後）を維持できない場合があります。そのため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。慎重に運転してください。
●前進で走行中は、シフトレバーをⓇに入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

6. AUTO LSDについての注意

**ＡＵＴＯ ＬＳＤについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な障害につながるおそれがあり危険です。**

①ＡＵＴＯ ＬＳＤを過信しないでください。

●極端に急な坂道、凍結路、泥道ではすべりやすいので脱出が困難な場合があります。そのため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。慎重に運転してください。

●ＡＵＴＯ ＬＳＤ使用中の旋回走行時には、よく注意して走行してください。車輪がスリップして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ディファレンシャルに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

7. スマートエントリー&スタートシステムについての注意

スマートエントリー＆スタートシステムについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器を装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22ｃｍ以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除際動器が近づかないようにしてください。

- 電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。
- スマートエントリー ＆ スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

1．点検・手入れ時の注意

点検・手入れ時は、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近づけないでください。

●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので、注意してください。なお、火気をバッテリーや燃料配管に近づけないでください。爆発し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②エンジン停止直後はエンジン・排気管・ラジエーターなど高温部には触れないでください。

●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっていることがありますので注意してください。

③エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。

●フロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

●ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、錆びてブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

●配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑦エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

●ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⑧エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

●点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑨電球を交換するときは、電球やまわりの部品が冷えてから交換してください。

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。
●運転席側のリヤフォグランプを交換するときは、マフラーが冷えてから交換してください。エンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、手や足がふれるとやけどをするおそれがあります。（リヤフォグランプ装着車）

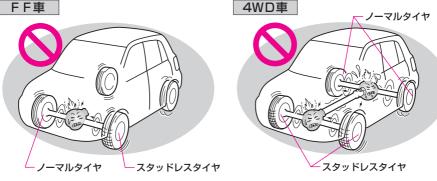
2. タイヤについての注意

タイヤについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①日常点検として、必ずタイヤの点検を行ってください。

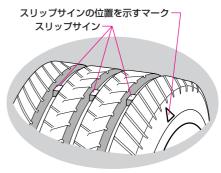
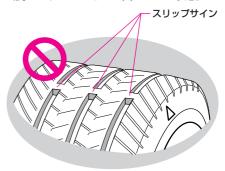
●タイヤの点検は、法律で義務づけられています。
●タイヤは以下の点について点検してください。
- タイヤの空気圧。
- タイヤのき裂・損傷の有無。
- タイヤの溝の深さ。
- タイヤの異常な摩耗。（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど。）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

②タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。

●指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.461で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。
指定空気圧より低いと、車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。
※ 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

③タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

●タイヤを混在使用すると、左右タイヤ（4WD車の場合は前後左右タイヤ）で常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

〈混在使用の例〉

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
- 4輪の空気圧の差が著しいとき。
- 空気圧が指定値からはずれているとき。

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.415参照）

●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.461参照）

●指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ＡＢＳ
- ブレーキアシスト（Ｓ-ＶＳＣ装着車）
- ＴＲＣ・Ｓ-ＶＳＣ
- ＧＰＳボイスナビゲーション
- クルーズコントロール
- ヒルスタートアシストコントロール（Ｓ-ＶＳＣ装着車）
- ＤＡＣ（Ｓ-ＶＳＣ装着車）
- アクティブトルクコントロール4WD

④摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

●タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※1により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※1 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

※2 イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※2

〈例：スリップサインが出ている状態〉※2

⑤タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

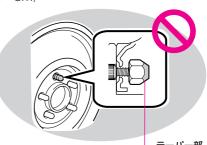
●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

⑥冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

●指定サイズのタイヤを使用してください。
●指定空気圧に調整してください。
●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑦タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は、約30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。
●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑧タイヤを交換したときは、ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。

●確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締めつけトルク：約105Ｎ・ｍ ｛1050kgf・cm｝
●必ずナットのテーパー部を内側にして取りつけてください。テーパー部を外側にして取りつけると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

●つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑪歩道の縁石などにタイヤが当たらないように注意してください。

●タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑫センターオーナメントに直接手をかけて取らないでください。

●思わぬけがをするおそれがあり危険ですので、取り扱いには十分注意してください。

⑬走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。

●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあり危険です。

⑭装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。

●装着されているタイヤサイズごとに、ステアリングギヤの設定が異なっているため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着すると、車の性能（車両の安定性など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。
そのため、例えば225／65R17 101Hタイヤが装着されている車両には、235／55R18 99Hタイヤを装着することはできません。

3. バッテリーについての注意

バッテリーについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER LEVEL（下限）以下のまま使用、充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、液量が少ないときは補給してください。

②バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。（P.502参照）

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③エンジンがかかっているときや、充電中は、バッテリーに近づかないでください。

●充電中は、バッテリーから有毒で腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した身体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

④火気をバッテリーに近づけないでください。

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取りつけ、ナットを確実に締めつけてください。

●確実に取りつけたり、締めつけたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

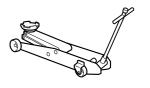
4. ジャッキアップについての注意

**ジャッキアップについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。

●車が動きジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

②ジャッキアップした車の下には、絶対にもぐらないでください。

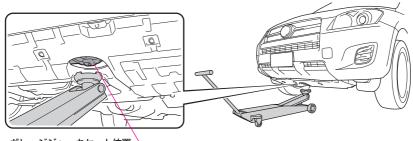
●万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

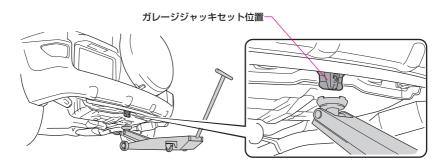
●人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.481）にかかっていることを必ず確認してください。
●車体は、タイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
●ジャッキアップした車体をおろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。
●フロントドア、リヤドアおよびバックドアを閉めてからジャッキアップしてください。

④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

●ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

●室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

●車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。

ガレージジャッキ

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ず下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。

ガレージジャッキは、受皿の形状がガレージジャッキセット位置に適したサイズの受皿タイプを使用してください。

1. オーバーヒートについての注意

オーバーヒートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。

●エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分がありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

②ラジエーターやリザーバータンクが熱いときはリザーバータンクのキャップを開けないでください。（P.441参照）

●蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●キャップを開けるときは、ラジエーターやリザーバータンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包み、ゆっくりと開けてください。

2. 万一の事故のときの注意

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。

●エンジンがかかっていないと、パワーステアリングやブレーキ倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。

②けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

●けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

③けん引中に“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしないでください。（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

●ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④けん引中にキーを抜いたり、エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”の位置にしないでください。（スマートエントリー & スタートシステム非装着車）

●キーが抜けていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジン スイッチが“ＬＯＣＫ”だとキーが抜けるおそれがあります。

⑤発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。

●可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や身体に向けると、炎でやけどするなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥事故後、エンジンを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①違法改造は絶対にしないでください。

●トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
●車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
- 電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

●フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

②灰皿を使用したあとは、マッチ・タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。

●開けたまま放置すると、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

③カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。また、使用していないときは閉めておいてください。

④ウインドゥガラスなどには、吸盤をつけないでください。

●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器ががレンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑤ラゲージルームには人を絶対に乗せないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑥バックドアを閉めるときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。また、お子さまにはバックドアの操作をさせないでください。

●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑦走行前にバックドアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。

●バックドアが確実に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●バックドアを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものなどに当たり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑨ミラーヒーター作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手をふれないでください。（ミラーヒーター装着車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑩プラズマクラスター発生器は高電圧を利用しています。（プラズマクラスター装着車）

●危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

⑪リモコンスイッチの電池交換時に、取りはずした電池や部品をとくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

●飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑫アルミボディには、磁石で固定するアクセサリーを取りつけることはできません。

●磁石はアルミにつかないため、磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などは取りつけることはできません。

⑬車内のスイッチなどに飲み物をこぼさないよう注意してください。

●インストルメントパネル、ドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑭エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、マフラーに触れないように注意してください。

●エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっています。荷物の積みおろし時などに手や足が触れると、やけどをするおそれがあります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に冷めてからにしてください。

⑮ユーティリティネットをハンモック状態にして荷物を置くときは、リヤシートの上端から荷物がはみ出さないようにしてください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑯ユーティリティネットをハンモック状態にしてお子さまを乗せないでください。

●ユーティリティネットパイプが折れたり、はずれたりしてお子さまが生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

⑰シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光がガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

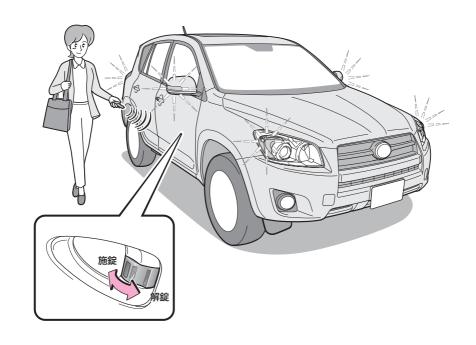
⑱メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないでください。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすおそれがあります。
●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。
●ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

⑲タイヤパンク応急修理キットを使用してパンク修理したときは、速度制限ラベルを下記の位置に貼らないでください。（タイヤパンク応急修理キット装着車）

●メーターやドアガラスなど、運転に支障をきたすところ
思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ステアリングホイールパッド部などのＳＲＳエアバッグ展開部
ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

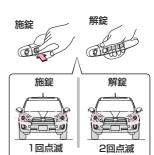
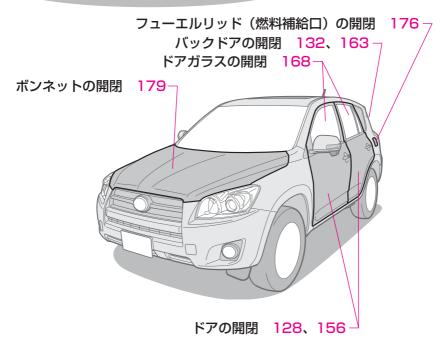
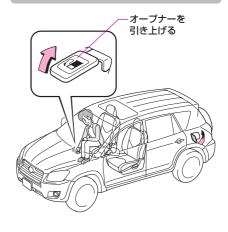
⑳内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

●インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

2 基本操作早わかり

（はじめてこの車にお乗りになるかたへ）

この章では、はじめて車を購入されたかたやトヨタ車にはじめてお乗りになるかたのために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。
詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりお読みください。

ドアの施錠と解錠

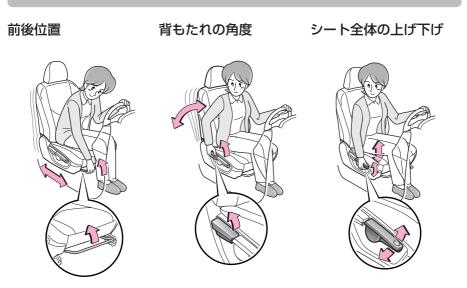
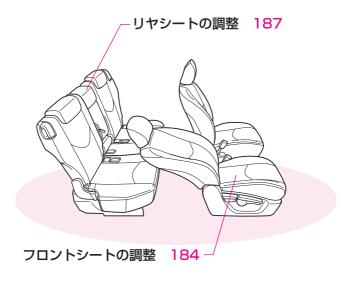
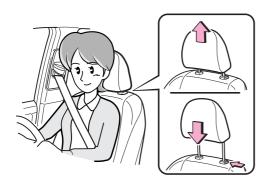
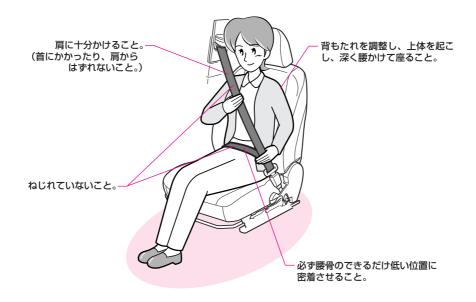
キーで
解錠
施錠
リモコンスイッチで
解錠
施錠
解錠
施錠
施錠
解錠
1回点滅
2回点滅
スマートエントリー ＆ スタートシステムで
施錠
解錠
施錠
解錠
1回点滅
2回点滅

各部の開閉に関する詳しい紹介は

ドアガラスの開閉

フューエルリッド（燃料補給口）の開け方

ヘッドレスト中央が耳の後方になること。
ハンドルが楽に操作できること。
背もたれから背を離さないこと。
ペダルが十分に踏み込めること。

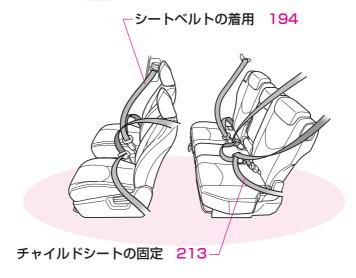
運転席の調整機能

前後位置
背もたれの角度
シート全体の上げ下げ

シートに関する詳しい紹介は

運転席の調整機能

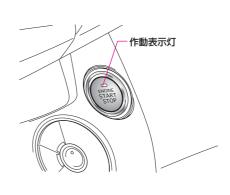
ヘッドレスト

着用のしかた

1 ベルトを引き出します。

2 プレートをバックルに差し込みます。

❶“カチッ”という音がするまで差し込みます。

❷アンカーの高さを調整します。

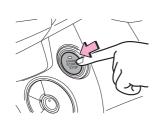
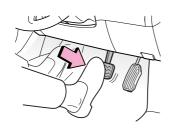
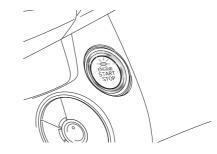
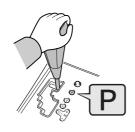
シートベルトに関する詳しい紹介は

はずし方

❶バックルのボタンを押します。
❷ベルトを巻き取らせます。

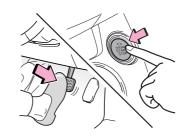
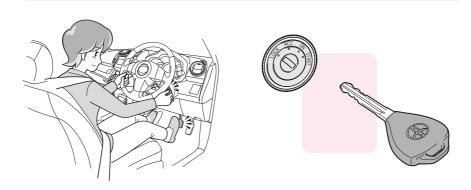
スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリーモード	橙色	停止	シガレットライターなどの電装品が使用できます。
イグニッションONモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。（メーターが点灯します。）
	消灯	回転中	すべての電装品が使用できます。通常運転中の状態です。

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え方

1 電子キーを携帯して運転席に座ります。

2 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。
スイッチを押すごとにスイッチが、
ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦ…
の順に切り替わります。
●アクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。

エンジン始動のしかた

1 電子キーを携帯して運転席に座り、ブレーキペダルをしっかり踏みます。

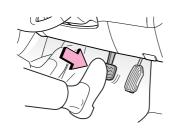
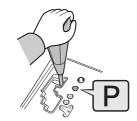
パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 作動表示灯が緑色に点灯します。

3 シフトレバーの位置を確認します。

4 ペダルをしっかり踏んだ状態で、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

ゆっくり確実に押してください。

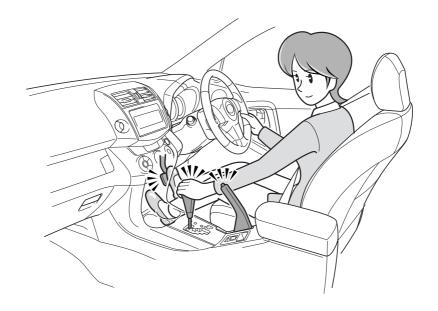
●エンジンが始動すると作動表示灯が消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジンスイッチの位置	エンジンの状態	各状態の働き
LOCK	停止	電装品が停止している状態です。 キーの抜き差しができる位置です。 キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC	停止	シガレットライターなどの電装品が使用できます。
ON	停止	すべての電装品が使用できます。
	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。
START	始動	エンジンを始動する位置です。 キーを離すと“ＯＮ”の位置にもどります。

エンジン スイッチの切り替え方

1 キーをキーシリンダーに差し込みます。

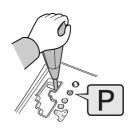
2 キーをまわして切り替えます。

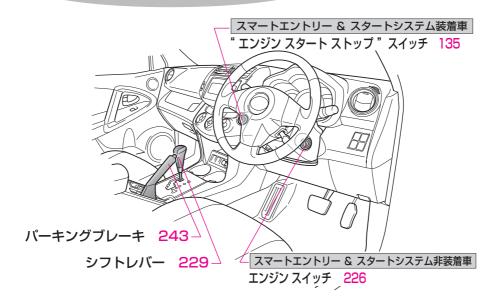
エンジン始動のしかた

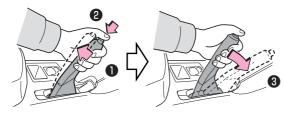
1 ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 シフトレバーの位置を確認します。

3 キーを“ ＳＴＡＲＴ ”の位置までまわし、手を離します。

キーは“ ＯＮ ”の位置にもどります。

シフトレバーの動かし方（発進時の場合）

1 ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

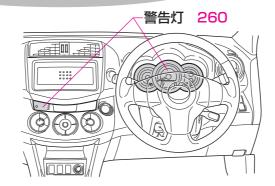
2 シフトレバーを🅟から操作します。

運転装置に関する詳しい紹介は

パーキングブレーキの使い方

もどし方

ブレーキペダルを踏んで、
❶レバーを引き上げながら
❷ボタンを押し
❸いっぱい下までおろします。

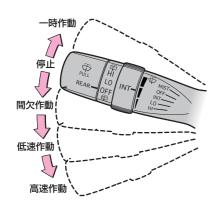
かけ方

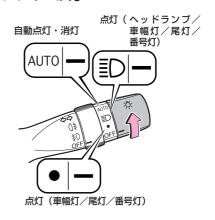
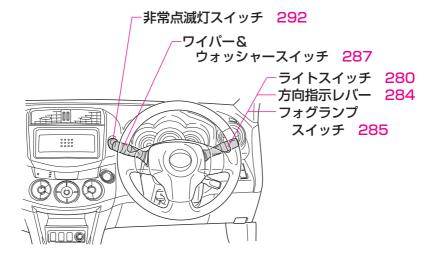
ボタンは押さない

レバーをいっぱい引き上げます。

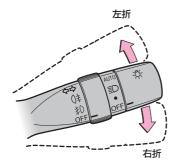
警告灯が点灯、または点滅したままのときは

	警告灯	警告理由
(ABS)	ＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯	ＡＢＳ、またはブレーキアシストシステムの異常です。（S-ＶＳＣ装着車）
(ABS)	ＡＢＳ警告灯	ＡＢＳの異常です。（S-ＶＳＣ装着車を除く）
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯	ＳＲＳエアバッグシステム、またはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
	エンジン警告灯	エンジン電子制御システムなどの異常です。
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯	ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムの異常です。
	パワーステアリング警告灯	パワーステアリング制御システムの異常です。
4WD	４ＷＤ警告灯	４ＷＤシステムの異常です。
	油圧警告灯	エンジン内のオイル圧力の異常です。

警告灯に関する詳しい紹介は

警告灯が点灯、または点滅したままのときは

警告灯		警告理由
(!)	ブレーキ警告灯	●パーキングブレーキがかかっています。 ●ＥＢＤの異常です。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足です。
	充電警告灯	充電系統の異常です。
A/T OIL TEMP	オートマチックトランスミッション油温警告灯	トランスミッション内のフルード温度の異常です。
	スマートエントリー＆スタートシステム警告灯	電子キーが車室内発信機の検知エリア内にありません。
	燃料残量警告灯	燃料切れが近づいています。 （約９Ｌ以下で点灯）
	半ドア警告灯	いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていません。
	運転席シートベルト非着用警告灯	運転者がシートベルトを着用していません。
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。

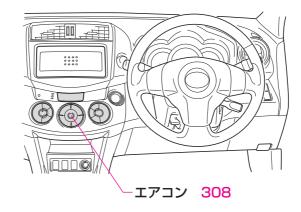
※この他にも、表示灯の点灯または点滅により異常を知らせる場合があります。
詳しくは、P.250を参照してください。

夜間や雨天時などの走行

フロントワイパーの使い方

ランプのつけ方

スイッチに関する詳しい紹介は

他車への合図

方向指示灯

非常点滅灯

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の 解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

オートエアコンの使い方

1　ＡＵＴＯスイッチを押します。

2　希望温度に合わせます。

エアコンに関する詳しい紹介は

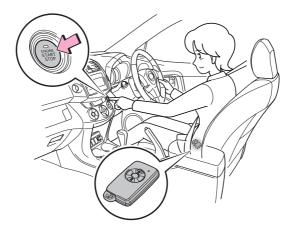
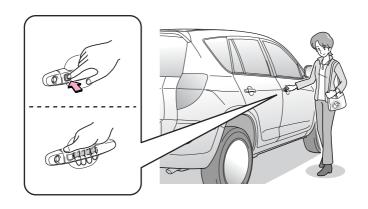
3 エアコンが作動していないときは、エアコンスイッチを押します。

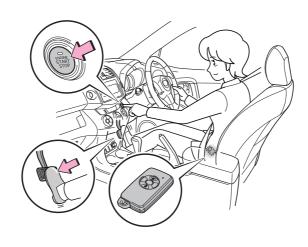
4 作動を停止させるときは、ＯＦＦスイッチを押します。

3 運転装置の取り扱い

スマートエントリー ＆ スタートシステム★

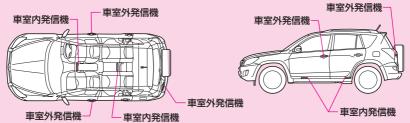
スマートエントリー ＆ スタートシステムについて

スマートエントリー ＆ スタートシステムは電子キーを携帯しているだけで、ドアの施錠・解錠、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの切り替え、エンジンの始動・停止をすることができます。

ドアの施錠・解錠（P.128参照）

バックドアの施錠・解錠（P.132参照）

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り替え（P.135参照）

エンジンの始動・停止（P.138参照）

電子キー

電子キーと車両が通信を行い、スマートエントリー ＆ スタートシステムが作動します。

電子キーは運転者が必ず携帯してください。

警告

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22ｃｍ以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器を装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22ｃｍ以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

●スマートエントリー ＆ スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

注意 **電子キーを正常に作動させるために、以下のことにご注意ください。**

●電子キーは信号発信着を内蔵している電子部品です。故障の原因となりますので、以下のことをお守りください。
- ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
- 分解しないでください。
- 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけないでください。
- 電子キーの表面にシールなどを貼らないでください。
- テレビ、オーディオなどの磁気を帯びた機器、または低周波治療器などの医療電気機器の近くに置かないでください。
- 超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
- 電子キーにガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着すると、電子キーが変形したり、ひび割れたりすることがあります。
- 車から離れるときは、
  1.シフトレバーをⓅにし、
  2.パーキングブレーキをかけ、
  3.“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにして、
  必ず電子キーを携帯していることを確認してからドアを施錠してください。

●スマートエントリー ＆ スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー ＆ スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンが正常に作動しない場合があります。その場合は、P.152「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
- 電子キーのバッテリー（電池）が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが金属性のものに接したり、覆われたりしているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 他の車の電子キー、電波式ワイヤレスキー、パソコンなどの電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

知識

電子キーについて

●電子キーは2個あります。
●電子キーはドアの施錠・解錠の他、エンジンの始動・停止などに使います。
●ワイヤレスドアロックリモコンの操作についてはＰ.165を参照してください。
●電子キーを紛失しないように十分注意してください。電子キーを紛失した場合は、電子キーの作製にコンピューターの交換が必要となるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
●電子キーの作製には特殊な加工が必要になりますので、トヨタ販売店以外では購入できません。
●スマートエントリー ＆ スタートシステムの故障等でトヨタ販売店に車両を持っていく場合は、車両に装備されている電子キーをすべてお持ちください。
●盗難防止システムについてはＰ.375を参照してください。

電子キーのバッテリーについて

●電子キーのバッテリー（電池）は常に消耗しています。
電子キーは車両との通信のために常時受信動作をしており、電子キーに内蔵されたバッテリーを消費しています。電池の寿命は使用状況によりますが約1～2年程度です。（まったく使用しなくても電池は消耗します。）バッテリー電圧が低下した場合、新しい電池と交換してください。電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが（P.416参照）、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしてから約20分以上経過し、その後スイッチをＯＦＦにしたとき、電子キーのバッテリーが低下していると、キーバッテリー低下警報が鳴ります。（Ｐ.149参照）

知識

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電子キーの保管について

電子キーを家電製品の近くに保管しないでください。家電製品の電磁波により、電子キーが誤作動したり、常時通信状態となり電池が著しく消耗する場合があります。
影響のある主な電化製品（常時約1m以上離すのが望ましいものの例）
テレビ、パソコン、電磁調理器、電気スタンド、充電中のコードレス式電話器および携帯電話

電子キーの使用個数について

同じ車両で電子キーは最大7個まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

キーナンバープレートについて

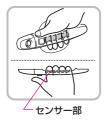
お客様以外にキーナンバーがわからないように、電子キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

- キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一、電子キーを紛失した場合、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りの電子キーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しい電子キーをつくることができます。
- 万一、電子キーを1個でも紛失した場合、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー & スタートシステムの解除について

スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

ドアの施錠・解錠のしかた

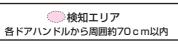
施錠・解錠のしかた

■施錠するときは

電子キーを携帯し、すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっている状態で、フロントドアハンドルのロックスイッチを押します。

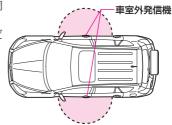
●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠ができます。
●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。
●必ず施錠されたことを確認してください。

■解錠するときは

電子キーを携帯し、フロントドアハンドル裏側のセンサー部に触れるようにドアハンドルを握ります。

●すべてのドア（バックドアを含む）の解錠ができます。
●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。

車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。

- 車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。電子キーが車内に閉じ込められる可能性があります。
- ドア施錠時に、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（約2m以内）に置かないでください。

知 識

作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（各フロントドアから周囲約70cm以内）

- ドアガラスやドアハンドルに近づきすぎた場合などは作動しないことがあります。

作動条件について

- 車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に電子キーを携帯して入ると、自動的にIDコードの照合を行い、照合が一致したときのみドアが解錠されます。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でロックスイッチを押すと、車室内外で、IDコードの照合を行い車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると施錠されます。
  - 電子キーを検知しているドアハンドルでのみ、ドアの施錠・解錠を行うことができます。
  - 車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるときやドアガラスやドアハンドルに近づきすぎたときは正常に作動しない場合があります。
  - 電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
  - 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
  - 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、P.152の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

知 識

施錠・解錠について

●ロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。

●施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。

●次のようなときは、ロックスイッチを押さないでください。ロックスイッチを押してもドアは施錠されず、半ドア警報（P.146参照）が鳴ります。

- いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているとき
- ドアの開閉中

●解錠するときは、フロントドアハンドル裏側のセンサー部を確実に握り、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

- ドアハンドル裏側のセンサー部以外に触れても解錠されません。
- 皮手袋、スキー手袋などを手に装着してドアハンドル裏側のセンサー部に触れた場合は、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。

- 他の車の電子キーや、電波を発信するような製品などを同時に携帯した場合、作動時間が通常よりも長くなることがあります。

●確実に解錠させるためには、電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入ってから約3秒以内にドアハンドルを握ってください。約3秒を経過すると、作動しない場合があります。

●急な車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内への接近や急なドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●電子キーが車室内発信機の検知エリア内（車両室内）にある場合でも、ワイヤレスドアロックリモコン（P.165参照）、メカニカルキー（P.152参照）、ドアロックスイッチ（P.158参照）での施錠はできますが、その後スマートエントリー & スタートシステムでの解錠はできません。

●解錠後、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。

●電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに多量の水がかかるとスマートエントリー & スタートシステムが働き、ドアが解錠することがありますが、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。

知識

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの開閉、解錠・施錠、“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態、電子キーを携帯した状態での検知エリア内への進入と連動して、フロントパーソナルランプ（メインスイッチがＤＯＯＲの位置のとき）、足元照明、エンジン スイッチ照明が点灯・消灯します。

●電子キーを携帯し、車室外発信機（フロントドア）の検知エリア外から検知エリア内に入ると点灯し、約15秒後に消灯します。ただし、検知エリア内から検知エリア外へ出て、約3秒以内に検知エリア内にもどった場合や、検知エリア内に留まっている場合は作動しません。※

●いずれかのドア（バックドアを除く）を開けると点灯し、すべてのドアを閉めると約15秒後に消灯します。※

●“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにすると点灯し、約15秒後に消灯します。※

●“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、運転席ドア、助手席ドアを解錠すると点灯し、約15秒後に消灯します。※

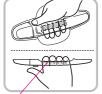
●次のような場合は、ただちに消灯します。
- すべてのドア（バックドアを除く）を閉め、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにしたとき
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにして、すべてのドア（バックドアを除く）を閉めたとき
- すべてのドアを閉め、フロントドアを施錠したとき

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.463の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

バッテリーあがり防止機能

いずれかのドア（バックドアを除く）が開いた状態で、フロントパーソナルランプ（メインスイッチがＤＯＯＲの位置のとき）、ルームランプ（スイッチがＤＯＯＲの位置のとき）、エンジン スイッチ照明が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き自動的に消灯します。

バックドアの施錠・解錠のしかた

施錠・解錠のしかた

■施錠するときは

電子キーを携帯し、すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっている状態で、バックドアハンドルのロックスイッチを押します。

●すべてのドアの施錠ができます。

●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。

●必ず施錠作動したことを確認してください。

■解錠するときは

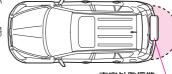
電子キーを携帯し、バックドアハンドル裏側のセンサー部に触れるようにドアハンドルを握ります。

●すべてのドアの解錠ができます。

●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。

車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。

●車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。電子キーが車内に閉じ込められる可能性があります。
●ドア施錠時に、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（約2m以内）に置かないでください。

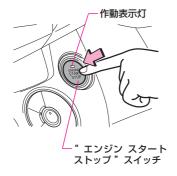
知 識

作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（バックドアハンドルから周囲約70cm以内）
●ドアガラスやバックドアハンドルに近づきすぎた場合などは作動しないことがあります。

検知エリア
バックドアハンドルから周囲約70ｃｍ以内

作動条件について

●車室外発信機（バックドアハンドル）の検知エリア内に電子キーを携帯して入ると、自動的にＩＤコードの照合を行い、照合が一致したときのみドアが解錠されます。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でバックドアロックスイッチを押すと、車室内外でIDコードの照合を行い、車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると、施錠されます。
- 車室外発信機（バックドアハンドル）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるとき、ドアガラスやドアハンドルに近づけ過ぎたときは正常に作動しない場合があります。
- 電子キーが車室外発信機（バックドアハンドル）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
- 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。

●電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのバックドアの施錠・解錠はできません。この場合は、P.152の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

知識

施錠・解錠について

●ロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
●施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。
●次のようなときは、ロックスイッチを押さないでください。ロックスイッチを押してもドアは施錠されず、半ドア警報（P.146参照）が鳴ります。
- いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているとき
- ドアの開閉中

●解錠するときは、バックドアハンドル裏側のセンサー部を確実に握り、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- ドアハンドル裏側のセンサー部以外に触れても解錠されません。
- 皮手袋、スキー手袋などを手に装着してドアハンドル裏側のセンサー部に触れた場合は、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。

- 他の車の電子キーや、電波を発信するような製品などを同時に携帯した場合、作動時間が通常よりも長くなることがあります。

●確実に解錠させるためには、電子キーが車室外発信機（バックドアハンドル）の検知エリア内に入ってから約3秒以内にドアハンドルを握ってください。約3秒を経過すると、作動しない場合があります。
●急な車室外発信機（バックドアハンドル）の検知エリア内への接近や急なドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
●電子キーが車室内発信機の検知エリア内（車両室内）にある場合でも、ワイヤレスドアロックリモコン（P.165参照）、メカニカルキー（P.152参照）、ドアロックスイッチ（P.158参照）での施錠はできますが、その後スマートエントリー & スタートシステムでの解錠はできません。
●解錠後、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。
●電子キーが車室外発信機（バックドアハンドル）の検知エリア内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに多量の水がかかるとスマートエントリー & スタートシステムが働き、ドアが解錠することがありますが、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り替え方

1 **電子キーを携帯し、運転席に座ります。**

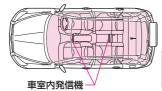
2 **ブレーキペダルを踏まずに “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。**

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すごとに、スイッチが
ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦ…
の順に切り替わります。

●アクセサリーモード、イグニッションＯＮモードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。

●イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦは車両が停止しているときに切り替わります。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを早く押すと、切り替わらないことがあります。目的のスイッチの状態になるまで、１回ごと確実に押してください。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリーモード	橙色	停止	シガレットライターなどの電装品が使用できます。
イグニッションＯＮモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。（メーターが点灯します。）
	消灯	回転中	すべての電装品が使用できます。通常運転中の状態です。

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードまたはアクセサリーモードのまま長時間放置しないでください。

●“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードまたはアクセサリーモードのまま長時間放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●炎天下で長時間車両を放置すると、“エンジン スタート ストップ”スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気をつけてください。
●車幅灯が点灯しても、エンジン スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

作動範囲について

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）
ただし、車外でもドアガラスに近づきすぎた場合などはエンジンの始動が可能となることがあります。

検知エリア
車両室内

作動条件について

●車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、“エンジン スタート ストップ”スイッチを切り替えることができません。この場合、スイッチを押すと、キーエリア外警報が鳴ります。（P.145参照）
●電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、グローブボックス内（P.334参照）などに置かないでください。“エンジン スタート ストップ”スイッチが切り替わらないことがあります。
●電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムで“エンジン スタート ストップ”スイッチを切り替えることはできません。この場合は、P.152の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
●電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
●車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを早押しした場合、スイッチが切り替わらないことがあります。

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより“ エンジン スタート ストップ ”スイッチが切り替わらないことがあります。（P.375参照）

便利機能について

オートＯＦＦ機能
シフトレバーがⓅにあるとき、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードにした状態で約1時間放置すると、バッテリーあがり防止のために、自動的にスイッチがＯＦＦになります。

車両バッテリー脱着時について

車両は常に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態（アクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモード）を記憶しているため、車両バッテリーを再接続したときは、電源が絶たれる前のスイッチの状態に復帰します。修理などで車両バッテリーをはずすときは、必ずスイッチをＯＦＦにしてから行ってください。
車両バッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前のスイッチの状態がわからないときは、とくに注意してください。

エンジン始動のしかた

1 **電子キーを携帯し、運転席に座ります。**

2 **ペダルの位置を確認します。**

正しい運転姿勢（P.182参照）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

3 **ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。**

4 **シフトレバーの位置を確認します。**

シフトレバーがⓅにあることを確認します。

●Ⓝでも始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

5 **ブレーキペダルをしっかり踏みます。**

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。

●緑色に点灯していないとエンジンは始動しません。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

6 ブレーキペダルを踏みながら“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押して、エンジンを始動します。

- ●完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
- ●エンジンが始動すると、作動表示灯は消灯します。
- ●ブレーキペダルを踏みながら“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押せば、どのスイッチの状態からでもエンジンを始動することができます。
- ●エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルを踏まずに“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押して、一度スイッチをＯＦＦにしたあと、ブレーキペダルをさらに強く踏みながらもう一度スイッチを押してください。
- ●クランキングホールド機能（P.142参照）が作動します。

エンジン停止のしかた

車両を完全に停止させ、シフトレバーをⓅに入れて“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。
スイッチがＯＦＦになり、エンジンが停止します。

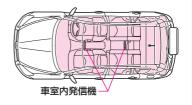
●シフトレバーがⓅ以外でエンジンを停止しないでください。万一、シフトレバーがⓅ以外でエンジンを停止した場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードになります。そのときは、シフトレバーをⓅに入れ、スイッチを２回押して、スイッチをＯＦＦにします。（確実に“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦになっていることを確認してください。）

⚠警告　車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。

●車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
●走行中は、“エンジン スタート ストップ”スイッチにさわらないでください。誤ってスイッチを押しつづけ、エンジンが停止すると、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンの始動操作をしたときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、絶対に車両を走行させないでください。ステアリングロックが解除されていないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意 "エンジン スタート ストップ"スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。

●"エンジン スタート ストップ"スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったんスイッチをOFFにすると、エンジンを再始動できなくなることがありますので、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けたりしないでください。ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させたあと、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●"エンジン スタート ストップ"スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●"エンジン スタート ストップ"スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
●"エンジン スタート ストップ"スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●炎天下で長時間車両を放置すると、"エンジン スタート ストップ"スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気をつけてください。
●車幅灯が点灯しても、エンジン スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

作動範囲について

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）
●車外でもドアガラスに近づきすぎた場合などはエンジンの始動が可能となることがあります。

エンジンの緊急停止について

走行中、"エンジン スタート ストップ"スイッチを約3秒以上押し続けると、エンジンを停止することができます。緊急時以外は走行中にエンジンを停止しないでください。
●"エンジン スタート ストップ"スイッチはアクセサリーモードになります。
●この状態ではオートOFF機能は作動しません。(P.137参照)

知識

作動条件について

●車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、エンジンを始動することはできません。この場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、キーエリア外警報が鳴ります。（P.145参照）
●電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、グローブボックス内（P.334参照）などに置かないでください。エンジンが始動できないことがあります。
●電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムでエンジンを始動することはできません。この場合は、P.152の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
●エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せず、“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷により、ステアリングロックが解除されていません。ハンドルを左右に動かしながら、ブレーキペダルを踏み、スイッチを押し直してください。
●エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンを始動できない場合があります。この場合は約10秒以上待ってから再びエンジンの始動操作をしてください。
●車両のバッテリーがあがっている場合はステアリングロックが作動しないので注意してください。
●電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
●車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを早押しした場合、エンジンが始動・停止しないことがあります。

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより、エンジンが始動しないことがあります。（P.375参照）

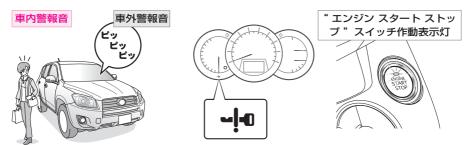
車両バッテリー脱着時について

●車両のバッテリー脱着後、“エンジン スタート ストップ”スイッチを一度押すだけではエンジンが始動しないことがあります。その場合は、もう一度スイッチを押してください。
●車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

クランキングホールド機能について

エンジン始動操作をしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大で約18秒間保持します。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約30秒間です。
約30秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

節電機能

車室外発信機の検知エリア内（フロントドア、バックドア）に長時間電子キーを放置していると、電子キーと車両が定期的に通信を行うため、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。
そのため、電子キーおよび車両のバッテリーあがりを防止するため、次のときはスマートエントリー & スタートシステムが自動で停止します。

●14日以上、電子キーから応答がないとき
●10分以上、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがあるとき

スマートエントリー & スタートシステムを復帰させるには、次のいずれかの操作を行ってください。

●車両に近づいて電子キーのワイヤレスドアロックリモコンスイッチを押す。
●フロントドアハンドル、またはバックドアハンドルのロックスイッチを押し、施錠操作をする。
●メカニカルキーを運転席ドアのキーシリンダーに差し込み、施錠または解錠操作をする。（P.152参照）

警報音・警告灯

スマートエントリー ＆ スタートシステムでは、予期せぬ車両の動き出し、車両盗難などをふせぐため、警報音や警告灯または、“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯の点滅で注意をうながします。
警報音が鳴ったり、メーター内のスマートエントリー ＆ スタートシステム警告灯が点灯したときは、必ず車両および電子キーの確認を行ってください。

■シフトレバーがⓅ以外での電源切り忘れ警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外、シフトレバーがⓅ以外で、運転席ドアを開けたとき

- 車内警報音 “ピー”と連続で鳴ります。

警報が鳴ったら、シフトレバーをⓅに入れてください。

■シフトレバーがⓅ以外での運転者のキー持ち出し警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転席ドアの開閉が行われ、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- 車内警報音 “ピー”と連続で鳴ります。
- 車外警報音 “ピー”と連続で鳴ります。
- スマートエントリー ＆ スタートシステム警告灯 点灯します。

警報が鳴ったら、シフトレバーをⓅに入れて、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしてください。

■シフトレバーがⓅでの運転者のキー持ち出し警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、運転席ドアの開閉が行われ、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- 車内警報音 “ピー”と鳴ります。
- 車外警報音 “ピッ、ピッ、ピッ”と鳴ります。
- スマートエントリー ＆ スタートシステム警告灯 点灯します。

警報が鳴ったら、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしてください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■スマートドアロックでの電源切り忘れ警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、すべてのドアを閉め、フロントドアハンドル、またはバックドアハンドルのロックスイッチを押して施錠しようとしたとき

● 車外警報音 “ピー”と約60秒間連続で鳴ります。

このとき、施錠することはできません。
警報が鳴ったら、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしてください。

■同乗者のキー持ち出し警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、運転席ドア以外のドアの開閉が行われ、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

● 車内警報音 “ピー”と鳴ります。
● 車外警報音 “ピッ、ピッ、ピッ”と鳴ります。
● スマートエントリー ＆ スタートシステム警告灯 点灯します。

警報が鳴ったら、降車した同乗者が電子キーを持っていないか確認してください。

■キーリマインダ警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードで、運転席ドアを開けたとき

● 車内警報音 “ピー、ピー、ピー”と連続で鳴ります。

警報が鳴ったら、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにして運転席ドアを閉めてください。

■キーエリア外警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

● 車内警報音 “ピー”と鳴ります。
● スマートエントリー ＆ スタートシステム警告灯 8秒間点灯します。

警報が鳴ったら、車室内の検知エリア内に電子キーがあるか確認してください。電子キーがある場合は、電子キーのバッテリー切れが考えられます。電子キーのワイヤレスドアロックリモコンスイッチを押して、電子キーのＬＥＤが点灯するか確認してください。点灯しない場合は、電子キーのバッテリーを交換してください。（P.416参照）

■キー置き忘れ警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、車内に電子キーを置いたまま、すべてのドアを閉め、フロントドアハンドル、またはバックドアハンドルのロックスイッチを押したとき

●車外警報音　“ピー”と2秒間連続で鳴ります。

このとき、施錠することはできません。

警報が鳴ったら、車内にある電子キーを携帯して、もう一度ドアロック操作をしてください。

知識

キー置き忘れ警報について

●電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、グローブボックス内（P.334参照）などに置いた場合、キー置き忘れ警報が鳴らないことがあります。

●電子キーが車外にあっても、ドアガラスやドアハンドルに近づけすぎた場合、キー置き忘れ警報が鳴ることがあります。

■キーバッテリー低下警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしてから約20分以上経過し、その後スイッチをＯＦＦにしたとき、電子キーのバッテリー電圧が低下していると判断したとき

●車内警報音　“ピー”と鳴ります。

警報が鳴ったら、電子キーのバッテリーを交換してください。（P.416参照）

■半ドア警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドア（バックドアを含む）が開いている状態で、フロントドアハンドルまたはバックドアハンドルのロックスイッチを押したとき

●車外警報音　“ピー”と10秒間連続で鳴ります。

警報が鳴ったら、すべてのドア（バックドアを含む）を閉めてから、もう一度ドアロック操作をしてください。

知識

半ドア警報について

ドア（バックドアを含む）を開閉するときにロックスイッチに触れると、半ドア警報が作動します。ドアを開閉するときはロックスイッチに触れないでください。

■ステアリングロック未解除警報

エンジン始動操作時、ステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかったとき

● “エンジン スタート ストップ” スイッチ作動表示灯 15秒間緑色に点滅します。

ハンドルを左右に動かしながら、エンジン始動操作をしてください。

■ステアリングロック異常警報／電源異常警報

ステアリングロックシステムまたは、電源システムの異常を検知したとき

● “エンジン スタート ストップ” スイッチ作動表示灯 橙色に点滅します。

すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。

■警報音および警告灯・表示灯の作動一覧表

車内警報音	車外警報音	スマートエントリー & スタートシステム警告灯	状　況
ピー （連続吹鳴）	―	―	**Ⓟ以外での電源切り忘れ警報（P.144参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転席ドアを開けた。
ピー （連続吹鳴）	ピー （連続吹鳴）	点灯	**Ⓟ以外での運転者キー持ち出し警報（P.144参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転者が電子キーを車外に持ち出した。
ピー （1回吹鳴）	ピッ、ピッ、ピッ （3回吹鳴）	点灯	**Ⓟでの運転者キー持ち出し警報（P.144参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、運転者が電子キーを車外に持ち出した。
―	ピー （約60秒間吹鳴）	―	**スマートドアロックでの電源切り忘れ警報（P.145参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、ロックスイッチを押した。
ピー （1回吹鳴）	ピッ、ピッ、ピッ （3回吹鳴）	点灯	**同乗者のキー持ち出し警報（P.145参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外のとき、同乗者が電子キーを車外に持ち出した。
ピー、ピー、ピー （断続吹鳴）	―	―	**キーリマインダ警報（P.145参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードのとき、運転席ドアを開けた。
ピー （1回吹鳴）	―	点灯 （8秒間）	**キーエリア外警報（P.145参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき、車室内のＩＤコード照合で、電子キーがないと判断した。
―	ピー （2秒間吹鳴）	―	**キー置き忘れ警報（P.146参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、電子キーを車内に置き忘れた状態でロックスイッチを押した。

車内警報音	車外警報音	スマートエントリー ＆ スタートシステム警告灯	状 況
ピー （1回吹鳴）	―	―	**キーバッテリー低下警報（P.146参照）** 電子キーのバッテリー電圧が低下した。
―	ピー （10秒間吹鳴）	―	**半ドア警報（P.146参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアが半ドアの状態または、フロントドア、バックドア開閉中、ロックスイッチを押した。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ作動表示灯	状況
緑色に点滅 （15秒間）	**ステアリングロック未解除警報（P.147参照）** エンジン始動操作時にステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかった。
橙色に点滅	**ステアリングロック異常警報／電源異常警報（P.147参照）** ステアリングロックシステムまたは、電源システムの異常を検知した。

こんなときは

ここでは、様々な「こんなときは」の場面を想定して、操作および対処方法の例を記載しています。スマートエントリー ＆ スタートシステムを扱ううえでの参考にしてください。

警報音が鳴っているときは／警告灯が点灯しているときは

P.144の「警報音・警告灯」を参照して該当する指示にしたがってください。

スマートエントリー ＆ スタートシステムが作動しないときは

以下のことを確認してください。

●電子キーが受信できない状況にある。（P.125参照）

●電子キーのバッテリー（電池）がない。（P.416参照）

●節電機能が働いている。（P.143参照）

ガソリンスタンドやお店などで車から離れるときは

“エンジン スタート ストップ” スイッチをＯＦＦにして、電子キーを携帯し、ドアを施錠してください。

●必ず施錠されていることを確認してください。

正規の別の電子キーを携帯した人が乗車するときは

スマートエントリー & スタートシステムでの解錠ができないときは、ワイヤレスドアロックリモコン（P.165参照）またはメカニカルキー（P.152参照）を使って解錠してください。

正規の別の電子キーを携帯した人が乗車しているときは

スマートエントリー & スタートシステムでの施錠ができません。
車外から施錠するときは、ワイヤレスドアロックリモコン（P.165参照）またはメカニカルキー（P.152参照）を使って施錠してください。

エンジン始動操作後に作動表示灯が緑色に点滅しているときは

エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せず“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷によりステアリングロックが解除されていません。
ハンドルを軽く左右にまわしながら、エンジン始動操作をしてください。

電子キーが正常に作動しないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（P.125参照）、電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステム、ワイヤレスドアロックリモコンが使用できなくなります。

運転席ドアの施錠・解錠のしかた

電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使用して、運転席ドアを施錠・解錠します。

■メカニカルキーの取り出し方

ノブのキーマークのある側を押しながら、メカニカルキーを取り出します。

■メカニカルキーの格納のしかた

メカニカルキーを図のように差し込みます。

知 識

メカニカルキーについて

●メカニカルキーを使用したときは、必ず電子キーに格納しておいてください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。

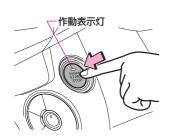
●メカニカルキーを使用する方法は一時的な処置です。電子キーの電池が切れたときは、直ちに電池を交換することをおすすめします。（P.416参照）

■メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた

運転席ドア

前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠、解錠が同時にできます。

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え方

“エンジン スタート ストップ”スイッチに電子キーの（トヨタマーク）のある面で触れることで、スイッチの切り替えが可能になります。
P.135の「“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え方」を併せてお読みください。

1 **ブレーキペダルをしっかり踏みます。**

2 **電子キーの（トヨタマーク）のある面で“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れます。**

電子キーを認識すると、ブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。

3 **電子キー認識後、約5秒以内にすべてのペダルから足を離して、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。**

“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すごとに、スイッチが

アクセサリーモード⇒イグニッションONモード⇒OFF

の順に切り替わります。

知識

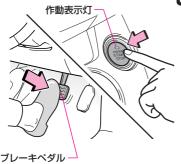
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り替えについて

●いったん “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにすると、スイッチを押してもスイッチの切り替えができません。もう一度はじめから操作してください。
●電子キー認識後、約5秒以上たってから “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押しても、スイッチは切り替わりません。もう一度はじめから操作してください。
● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに触れるスイッチの切り替え、エンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときはただちに電池を交換することをおすすめします。（P.416参照）

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ切り替え時の警報について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ切り替え時に、いずれかのドアを開閉すると、警報が鳴りますが異常ではありません。

エンジン始動のしかた

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチに電子キーの（トヨタマーク）のある面で触れることで、エンジンの始動が可能になります。
P.138「エンジン始動・停止のしかた」を併せてお読みください。

1 **ブレーキペダルをしっかり踏みます。**

2 **電子キーの（トヨタマーク）のある面で “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに触れます。**
電子キーを認識すると、ブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

3 **電子キー認識後、約5秒以内にブレーキペダルを踏んだまま“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押します。**

●ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンが始動しないようになっています。
●エンジンが始動すると、作動表示灯は消灯します。
●エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルを踏まずに“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押して、一度スイッチをＯＦＦにしたあと、ブレーキペダルをさらに強く踏みながら、もう一度電子キーで触れる操作から行ってください。

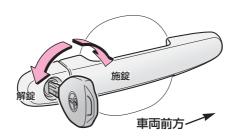
■エンジン停止のしかた

通常のエンジンの停止のしかたと同様です。（P.138参照）

知 識

エンジンの始動について

電子キー認識後、約5秒以上たってから“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押しても、エンジンは始動しません。もう一度はじめから操作してください。

エンジン始動時の警報について

エンジン始動時に、いずれかのドアを開閉すると、警報が鳴りますが異常ではありません。

ドア・ドアガラスなどの開閉

ドアの開閉

キーでの施錠・解錠のしかた （P.128参照）

運転席ドア

前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。
●運転席のみ施錠・解錠ができます。

知 識

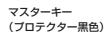
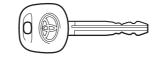
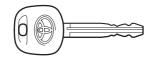
航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

知識

キーについて

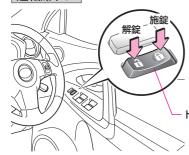
(P.124参照)

●キーはドアの施錠・解錠のほか、エンジンの始動・停止などに使用します。
●キーは3本あります。(キーの組み合わせは、車の仕様により、異なる場合があります。)

マスターキー
(ワイヤレスドアロックリモコン付き)

マスターキー
(プロテクター黒色)

サブキー
(プロテクター灰色)

●ワイヤレスドアロックのリモコンの操作についてはP.165を参照してください。
●サブキーではグローブボックスを施錠・解錠することはできません。
●マスターキーを紛失しないよう十分注意してください。マスターキーを紛失すると、キーの作製にコンピューターの交換が必要となります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
●キーを作るときは、トヨタ販売店にご相談ください。トヨタ純正品以外のキーを使用すると、キーがスムーズにまわらなくなるおそれがあります。
●万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

キーナンバープレートについて

(P.127参照)

お客様以外にキーナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

●キーナンバープレートは、車両以外の場所に大切に保管してください。
●万一、キーを紛失したときは、トヨタ販売店でキーナンバーからトヨタ純正品のキーを作ることができます。

スマートエントリー & スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

運転席ドア

スイッチの右側を押すと施錠、左側を押すと解錠されます。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠が同時にできます。

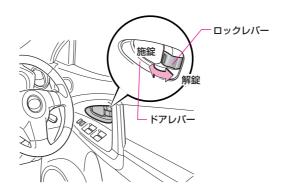
知 識

作動条件について

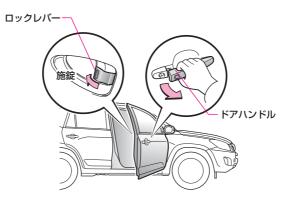
スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。
●ドアロックスイッチを押し続けると作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押し直してください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

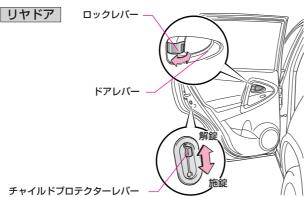
●エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。
●ドアロックスイッチを押し続けると作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押し直してください。

セキュリティ機能について

車両盗難などを防ぐため、ドアロックスイッチでの解錠作動を停止する機能です。
（窓枠とドアガラスのすき間からドアロックスイッチを押して解錠されるのを防止します。）
以下の方法で施錠したとき自動的に機能します。

●ワイヤレスドアロックリモコンスイッチを使っての施錠（P.165参照）
●ワイヤレスドアロックリモコンスイッチによる解錠操作後、ドアを開けなかったときの再施錠（P.167参照）
●スマートエントリー ＆ スタートシステムを使っての施錠（P.128参照）
●スマートエントリー ＆ スタートシステムによる解錠操作後、ドアを開けなかったときの再施錠（P.130参照）
●ロックレバーを使っての施錠（P.159参照）
●運転席ドアにキー（P.156参照）またはメカニカルキー（P.152参照）を差し込んでの施錠

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

ロックレバーを前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■車外からの施錠のしかた

ロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

知 識

便利機能について

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと、ドアが開きます。

チャイルドプロテクターの使い方

リヤドア

チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。
●車内のドアレバーで、リヤドアを開けることができなくなります。

知 識

チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のドアレバーの操作では、リヤドアが開かないように施錠できます。

チャイルドプロテクターが働いているときのドアの開け方

ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて開けます。万一、車内から開けるときは、ドアガラスを開け、ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて、開けます。

警告 走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中はドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
●お子さまにドアの操作をさせないでください。
- 閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

便利機能について

キー抜き忘れ防止チャイム

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

キーが“ LOCK ”または“ ACC ”の位置のとき、運転席ドアを開けると、キーの抜き忘れを警告するチャイムが“ピー、ピー、ピー”と鳴ります。
キーの閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

キー閉じ込み防止機能

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを開けた状態から、ドアロックスイッチやロックレバーにより施錠しようとしても施錠できません。

イルミネーテッドエントリーシステム (P.131参照)

ドアの開閉、解錠・施錠、エンジン スイッチ の状態と連動して、フロントパーソナルランプ（メインスイッチがDOORの位置のとき）・ルームランプ（スイッチがDOORの位置のとき）・エンジン スイッチ照明が点灯・消灯します。

- ●いずれかのドア（バックドアを除く）を開けると点灯し、すべてのドアを閉めると約15秒後に消灯します。※
- ●エンジン スイッチを“ LOCK ”にすると点灯し、約15秒後に消灯します。※
- ●エンジン スイッチが“ LOCK ”のとき運転席ドアを解錠すると点灯し、約15秒後に消灯します。※
- ●次のような場合は、ただちに消灯します。
  - ●すべてのドア（バックドアを除く）を閉め、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしたとき
  - ●エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にして、すべてのドア（バックドアを除く）を閉めたとき
  - ●すべてのドアを閉め、運転席ドアを施錠したとき

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.463の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

バッテリーあがり防止機能 (P.131参照)

エンジン スイッチにキーが差し込まれていない状態で、いずれかのドア（バックドアを除く）を開けたまま放置すると、バッテリーあがりを防止するため、フロントパーソナルランプ（メインスイッチがDOORの位置のとき）・ルームランプ（スイッチがDOORの位置のとき）・エンジン スイッチ照明が約20分後に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

知 識

施錠・解錠について

次の方法で施錠・解錠することもできます。
P.165「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」を参照してください。

乗車中の施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠、解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますので、選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉

●同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
●車外からの不意の侵入者を防ぎます。
●シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

〈乗車中、解錠している場合〉

●万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。

車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内の物を盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

バックドアの開閉

(P.132参照)

施錠・解錠のしかた

P.158の「ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた」、P.165の「ワイヤレスドアロックリモコンでの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

開閉のしかた

ドアハンドルを引いてドアを開けます。

●必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

警告

走行前にバックドア完全に閉まっていることを確認してください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

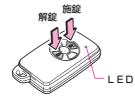
●お子さまを乗せているときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

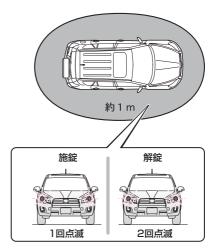
スマートエントリー & スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

●バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが急に閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。バックドアの重量が重くなると、開閉操作のさまたげとなるおそれがあります。

●バックドアを開けて駐停車するときは、車両後方に停止表示板、または停止表示灯を置いてください。バックドアが開いていると、非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方

ドアの施錠・解錠のしかた

電子キー

ワイヤレスドアロックリモコンキー

電子キー

スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が施錠されます。
スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。

- 施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。※
- 解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。※
- スイッチを押すと電子キーのＬＥＤが点灯します。
- スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
- スイッチを押して施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

ワイヤレスドアロックリモコンキー

スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が施錠されます。
スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。

- 施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅します。※
- 解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅します。※
- スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
- スイッチを押して施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.463の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

ワイヤレスドアロックリモコンを正常に作動させるために、以下の点にご注意ください。

- ワイヤレスドアロックリモコンは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となりますので、以下の点にご注意ください。
  - ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
  - 分解しないでください。
  - 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
  - 水にぬらさないでください。
- ワイヤレスドアロックリモコンは、微弱な電波を使用しています。次のような場合は、リモコンと車両間の通信をさまたげ、正常に作動しない場合があります。その場合はキーで操作してください。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき。
  - 無線機、携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき。
  - リモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき。
  - 複数のリモコンが近くにあるとき。
  - リモコンをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。
  - 近くでワイヤレスドアロックのリモコンを使用しているとき。

知 識

作動条件について

●ワイヤレスドアロックリモコンは、周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約1mまで近づいて操作してください。
●バックドアガラスに次のものを貼りつけると、車両後方からリモコンスイッチの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
- 金属を含有するウインドゥフィルム
- その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）

●スイッチはいずれかのドア（バックドアを含む）が開いているときは作動しません。スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車は、半ドア警報（P.146参照）が鳴ります。
●スイッチ、スイッチを押し続けても、ドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
●スイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは、自動的に施錠されます。（非常点滅灯が1回点滅します。）※
※この機能を変更することができます。詳しくは、P.463の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●リモコンスイッチは、エンジン スイッチにキーが差し込まれているときは作動しません。

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム (P.131参照)

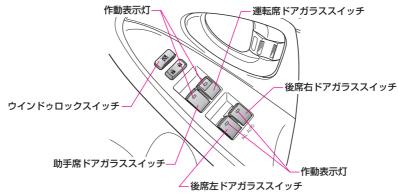
ドアの施錠・解錠などと連動して、フロントパーソナルランプ（メインスイッチがＤＯＯＲの位置のとき）・ルームランプ（スイッチがＤＯＯＲの位置のとき）・エンジン スイッチ照明が点灯・消灯します。詳しくはP.161を参照してください。

電池交換について

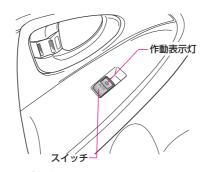
リモコンを操作しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。
●電池交換は、お客様自身で交換することができますが（P.416、418参照）、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

紛失について

キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

使用個数について

ワイヤレスドアロックリモコンキーは、同じ車両で最大5個まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

ドアガラスの開閉

パワーウインドゥの使い方

■運転席スイッチ

運転席スイッチですべてのドアガラスの開閉が行えます。

■助手席スイッチ・後席スイッチ

自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ドアガラスの開閉のしかた

スイッチを下に押している間は開き、上に引いている間は閉まります。
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■ドアガラスの自動開閉のしかた

●全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。
　途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。
●全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。
　途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。

知識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。ただし、助手席スイッチ、後席スイッチはウインドゥロックスイッチがＯＮになっているときは作動しません。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。
ただし、助手席スイッチ、後席スイッチはウインドゥロックスイッチがＯＮになっているときは作動しません。

安全機能について

挟み込み防止機構

ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き、止まります。

●挟み込み防止機構はキーＯＦＦ後作動によりドアガラスを閉めているときも作動します。
●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

パワーウインドゥを閉めることができないときは

挟み込み防止機構が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドゥスイッチで、下記の操作を行ってください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●車を停止し、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッションＯＮモードの状態で、パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●車を停止し、エンジンスイッチを“ ＯＮ ”の状態で、パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機構の初期化を次の手順で実施してください。

1 **パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを6秒間引き続けます。**

2 **パワーウインドゥスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを2秒間押し続けます。**

3 **再度、パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを2秒間引き続けます。**

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

便利機能について

キーＯＦＦ後作動機能

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

ドアガラスは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードからアクセサリーモード、またはＯＦＦにしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。

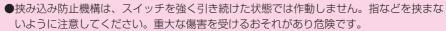
●キーＯＦＦ後作動が機能しているときは、各スイッチの作動表示灯が点灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

ドアガラスは、エンジン スイッチを “ ＯＮ ” から “ ＡＣＣ ” または “ ＬＯＣＫ ” にしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。

●キーＯＦＦ後作動が機能しているときは、各スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドゥロックスイッチの使い方

ウインドゥロックスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。
スイッチをＯＮにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥは作動しません。

●スイッチをＯＮにすると、運転席ドアガラススイッチ以外のドアガラススイッチの作動表示灯が消灯します。

ウインドゥロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席・後席スイッチ
ＯＮ	運転席ドアガラスの開閉ができます。	開閉できません。
ＯＦＦ	すべてのドアガラスの開閉ができます。	開閉できます。

⚠警告　走行中は窓から手や顔を出さないでください。

●走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

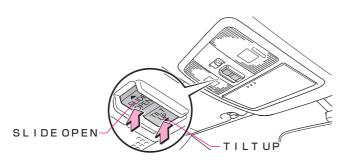
●ドアガラスを開けるときや閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこまれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると、閉めることができます。

注意　運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

ムーンルーフの開閉★

スライド開閉のしかた

■開けるときは

ムーンルーフが閉まっているとき、スイッチのＳＬＩＤＥ ＯＰＥＮ側を押すとムーンルーフが自動で全開します。

●作動を途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。

●スイッチを押しすぐ手を離すと、ルーフを少し開けることができます。

■閉めるときは

ムーンルーフがスライドオープンしているときは、スイッチのＴＩＬＴ ＵＰ側を押すとムーンルーフが自動で全閉します。

●作動を途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。

●スイッチを押しすぐ手を離すと、ルーフを少し閉めることができます。

チルトアップ／ダウンのしかた

■チルトアップするときは

ムーンルーフが閉じているとき、スイッチのＴＩＬＴ ＵＰ側を押すと、自動でチルトアップします。

●作動を途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。

●スイッチを押しすぐ手を離すと、ルーフを少しチルトアップすることができます。

■チルトダウンするときは

ムーンルーフがチルトアップしているとき、スイッチのＳＬＩＤＥ ＯＰＥＮ側を押すと、自動でチルトダウンします。

●作動を途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。

●スイッチを押しすぐ手を離すと、ルーフを少しチルトダウンすることができます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

⚠警告　走行中はムーンルーフから手や顔を出さないでください。またムーンルーフを閉めるときは他の人の手・頭・首などを挟まないようにしてください。

●走行中はムーンルーフから手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ムーンルーフを閉めるときやチルトダウンするときは、他の人の手・頭・首などを挟まないように注意してください。ムーンルーフに挟まれて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構を故意に作動させるために、手などを挟んだりしないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ムーンルーフを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまにムーンルーフの操作をさせないでください。閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●開口部に腰かけないでください。ルーフがへこんだり、万一のとき車から投げ出され、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ムーンルーフから荷物がはみ出すと、車外のものに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ムーンルーフから荷物がはみ出さないようにしてください。車外のものに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●車から離れるときや、洗車時には完全に閉まっていることを確認してください。また、ムーンルーフ上に水や雪がないことを確認してから開けてください。水や雪が室内に入り、オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると、火災や故障の原因となるおそれがあります。

●ムーンルーフが全開、全閉したあとにスイッチを押し続けないでください。ムーンルーフの故障の原因となります。

●故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、ムーンルーフを自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けると、閉めることができます。

知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

サンシェードについて

●手動で開閉できます。
●ムーンルーフを開けると連動して開きます。

全開前停止機能について

ムーンルーフを自動で開けると、全開前にいったん作動を停止します。この位置で走行すると、全開状態に比べて、風切音が小さくなります。

安全機能について

挟み込み防止機構

ムーンルーフを自動でスライドさせて閉めるときと、自動でチルトダウンさせて閉めるときに、ルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動を停止し自動で少し開き止まります。

●環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃や過重がムーンルーフに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。
●万一、故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、ムーンルーフを自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けると、閉めることができます。

便利機能について

キーＯＦＦ後作動

スマートエントリー & スタートシステム装着車

ムーンルーフは“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにしたあとでも約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ムーンルーフは開閉できなくなります。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

ムーンルーフはエンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”にしたあとでも約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ムーンルーフは開閉できなくなります。

ディフレクターについて

ムーンルーフを自動でスライドさせて開けると、室内への風の巻き込みを防ぐディフレクターが自動的に上昇します。

知識

反転して閉じ切らない場合の復帰操作について

下記の操作を行ってください。

■スライドクローズ時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止します。

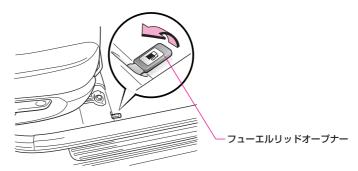
2 スイッチの“ＴＩＬＴ ＵＰ”側を押し続けます。※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10秒間停止します。※2その後再び閉じ、チルトアップし、1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離します。

■チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

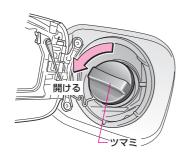
1 車を停止します。

2 スイッチの“ＴＩＬＴ ＵＰ”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にします。その後スイッチから一度手を離し、再度“ＴＩＬＴ ＵＰ”側を押し続けます。※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で10秒間停止し、※2微調整後1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離します。

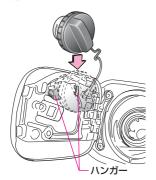
※1途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※210秒間停止した後にスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“ＴＩＬＴ ＵＰ”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

フューエルリッドの開閉

運転席右下にあるフューエルリッドオープナー（ ）を引くと開きます。
閉めるときは、フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで閉めます。

フューエルキャップの開閉

■開けるときは
キャップのツマミを持ち、左にまわして開けます。

■閉めるときは
キャップのツマミを持ち、“カチッ”と音がするまで右にまわして閉めます。

フューエルキャップの置き場所

給油中は、フューエルキャップをハンガーにかけておきます。

⚠ 警告　燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、燃料に引火して、やけどなどの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコなど火気を近づけないでください。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。その音が止まってからゆっくり開けてください。
- 給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください。（再帯電することがあります）
- 給油口には静電気除去を行ったかた以外の人を近づけないでください。
- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。
- 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

●給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものがありますので、ご注意ください。

指定以外の燃料を使用しないでください。

●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
●指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。
●給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。

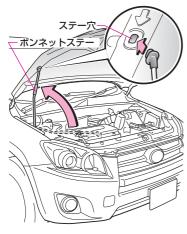
フューエルリッドの位置について

フューエルリッド（燃料補給口）は助手席側車両後方にあります。

燃料タンク容量について

燃料タンク容量は約60Ｌです。

ボンネットの開閉

開け方

1 ボンネットオープナーを引きます。

運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

2 ボンネットフックをはずします。

ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押し上げ、ボンネットフックをはずして、ボンネットを持ち上げます。

3 ボンネットステーを差し込みます。

ボンネットステーをステー穴に差し込んでボンネットを支えます。

閉め方

1 ボンネットステーをはずします。

ボンネットステーをはずし固定します。

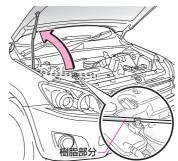
2 ボンネットを閉めます。

ボンネットを約20～25cmの位置から静かに落として閉めます。

3 ロックされていることを確認します。

ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
- ●ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意 **ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。**

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●長時間走行したあとにボンネットを開けるときは、ボンネットステーの樹脂部分を持ってステー穴に差し込んでください。樹脂部分以外を持つと、ステーが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢が取れるように、次の事項に注意してシートを調整します。

警告	走行中は運転席シートの調整をしないでください。

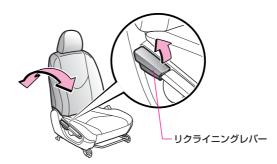
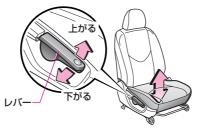
- 走行中は運転席シートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動くなどして、運転を誤り、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因となります。
- 背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告　ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、必ず次のことをお守りください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。
- フロントシート表皮の張り替えやフロントシートの取りつけ・取りはずし・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造などはしないでください。
- フロントシート側面などＳＲＳサイドエアバッグ展開部を強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  ＳＲＳサイドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

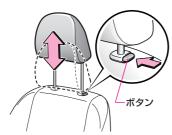
注意　シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

●シートを調整するときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
●室内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などに当たり、けがをするおそれがありますので、十分に注意して行ってください。

フロントシートの調整

シート調整のしかた

■前後位置調整

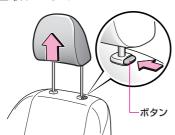
レバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

■リクライニング調整

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

■運転席シート全体の上下調整

レバーを上または下に動かすごとに、シート全体の高さがかわります。

ヘッドレスト調整、取りはずしのしかた

■上下調整

- ●上げるときは、そのまま引き上げます。
- ●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。

必ずヘッドレスト中央が耳の後方になるよう調整してください。

■取りはずし

ボタンを押したまま引き抜きます。

アクティブヘッドレスト

背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

助手席に荷物を積み重ねたりしないでください。

- 助手席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中は前後位置調整をしないでください。
  急ブレーキをかけたときなどにシートが突然大きく移動し、放り出されたり、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッドレストはフロントシート専用です。取りつけるときは“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。他のヘッドレストを間違って取りつけると固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認してください。

背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。

- 背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- 背もたれの調整をするときは、リクライニングレバーをいっぱいまで引き上げたまま背もたれを調整してください。レバーをいっぱいまで引き上げずに調整すると、リクライニング機構の故障の原因となります。

アクティブヘッドレストについて

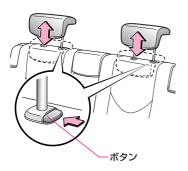
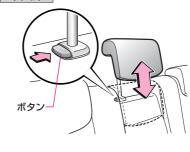
背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

リヤシートの調整

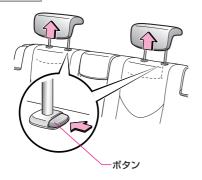
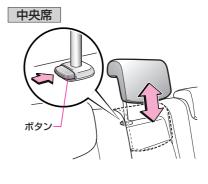
シート調整のしかた

■前後位置調整

レバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

■リクライニング調整

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

ヘッドレストの使いかた、取りはずしのしかた

■使いかた

左右席

中央席

●使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。
●格納するときは、ボタンを押したまま押し下げます。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■取りはずし

左右席

中央席

ボタンを押したまま引き抜きます。

アームレストの使い方

●使用するときは、ツマミを手前に引きながらアームレストを一番下まで倒します。
●カップホルダーがあります。（P.327参照）

■格納するときは
アームレストを起こして、うしろに押さえつけます。
●アームレストを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

警告 後席に荷物を積み重ねたりしないでください。

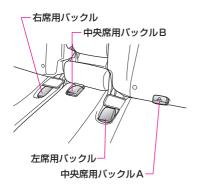
●後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●リヤシートを操作するときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中は前後位置調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときなどにシートが突然大きく移動し、放り出されたり、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●リヤシートのヘッドレストはリヤシート専用です。取りつけるときは“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。他のヘッドレストを間違って取りつけると固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。
●ヘッドレストを使用するときは、固定されていることを確認してください。

注意 背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。

●背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
●背もたれの調整をするときは、リクライニングレバーをいっぱいまで引き上げたまま背もたれを調整してください。レバーをいっぱいまで引き上げずに調整すると、リクライニング機構の故障の原因となります。
●リヤシートをリクライニングさせるときは、ラゲージルーム内にある荷物に当てないようにしてください。荷物を損傷するおそれがあります。

リヤフラットスペースの作り方

リヤシートを前倒しすることで、リヤフラットスペースを作ることができます。

リヤフラットスペースを作るまえに

リヤフラットスペースを作るときは、車両を安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかけます。

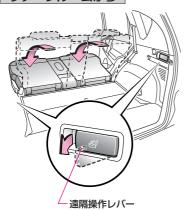
リヤフラットスペースを作るときは、必ず平坦な場所でシフトレバーを🅟に入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●リヤフラットスペースを作るときは、必ず平坦な場所でシフトレバーを🅟に入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

前倒しするときは

1 リヤ中央席のシートベルトを分離（P.200参照）し、バックルを格納します。

運転席側のみ前倒しする場合は、分離する必要はありません。

2 リヤ左右席のシートベルトをベルトハンガーに挟みます。

3 リヤシートヘッドレストを一番下まで下げます。
（P.187参照）

4 リヤアームレストを格納します。
（P.188参照）

5 スライドレバーを引きながらリヤシートを車両後方いっぱいまで移動します。
（P.187参照）

室内から

ラゲージルームから

6 **背もたれを前方に倒します。**

●室内から倒すときは、リクライニングレバーを引きながら、背もたれを前方に倒します。

●ラゲージルームから倒すときは、遠隔操作レバーを引いて、背もたれを前方に倒します。

もとにもどすときは

1 背もたれを起こし、固定します。

“カチッ”と音がするまで背もたれを起こします。

2 シートが固定されていることを確認します。

シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

警告　走行中はシートの操作を行わないでください。

●走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを操作したときは、シートが確実にロックされたことを確認してください。シートが確実に固定されていないと、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背もたれに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもとにもどしたときは、軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、ラゲージルーム内のものが飛び出すなど、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

注意　シートを操作するときは同乗者や荷物に当てないように注意してください。

●シートを操作するときは同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物を破損したりするおそれがあります。
●ラゲージルームからリヤシートを倒すときは、同乗者や荷物がないことを確認して操作してください。同乗者や荷物にシートが当たるなどして同乗者がけがをしたり、荷物を破損したりするおそれがあります。
●シートを操作しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手や足を近づけないでください。指や手、足を挟みけがをするおそれがあります。
●リクライニングレバーを操作するときは、リクライニングレバーとシートのすき間に指や手を挟まないように注意してください。けがをするおそれがあります。

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

肩部ベルト
肩に十分かけること。（首にかかったり、肩からはずれないこと。）

背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座ること。

ねじれていないこと。

腰部ベルト
必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること。

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ふくらむＳＲＳエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。
正しい姿勢については、Ｐ.182を参照してください。
- 肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
- シートベルトは１人用です。２人以上で１本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに身体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。

⚠警告　必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷ついた場合、十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 妊娠中の女性も必ずシートベルトを着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）
  - 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
  - ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 疾患のあるかたも必ずシートベルトを着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）

警告 必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまは、ベビーシートを使用してください。なお、子供専用シートについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷のついたシートベルトは、使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると、衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

シートベルトの着用のしかた

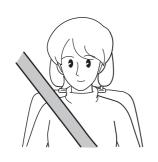
フロントシート、リヤシート左右席

3点式シートベルトの脱着のしかた

1 シートベルトを引き出します。

プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認します。

シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

2 プレートをバックルに差し込みます。

プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

フロントシートベルトは、シートベルト非着用警告灯（P.278、279）が消灯したことを確認してください。

3 腰部ベルトを密着させます。

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。

4 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。

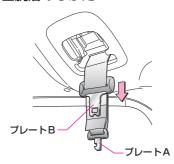
5 フロントシートでは、ベルトの高さを調整します。

アジャスタブルシートベルトアンカーでベルトの高さを調整します。
調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

- ●上げるときはアンカー部を持ち、そのまま動かします。
- ●下げるときは、ロックボタンを押したままアンカー部を動かし、最適な位置に調整します。

“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

6 はずすときは、バックルのボタンを押します。

警告

シートベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。

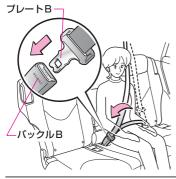
●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

分離格納式シートベルト

リヤシート中央席

■脱着のしかた

1 シートベルトを引き出し、ねじれていないことを確認します。

シートベルトが固定されたまま引き出せないときは、一度ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

2 バックルAを引き出します。

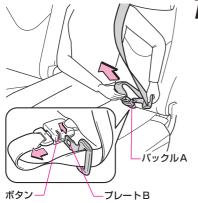
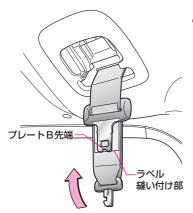
助手席側シートの背もたれ下部内側に収納されているバックルAを引き出します。

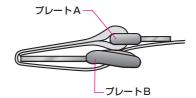
3 プレートAを"カチッ"と音がするまでバックルAに差し込みます。

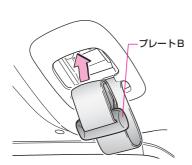
4 プレートBを"カチッ"と音がするまでバックルBに差し込みます。

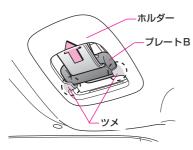
5 腰部ベルトを密着させます。

腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。

6 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。

7 はずすときは、バックルBのボタンを押します。

■分離・格納のしかた

1 **プレートAをバックルAからはずします。**

バックルAのボタンをプレートBやキーなどを使って押し込んで、プレートAのロックを解除します。

2 **シートベルトを折り畳みます。**

シートベルトを巻き取らせ、プレートB先端をラベル縫い付け部に合わせてベルトを折り畳み、下図のようにプレートAとプレートBを重ねます。

3 **シートベルトを格納します。**

プレートAとプレートBを重ねたまま、ホルダーに格納します。

●プレートBの両端がホルダーのツメ部分に確実におさまっていることを確認します。

分離格納式シートベルトを使用するときは、必ずプレートAとバックルAを結合してください。結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

分離格納式シートベルトを格納するときは、プレートを確実に差し込み、固定してください。正しく格納していないと、走行中にプレートが飛び出し、乗員に当たるなどしてけがをするおそれがあります。

＊本文中の「A」「B」は実物のプレートとバックルには表示されていません。

子供専用シート

子供専用シートについて

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0	：10kgまで
グループ0⁺	：13kgまで
グループⅠ	：9〜18kg
グループⅡ	：15〜25kg
グループⅢ	：22〜36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取りつけ器具の記号になります。

ベビーシート

ECE R44 基準のグループ0、0^+に相当

チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ0^+、Ⅰに相当

ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取りつけ）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kgまで）	×	U	L※
0+（13kgまで）	×	U	L※
I（9～18kg）	前向き UF うしろ向き ×	U	L
II（15～25kg）	UF	U	L
III（22～36kg）	UF	U	L

●上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」「準汎用」カテゴリーの子供専用シートにも適しています。）

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

※：NEO G-Child ISO tetherを使用する場合はヘッドレストを最上段位置にて使用して下さい。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認下さい。

子供専用シートのリスト

■リヤシート

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0（10kgまで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
0（10kgまで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
0^{+}（13kgまで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
0^{+}（13kgまで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅰ（9～18kgまで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ（15～25kgまで）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用
Ⅲ（22～36kgまで）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX対応トップテザーアンカーでの取りつけ）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISOFIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kgまで）	E	ISO/R1	IL
0+（13kgまで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9～18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15～25kg）		（1）	×
Ⅲ（22～36kg）		（1）	×

●上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（AからG）のない子供専用シートの各シート位置でのISOFIX対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認下さい。

ISOFIX子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX子供専用シート	カテゴリー
0（10kgまで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 G-Child ISO BABY	準汎用
0+（13kgまで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

警告　子供専用シートを使用しない場合もシートに適正にしっかりと取りつけた状態にしてください

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてしてください。ゆるめた状態で置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から取りはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

知識

ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されているISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44に適合している子供専用シートの取りつけ専用です。それ以外のものを使用することはできません。

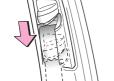
子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●体が十分に大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

シートベルトで取りつけるタイプの子供専用シートの選択について

P.206の「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」を参照し、子供専用シートの取りつけ可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

助手席に子供専用シートを取りつけるときは

やむを得ず助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取りつけてください。

●背もたれを直立状態にする。

●シートをいちばんうしろに下げる。

●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる。

キャリコットについて

キャリコットは横向きに取りつけることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シートの製造業者または販売業者にお尋ねください。

知識

ECE R44適合のISOFIX対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（P.208参照）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から該当する「質量グループ」を確認します。

（例1）：体重が12kgの場合、質量グループは「0+」になります。

（例2）：体重が15kgの場合、質量グループは「Ｉ」になります。

2 サイズ等級を選択します。

手順 **1** で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

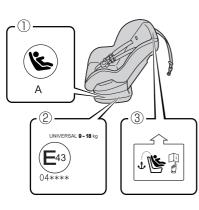
（例2）：質量グループが「Ｉ」の場合、「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両ISOFIX位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、ISOFIX子供専用シートのリスト」（P.209参照）で指定されている製品を使用してください。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認します。

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※ 表示されている位置・記号などは商品により異なります。

①ISOFIX対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります。）

手順 **2** で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

②汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSALは汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

③トップテザー（P213参照）を示すマーク

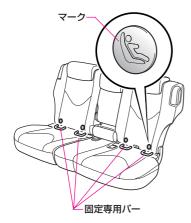
商品の取りつけ装置の位置により、意匠は異なります。

知識

ISOFIX対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

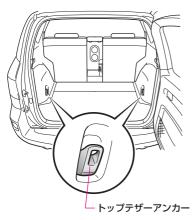
A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き幼児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

チャイルドシートの固定

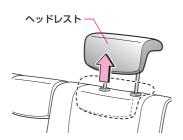
ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーでの固定

リヤシート左右席

ＩＳＯ※ＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーには、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカー対応のチャイルドシート・ベビーシートのみ取りつけることができます。お子さまに最適な子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

※ International Organization for Standardizationの略で「国際標準化機構」の意味。

取りつけ位置について

■ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バーの取りつけ位置

シートクッションと背もたれの間にあります。

●固定専用バーが装備されていることを示すマークがシートについています。

■トップテザーアンカーの取りつけ位置

リヤシートうしろ側（デッキサイド）にあります。

取りつけるときは

1 助手席側に取りつけるときは、中央席シートベルトを格納します。（P.200参照）

2 リヤシートの前後位置調整を一番うしろまで移動させます。（P.187参照）

3 リヤシートのヘッドレスト“カチッ”と音がするところまで引き上げます。
ヘッドレストが固定されていることを確認してください。

4 ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーの位置を確認します。（前ページ参照）

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

5 子供専用シート（チャイルドシート、ベビーシート）をリヤシートに取りつけます。

適合する子供専用シートの取りつけ金具を、固定専用バーに取りつけます。次にテザーベルトをトップテザーアンカーに取りつけます。

＊取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

●シートの背もたれおよびシートクッションと子供専用シートとの間にすき間ができないように、シートの背もたれの角度を調整してから取りつけてください。

●テザーベルトがねじれないように下図のようにヘッドレストの間に通し、テザーフックを車両側トップテザーアンカーに掛けます。

●テザーベルトがピンと張るまでA部を強く引っ張って、子供専用シートを固定します。

■子供専用シートの取りつけ例

※ イラストは説明のためのものであり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。

6 確実に固定されていることを確認します。

取りつけた子供専用シートを軽くゆさぶり、確実に取りつけられていることを確認します。

⚠警告　子供専用シートが固定されていることを必ず確認してください。

●子供専用シートを取りつけるときは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●子供専用シートを取りつけるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力を掛けてください。テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ヘッドレストを上げた状態で子供専用シートを取りつけるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上にかけると、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

警告　トップテザーアンカーで子供専用シートを固定するときは、次のことをお守りください。

●ヘッドレストを上げた状態で子供専用シートを取りつけるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。
ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどに子供専用シートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

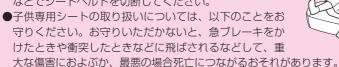
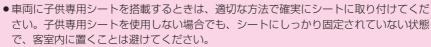
シートベルトでの固定

取りつけるときは

チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込みます。
その際ベルトがねじれていないことを確認します。

- チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。
  - P.48の「子供専用シートについての注意」もあわせてお読みください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定します。

- ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取りつけたあとはチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

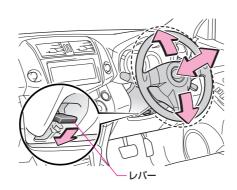
※ イラストは説明のためのものであり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。

⚠警告　**子供専用シートの取りつけは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、正しく取りつけてください。**

●正しく取りつけられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。お子さまがシートベルトで遊んで万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

道路運送車両の保安基準に適合するＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー対応のトヨタ純正子供専用シートは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。
（ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーについては、P.213を参照してください。）

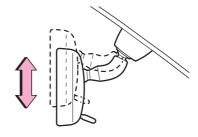
ハンドル・ミラーの調整

ハンドルの調整

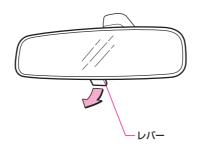
レバーを押し下げ、ハンドルを上下、前後に動かし適切な位置にして、レバーを引き上げると固定されます。

警告　走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

●走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意　ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、ホーンが鳴らない場合があります。

知 識

パワーステアリングの作動音について

ハンドル操作を行ったとき、“ウィーン”という音が聞こえることがあります。これは、パワーステアリングが作動しているときの音で異常ではありません。

インナーミラーの調整

上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整します。

防眩切り替えのしかた

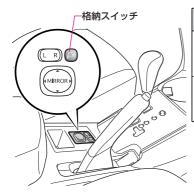
通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。
後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。

警告	走行中は、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ドアミラーの調整

鏡面角度調整のしかた

1 **調整する側のメインスイッチを押します。**

R…右側ドアミラー
L…左側ドアミラー

2 **角度を調整します。**

位置調整スイッチでミラーの角度を調整します。

3 **メインスイッチを中立にします。**

調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

格納のしかた

	スイッチの状態	ミラーの状態
ＯＮ（格納）		
ＯＦＦ（復帰）		

格納スイッチを押すごとに、ＯＮ（格納）とＯＦＦ（復帰）に切り替わります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦのときは、手で格納・復帰させることもできます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

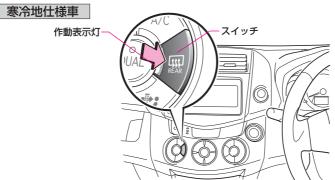
エンジン スイッチが “ ＬＯＣＫ ” のときは、手で格納・復帰させることもできます。

走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。

- 走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーが動いているときは手を触れたりしないでください。手を挟んでけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因となるおそれがあります。

知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッションONモードのとき使用できます。
- ドアミラー格納作動中に“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにすると、格納作動が停止します。
- 次の場合は、ドアミラーを手で格納・復帰してもドアミラーは格納スイッチの状態にもどります。
  - “エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッションONモードのとき。
  - 手動で操作したあとに、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッションONモードにしたとき。
- 格納スイッチがOFF（復帰）の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッションONモードにしてもドアミラーは復帰しません。
  一度格納スイッチをON（格納）にしてから、再度格納スイッチをOFFにして復帰させてください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき使用できます。
- ドアミラー格納作動中にエンジン スイッチを“LOCK”にすると、格納作動が停止します。
- 次の場合は、ドアミラーを手で格納・復帰してもドアミラーは格納スイッチの状態にもどります。
  - エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき。
  - 手動で操作したあとに、エンジン スイッチを“ACC”または“ON”にしたとき。
- 格納スイッチがOFF（復帰）の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、エンジン スイッチを“ACC”または“ON”にしてもドアミラーは復帰しません。
  一度格納スイッチをON（格納）にしてから、再度格納スイッチをOFFにして復帰させてください。

ミラーヒーターの使い方

寒冷地仕様車

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

警告

作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手を触れないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

注意

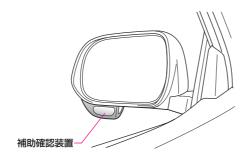
連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

知 識

ミラーヒーターについて

●ドアミラーの鏡面を暖めて、霜、露、雨滴などを取り除きます。
●ミラーヒーターと同時にリヤウインドゥデフォッガー（P.291）も作動します。

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

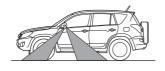
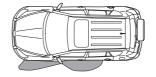
スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき使用できます。

補助確認装置

補助確認装置が助手席側ドアミラー下部にあります。

後方の確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用して十分行ってください。

●後方の確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用して十分行ってください。
●補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れを拭き取ってください。

知 識

補助確認装置について

発進時またはごく低速時に左側車両側面を確認するときに役立ちます。
●ミラーの鏡面は固定式ですので鏡面を動かしてミラーの調整をすることはできません。

ミラーに映るおよその範囲

※身長・シート位置により、確認できる範囲は異なります。

エンジンのかけ方

エンジン スイッチの切り替え方

(P.135参照)

エンジン スイッチにキーを差し込み、キーをまわして切り替えます。

●キーを抜くときはキーを“ＬＯＣＫ”の位置にしてから引き抜きます。

エンジンスイッチの位置	エンジンの状態	各状態の働き
LOCK	停止	電装品が停止している状態です。 キーの抜き差しができる位置です。 キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC	停止	シガレットライターなどの電装品が使用できます。
ON	停止	すべての電装品が使用できます。
	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。
START	始動	エンジンを始動する位置です。 キーを離すと“ＯＮ”の位置にもどります。

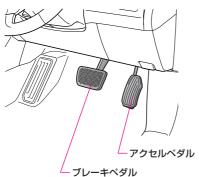
エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”から“ＡＣＣ”にするときは

ハンドルロックがかかっていてキーがまわしにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらキーをまわします。

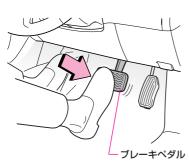
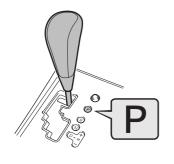
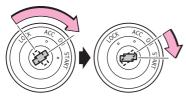
エンジン スイッチを“ＡＣＣ”から“ＬＯＣＫ”にするときは

シフトレバーをⓅにしてから、キーを押しながらまわします。

エンジン停止時は、エンジン スイッチを“ＯＮ”または“ＡＣＣ”のまま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。

スマートエントリー & スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

エンジン始動・停止のしかた

（P.138参照）

エンジン始動のしかた

1 **ペダルの位置を確認します。**

正しい運転姿勢（P.182）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

2 **ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。**

3 **シフトレバーの位置を確認します。**

シフトレバーがⓅにあることを確認します。

- Ⓝでも始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

4 エンジンを始動します。

アクセルペダルを踏まずにキーを“ＳＴＡＲＴ”にまわします。

●エンジン始動操作をしてもエンジンが始動しない場合は、一度キーを“ＬＯＣＫ”の位置にしてから再度エンジン始動操作をしてください。

エンジン停止のしかた

キーを“ＡＣＣ”または“ＬＯＣＫ”の位置にまわします。

警告　車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

●車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

●走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●走行中はエンジンスイッチを“ＬＯＣＫ”にしないでください。緊急時は走行中にエンジンを切り“ＡＣＣ”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

盗難防止システムについて

盗難防止システム（P.375参照）により、エンジンがかからないことがあります。

シフトレバーの使い方

Super CVT－i

シフトレバーの働き

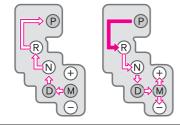
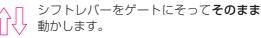
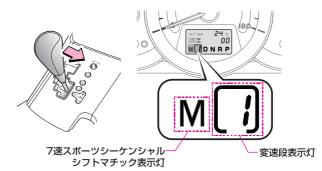
駐車およびエンジン始動
駐車のときは、必ずこの位置にしてください。（スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車はⓅでのみエンジン スイッチからキーが抜けます。）

シフトロック解除ボタン（P.233参照）

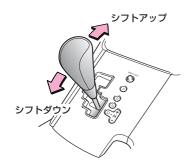
後退
ギヤが後退に固定されます。
ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。

動力が伝わらない状態
この位置でもエンジンは始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

通常走行（前進）
スピードとアクセルの踏み加減に応じて変速します。

7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行（前進）
7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードになります。（P.230参照）

シフトレバーの取り扱い

■**シフトレバーの操作**
ⓅとⒹの間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かします。

シフトレバーをゲートにそって**そのまま**動かします。

7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードの使い方

■7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードへの切り替え方

シフトレバーをⓂにすると、7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードになり、シフトレバーを＋側または－側に操作することによって、変速段を切り替えることができます。

●7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードにすると、7速スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯します。（P.253参照）

●シフトレバーをⒹにすると、7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードが解除され、通常の制御にもどります。

■シフトチェンジのしかた

シフトアップするときは、シフトレバーを＋側に動かします。

シフトダウンするときは、シフトレバーを－側に動かします。

●シフトレバーを操作するごとに、1段ずつ変速します。

1 ⇄ 2 ⇄ 3 ⇄ 4 ⇄ 5 ⇄ 6 ⇄ 7（→ ⊕、← ⊖）

●1～7の間で選択されている変速段が変速段表示灯に表示されます。（P.253参照）

■各変速段の働き

M 7	変速段がM7に固定されます。
M 6	変速段がM6に固定されます。
M 5	変速段がM5に固定されます。
M 4	変速段がM4に固定されます。
M 3	変速段がM3に固定されます。
M 2	変速段がM2に固定されます。
M 1	変速段がM1に固定されます。

知 識

7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードの変速段について

- M1以外で走行したあと、停車すると自動的にM1へシフトダウンされます。停車後、走行するときはM1からの発進となります。
- 停車時はM1に固定されます。

警告ブザーについて

安全のため、または走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、希望する変速段にシフトされない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

知識

システムの異常ついて

シフトレバーをⓂにしても、7速スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯しないときは、システムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーをⒹにしているときと同じ制御になります。

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをⓅからレバー操作できません。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはＯＦＦのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

●Ⓡにするとブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
（車外の人に対する警告音ではありません。）

●シフトレバーがⓅ以外では“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにすることはできません。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにするときは、シフトレバーをⓅに入れてください。Ⓟ以外でスイッチを押すとアクセサリーモードになります。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをⓅからレバー操作できません。
- エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＬＯＣＫ”のときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

●Ⓡにするとブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
（車外の人に対する警告音ではありません。）

●シフトレバーがⓅ以外ではエンジン スイッチからキーを抜くことはできません。
- エンジン スイッチからキーを抜くときは、シフトレバーをⓅに入れてください。
Ⓟ以外ではキーを“ＡＣＣ”から“ＬＯＣＫ”の位置にまわせません。

知 識

安全機能について

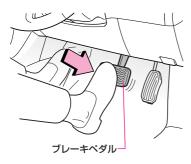
シフトロック解除ボタンの使い方

万一、シフトレバーがⓅから操作できないときに使用します。

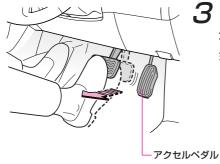
スマートエントリー & スタートシステム装着車

●ブレーキペダルを踏んだ状態で、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバー操作してください。

●シフトロックシステムなどの故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●ブレーキペダルを踏んだ状態で、エンジン スイッチを “ ＡＣＣ ” にして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバー操作してください。

●シフトロックシステムなどの故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

オートマチック車の運転のしかた

発進のしかた

通常発進のしかた

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーをⒹに入れます。

2 パーキングブレーキを解除します。
P.243参照

3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、右足でアクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

上り坂の発進のしかた

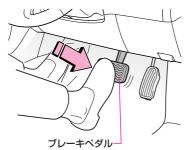
1. パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認してから、シフトレバーをⒹに入れます。

2. 右足でアクセルペダルをゆっくり踏みます。

3. 車が動き出す感触を確認してから、パーキングブレーキを解除し、発進します。

ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

- 発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、シフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- 運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

S-VSC装着車

S-VSC装着車には、ヒルスタートアシストコントロールが装備されています。(次ページ参照)
ヒルスタートアシストコントロールは、急な上り坂やすべりやすい上り坂を発進するときに、車両の後退を防止し発進を容易に行うことができます。詳しくは、P.386を参照してください。

ヒルスタートアシストコントロールの使い方

S-VSC装着車

1 **車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込みます。**

ブレーキペダルを更に踏み込むと“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯（P.254参照）が点滅します。

2 **ブレーキペダルから足を離すと、ヒルスタートアシストコントロールが作動し、車両の後退を防止します。**

ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離してから約2秒間です。

- ●ヒルスタートアシストコントロールが解除されると“ピッピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が消灯します。

3 **アクセルペダルを踏むと、ヒルスタートアシストコントロールは解除されます。**

ヒルスタートアシストは、徐々に作動を解除します。

- ●このとき、制御終了を知らせるブザーは鳴らず、スリップ表示灯は消灯します。

警告　ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に発進してください。
●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための装置ではありません。坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●ヒルスタートアシストコントロール作動中に、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにしないでください。ヒルスタートアシストコントロールが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●ヒルスタートアシストコントロール作動中に、エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”にしないでください。ヒルスタートアシストコントロールが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯が点灯します。
●ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルの踏む力を弱めてください。（車両が後退しない程度）その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは以下の作動条件を確認してください。

ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

●以下の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。
- シフトレバーがⓅ以外の位置のとき
- パーキングブレーキがかかっていないとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき

●ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯が点灯しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御開始状態になると“ピッ”とブザーが1回鳴ります。（シフトレバーがⓇの位置以外）
●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に以下の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが2回鳴ります。（シフトレバーがⓇの位置以外）
- ブレーキペダルから足を離して、約2秒間運転操作を行わなかったとき
- シフトレバーをⓅの位置にしたとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- ブレーキペダルを再度踏み込んだとき

●シフトレバーがⓇでの使用時は、ヒルスタートアシストコントロールの制御開始、終了を知らせるブザーは鳴らず、スリップ表示灯の点滅、消灯で作動状態をお知らせします。

走行のしかた

通常の走行

シフトレバーをⒹに入れたまま走行します。
●アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。

坂道で走行するときは

■上り坂
シフトレバーをⓂにして、坂道に応じた変速段で走行することによりなめらかな走行ができます。

■下り坂
フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーがⒹのままでスピードが出すぎるときは、Ⓜにして坂道に応じた変速段でエンジンブレーキを併用します。

S-ＶＳＣ装着車

S-ＶＳＣ装着車には、ＤＡＣが装備されています。（P.295参照）
ＤＡＣは、急な下り坂やすべりやすい坂道などを下るときに、一定の低車速（およそ5km/h前後）を保ち、ブレーキやアクセル操作に気を遣うことなくステアリング操作を行うことができます。詳しくは、P.383を参照してください。

走行中にはシフトレバーを🄽に入れないでください。

●走行中にはシフトレバーを🄽に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●前進で走行中に、シフトレバーを🅁に入れたり、後退で走行中に、シフトレバーを🄳に入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。
●ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●坂道などでは、シフトレバーを🄳、🄼にしたまま惰性で後退したり、🅁にしたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

シフトレバーを🄽にしたままで走行すると、トランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

知 識

クルーズコントロール装着車のエンジンブレーキについて

クルーズコントロールを使用しているときに、シフトレバーを🄳から🄼、または7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行中にM6、M5、M4に操作しても、クルーズコントロールが解除されないため、エンジンブレーキは効きません。
減速が必要なときはクルーズコントロールスイッチで設定速度をかえる（P.302参照）かブレーキペダルを踏みます。

停車・駐車のしかた

停車のしかた

1 **車を止めます。シフトレバーはⒹのまま、右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。**
エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。

2 **必要に応じて、パーキングブレーキをかけます。**
上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。
右足でブレーキペダルをしっかりと踏み、パーキングブレーキをしっかりかけてください。

3 **長時間停車する場合は、シフトレバーをⓅまたはⓃに入れます。**

駐車のしかた

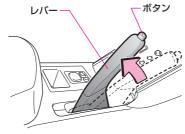
1 **車を完全に止めます。**

2 **パーキングブレーキをかけます。**
右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけます。

3 **シフトレバーを🅟に入れます。**
車が動き出さないためにも、必ず🅟に入れてください。

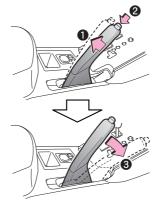
4 **エンジンを停止します。**
車を離れるときは、必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

⚠ 警告　走行中は、シフトレバーを🅟に入れないでください。

- 走行中はシフトレバーを🅟に入れないでください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 停車中は空ぶかしをしないでください。シフトレバーが🅟・🅝以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意　車から離れるときは、必ずエンジンを停止してドアを施錠してください。

- エンジンをかけたままにしておくと、万一、シフトレバーが🅟以外にあるときに、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーを🅓のままアクセルをふかしながら止まらないでください。オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

パーキングブレーキの使い方

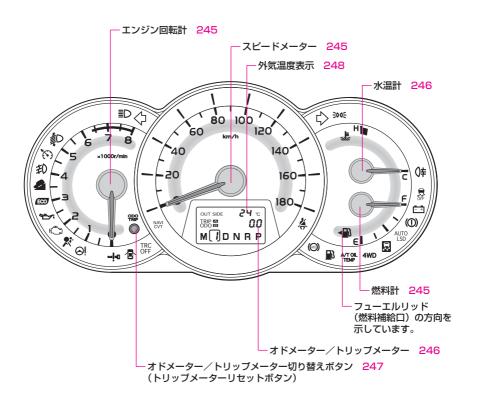
パーキングブレーキの取り扱い

パーキングブレーキをかけるには

ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引きます。
●ブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除するには

❶レバーを少し引き上げながら
❷ボタンを押さえて、
❸完全に下までもどします。
●ブレーキ警告灯が消灯します。

注意	パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知識

冬季のパーキングブレーキの使用について

P.398の「駐車するときは」をお読みください。

メーター・表示灯・警告灯の見方

メーター

知識

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ＯＮ”にしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

燃料計

燃料タンク容量は約60Ｌです。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、燃料残量を示します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき、燃料残量を示します。

知 識

燃料計について

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針がふれることがあります。
- 燃料補給後、指示が安定するまで少し時間がかかります。
- 燃料計にある ◀⛽ 印はフューエルリッド（燃料補給口）が助手席側にあることを示しています。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。

スピードメーター

車両の走行速度を示します。

エンジン回転計

毎分のエンジン回転数を示します。

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないように運転してください。指針がレッドゾーンに入る運転を続けると、エンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

水温計

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、エンジン冷却水の温度を示します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき、エンジン冷却水の温度を示します。

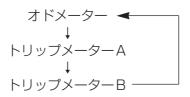
指針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、P.506の「オーバーヒートしたときは」にしたがって処置をしてください。

オドメーター／トリップメーター

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、次の表示をします。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき、次の表示をします。

■オドメーター

走行した総距離をkmの単位で示します。

■トリップメーター

2種類の区間距離（トリップＡ、トリップＢ）をkmの単位で示します。

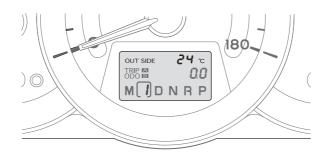
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

オドメーター／トリップメーター切り替えボタン（トリップメーターリセットボタン）

■オドメーターとトリップメーターの表示の切り替え方

切り替えボタンを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

■トリップメーターを0（ゼロ）にもどすときは

トリップメーターA、トリップメーターBのうち0にしたいほうを表示させてから、リセットボタンを表示が0になるまで押し続けます。
バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターは0になります。

外気温度表示

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、外気温度が表示されます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき、外気温度が表示されます。

知 識

外気温度表示について

●他の計測装置により計測した外気温度とは、異なることがあります。

●次の場合は、正しい外気温度表示がされなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 外気温度が約-30℃以下または約50℃以上のとき
- 停車しているときや低速走行（約20km/h以下）しているとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出口付近など）

●実際の外気温度が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により外気温度表示が変動することがあります。

●外気温度が約3℃以下のとき、路面凍結の注意を示すため外気温度表示が点滅します。

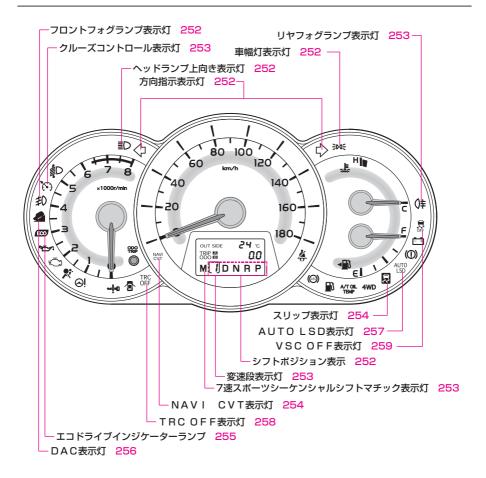
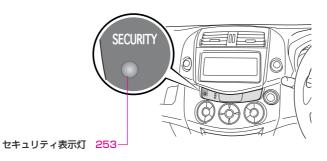
メーター照度調整ダイヤル

メーター照度調整ダイヤルにより、メーター照明の明るさを調整できます。
ダイヤルを上方向にまわすとメーター照明が明るくなり、下方向にまわすと暗くなります。

知 識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき使用できます。

減光について

●ライトを点灯すると、メーター照明が減光されます。
●ダイヤルを上にいっぱいまでまわすと、ライトを点灯してもメーター照明は減光されません。

表示灯

フロントフォグランプ表示灯　252
クルーズコントロール表示灯　253
ヘッドランプ上向き表示灯　252
方向指示表示灯　252
リヤフォグランプ表示灯　253
車幅灯表示灯　252

スリップ表示灯　254
ＡＵＴＯ ＬＳＤ表示灯　257
ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯　259
シフトポジション表示　252
変速段表示灯　253
7速スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯　253
ＮＡＶＩ　ＣＶＴ表示灯　254
ＴＲＣ ＯＦＦ表示灯　258
エコドライブインジケーターランプ　255
ＤＡＣ表示灯　256

セキュリティ表示灯　253

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

〈表示灯一覧表〉

表示灯	表示灯名	表示灯	表示灯名
	方向指示表示灯	4	変速段表示灯
	車幅灯表示灯	NAVI CVT	ＮＡＶＩ　ＣＶＴ表示灯
	ヘッドランプ上向き表示灯		スリップ表示灯
	フロントフォグランプ表示灯	ECO	エコドライブインジケーターランプ
	リヤフォグランプ表示灯		ＤＡＣ表示灯
SECURITY	セキュリティ表示灯	AUTO LSD	ＡＵＴＯ ＬＳＤ表示灯
	クルーズコントロール表示灯	TRC OFF	ＴＲＣ ＯＦＦ表示灯
M	7速スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯	OFF	ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯

シフトポジション表示

選択しているシフト位置を表示します。

方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。（P.284、292参照）

知識

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

車幅灯表示灯

車幅灯、尾灯を点灯させると点灯します。（P.281参照）

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。（P.283参照）

フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプ装着車

フロントフォグランプを点灯させると点灯します。（P.285参照）

リヤフォグランプ表示灯

寒冷地仕様車

リヤフォグランプを点灯させると橙色に点灯します。（P.286参照）

セキュリティ表示灯

盗難防止システムが作動状態になると点滅します。（P.375参照）

クルーズコントロール表示灯

クルーズコントロール装着車

クルーズコントロールメインスイッチを押してシステムをＯＮにすると点灯します。（P.302参照）

定速走行中に表示灯が点滅したときは、メインスイッチを一度ＯＦＦにしてから再度セットしてください。
以上の操作をしても、セットができないまたはセットしてもすぐ解除される場合はシステムの異常が考えられます。走行上支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

7速スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯

M

シフトレバーをⓂにして7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードにすると点灯します。（P.230参照）

変速段表示灯

シフトレバーがⓂのとき、1～7で選択されている変速段を表示します。（P.230参照）

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＮＡＶＩ ＣＶＴ表示灯

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

NAVI・ＡＩ－SHIFT（P.374）が作動しているときに表示されます。

表示灯について

NAVI・ＡＩ－SHIFTを作動させないようにすることもできます。詳しくは、「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

スリップ表示灯

S-ＶＳＣ装着車

エンジン回転中で、S-ＶＳＣ、ＴＲＣ、ＤＡＣ、ＡＵＴＯ ＬＳＤおよびヒルスタートアシストコントロールが作動したときに点滅します。（P.380～386参照）

表示灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にしても点灯しないとき

表示灯について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると点灯し、数秒後に消灯します。

■S-VSC作動警告ブザー

車両が横すべりしそうになったときに断続音が鳴ります。

作動について

運転状況によっては、スリップ表示灯の点滅のみで警告する場合があります。

エコドライブインジケーターランプ

ECO

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

●シフトレバーがⒹ以外のとき
●車速が約100km/h以上のとき

DAC表示灯

S-VSC装着車

●DACスイッチを押して、DACを作動可能状態にすると点灯します。(P.295参照)
●DACスイッチを押して、DAC表示灯が点滅しているときは、DACは作動しません。(P.295参照)

表示灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

● “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチを “ON” にしても点灯しないとき

知識

表示灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ON” にすると点灯し、数秒後に消灯します。

■DAC作動警告ブザー

DACをひんぱんに使用すると、ブレーキアクチュエーターの温度が上昇し、警告ブザーが断続的に鳴ります。

注意

警告ブザーが継続的に鳴り表示灯が点滅したときは、ただちに安全な場所に停車してください。しばらくして、ブザーが鳴り止み表示灯が点滅から点灯にかわったとき、作動可能状態となります。この間、通常走行は可能です。ブザーが鳴り止まないときはシステムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

AUTO
LSD

AUTO LSD表示灯

FF車のS-VSC装着車

●VSC OFFスイッチを押して、AUTO LSDを作動可能状態にすると点灯します。(P.300参照)

表示灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

●“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチを“ON”にしても点灯しないとき

知 識

表示灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

■AUTO LSD作動警告ブザー

AUTO LSDをひんぱんに使用すると、ブレーキアクチュエーターの温度が上昇し、警告ブザーが断続的に鳴ります。

警告ブザーが継続的に鳴りスリップ表示灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車してください。しばらくして、ブザーが鳴り止み表示灯が点灯から消灯にかわったとき、作動可能状態となります。この間、通常走行は可能です。ブザーが鳴り止まないときはシステムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

TRC
OFF

TRC OFF表示灯

S-VSC装着車

TRCを作動停止状態にすると点灯します。（P.298参照）

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチを“ON”にしても点灯しないとき
- エンジン スイッチが“ON”で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

知識

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

OFF

ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯

S-ＶＳＣ装着車

S-ＶＳＣを作動停止状態にすると点灯します。（P.298参照）

●表示灯が点灯しているとき、下記のシステムは作動しませんが、通常の走行には支障はありません。
- ＴＲＣ
- S-ＶＳＣ
- ＤＡＣ
- ヒルスタートアシストコントロール

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

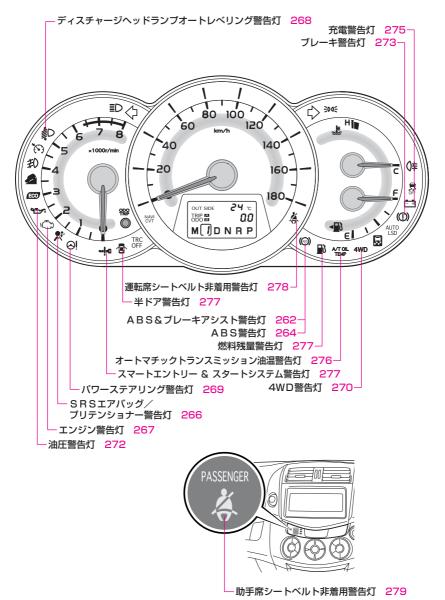
スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき
●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションＯＮモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしても点灯しないとき
●エンジン スイッチが“ ＯＮ ”で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

知 識

警告灯について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

警告灯

図ではすべてのグレードにおける警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はグレード等により異なります。

〈警告灯一覧表〉

警告灯	警告灯名	警告灯	警告灯名
ABS	ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯（S-ＶＳＣ装着車） ＡＢＳ警告灯（S-ＶＳＣ装着車を除く）		ブレーキ警告灯
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯		充電警告灯
	エンジン警告灯	A/T OIL TEMP	オートマチックトランスミッション油温警告灯
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯		スマートエントリー ＆ スタートシステム警告灯
	パワーステアリング警告灯		燃料残量警告灯
4WD	4WD警告灯		半ドア警告灯
	油圧警告灯		運転席シートベルト非着用警告灯
		PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯

S-ＶＳＣ装着車

ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステム（P.368参照）に異常があると点灯します。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステムは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。

注意

ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。
ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にしても点灯しないとき
- エンジン スイッチが “ ＯＮ ” で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。
ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

警告灯について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ABS警告灯

S-VSC装着車を除く

ABS（P.368参照）に異常があると点灯します。

●警告灯が点灯しているときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。

●警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。

注意　ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。この場合、ABSに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチを“ON”にしても点灯しないとき
- エンジン スイッチが“ON”で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯・点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯

ＳＲＳエアバッグシステム（Ｐ.352）、またはプリテンショナー付シートベルトシステム（Ｐ.366）に異常があると、点灯・点滅します。

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグ、またはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき

●走行中に点灯・点滅したとき

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき

●走行中に点灯・点滅したとき

知 識

警告灯について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると点灯し、数秒後に消灯します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システム、オートマチックトランスミッション電子制御システムに異常があると点灯します。

注意 **エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

- ●エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ●警告灯が点灯しアクセルペダルを踏んでもエンジン回転数の上昇が鈍いときは、電子制御系の異常が考えられます。このときは、車体振動が増える場合もありますが、低速で走行できます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
なお、この低速走行中に万一電子制御系の異常が解消した場合でも、エンジンを停止するまでは、正常状態に復帰することはありません。

知 識

警告灯について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯

ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると点灯します。（P.387参照）

走行中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを止めてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにしたときに、警告灯が数秒点灯したあとに消灯すればそのまま使用できます。消灯しないとき、または再度点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にしたときに、警告灯が数秒点灯したあとに消灯すればそのまま使用できます。消灯しないとき、または再度点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

パワーステアリング警告灯

パワーステアリング制御システムに異常があると点灯します。

 注意

点灯したときは、ハンドル操作が重くなることがあります。しっかり操作してください。

- 点灯したままのときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、ハンドル操作が重くなることがありますので、ハンドルをしっかり持って操作をしてください。
- 停車中に長時間、エンジンの空ぶかしを行うと警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなります。この場合、エンジンを再始動し走行を開始すれば消灯します。

知識

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ON ” にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

4WD

4WD警告灯

4WD車

●4WDシステムに異常があると点灯します。

●スタックしたときなどの過酷な走行状態により、前後輪の回転速度の差が大きくなり、4WDシステムに負荷がかかると点滅します。

点灯したときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 走行中に点灯したとき

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチを“ON”にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。
ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告灯が点滅したときは4WDシステムを保護するために、エンジンをかけたまま以下の対応を行ってください。

- 警告灯が消灯するまで車速を落とす
- 警告灯が消灯するまで走行を停止する（エンジンを停止しない）

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

4WDシステムの保護について

前後輪の回転速度の差が大きい場合など、4WDシステムに悪影響を与えるおそれがある場合に警告灯が点滅します。

●ゆっくり点滅しているときは、過酷な走行状態により4WDシステム保護の事前警告を示します。

●早く点滅しているときは、4WDシステムを保護するために、前輪駆動状態になります。

なお、点滅が消灯すれば通常の4WD走行にもどります。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。
この警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。
（点検方法はＰ.445を参照してください。）

注意

エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、エンジンオイル量を点検してください。点灯したまま走行し続けるとエンジンを損傷するおそれがあります。エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

知 識

警告灯について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

ブレーキ警告灯

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードで次のときに点灯します。

●パーキングブレーキをかけたままのとき
- ●パーキングブレーキが解除されていても、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると、数秒間点灯します。

●ブレーキ液が不足しているとき

●ＥＢＤ（Ｐ.368）に異常があるとき

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” で次のときに点灯します。

●パーキングブレーキをかけたままのとき
- ●パーキングブレーキが解除されていても、エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると、数秒間点灯します。

●ブレーキ液が不足しているとき

●ＥＢＤ（Ｐ.368）に異常があるとき

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキがかかったまま、車速が約5km/h以上になると、警告ブザーが鳴ります。

警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

●エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。

●警告灯がＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき。
この場合、ＡＢＳ、ＥＢＤ、またはブレーキアシスト（S-ＶＳＣ装着車）に異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

⚠注意

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき
- パーキングブレーキが解除された状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチが“ON”で、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき
- パーキングブレーキが解除された状態で、エンジン スイッチを“ON”にしても点灯しないとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

充電警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

エンジン回転中に点灯したときは、Vベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。

知 識

警告灯について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

A/T OIL TEMP

オートマチック トランスミッション油温警告灯

4WD車

エンジン回転中、トランスミッションオイルの温度が異常に高くなると点灯します。

エンジン回転中に警告灯が点灯したときは、冷却のためただちに安全な場所に停車し、シフトレバーをⓅにしてエンジンをかけたままにしてください。
しばらくして消灯すれば走行できます。消灯しないときは、そのまま使用せずトヨタ販売店にご連絡ください。

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ON ” にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。

スマートエントリー&スタートシステム警告灯

スマートエントリー&スタートシステム装着車

P.122を参照してください。

燃料残量警告灯

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、残量が約9L以下になると点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ON ”のとき、残量が約9L以下になると点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

半ドア警告灯

いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときに点灯します。

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。

運転席シートベルト非着用警告灯

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションONモードのとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ”のとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。）

●シートベルトを装着すると消音します。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。

助手席シートベルト非着用警告灯

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで、かつ助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”で、かつ助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■助手席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。）

●シートベルトを装着すると消音します。

知識

警告灯について

●センサーは、助手席シート座面（うしろ半分）に、ある一定以上の重量がかかったときに検知します。したがって、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。

●助手席シート座面上にクッション（座布団）などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

スイッチの使い方

ライトの使い方

コンライトの使い方★

ツマミをＡＵＴＯにまわすと周囲の明るさに応じて、ヘッドランプ・車幅灯などが自動で点灯・消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

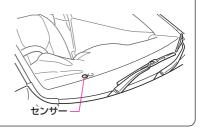
●エンジンを停止し、運転席ドアを開けると、自動的に消灯します。" エンジン スタート ストップ "スイッチをイグニッションＯＮモードにすると、再び点灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●エンジンを停止し、運転席ドアを開けると、自動的に消灯します。エンジン スイッチを " ＯＮ " にすると、再び点灯します。

知 識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

" エンジン スタート ストップ " スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが " ＯＮ " のとき使用できます。

コンライトセンサー※について

●コンライトセンサーの上にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

※ この機能を変更することができます。詳しくは、P.463の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ランプの点灯・消灯

コンライト装着車

ツマミ
AUTO（自動）
点灯②
点灯①
消灯

コンライト装着車を除く

ツマミ
点灯②
点灯①
消灯

ツマミの位置	点灯するランプ
点灯①	車幅灯・尾灯・番号灯・各スイッチ照明・メーター照明
点灯②	①のランプ+ヘッドランプ

コンライト装着車

ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。
●ＡＵＴＯにまわすと、自動で点灯・消灯します。（前ページ参照）

コンライト装着車を除く

ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知 識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。（ＡＵＴＯで使用するとき）
● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。（点灯①・点灯②で使用するとき）

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

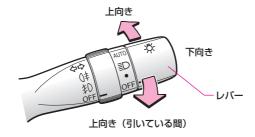
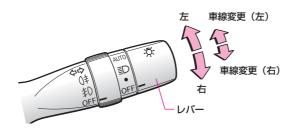
●エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき使用できます。（ＡＵＴＯで使用するとき）
●エンジン スイッチ の状態に関係なく使用できます。（点灯①・点灯②で使用するとき）

便利機能について

ランプオートカットシステム

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

ツマミが点灯①・点灯②、またはＡＵＴＯのまま “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにして運転席ドアを開けると自動的に消灯します。
次のいずれかの操作をすると、再び点灯します。
● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにする。
● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにし、もう一度イグニッションＯＮモードにする。（この場合、ドアを開けてもランプは消灯しません。）

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

ツマミが点灯①・点灯②、またはＡＵＴＯのままエンジン スイッチを “ ＬＯＣＫ ” にして運転席ドアを開けると自動的に消灯します。
次のいずれかの操作をすると、再び点灯します。
●エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にする。
●エンジン スイッチを “ ＬＯＣＫ ” にし、もう一度 “ ＯＮ ” にする。（この場合、ドアを開けてもランプは消灯しません。）

前方を遠くまで照らしたいときは

●ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に押します。
●ヘッドランプが消灯していても、レバーを手前に引いている間、ヘッドランプが上向きになります。
●ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。（P.252参照）

方向指示レバーの使い方

●レバーを上、または下へ操作すると、左、または右側の方向指示灯が点滅し、メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。
レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

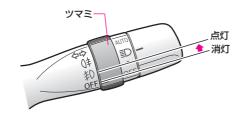
●車線変更のときには、レバーを軽く上（または下）へ押さえている間、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

知 識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ”のとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

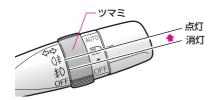
フォグランプの使い方

フロントフォグランプの使い方★

ツマミを の位置にまわすと点灯し、ＯＦＦの位置にまわすと消灯します。

●フロントフォグランプが点灯しているときは、メーター内のフロントフォグランプ表示灯（P.252参照）が点灯します。

知 識

フロントフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに、ヘッドランプの補助として使用します。

作動条件について

車幅灯が点灯しているときに使用できます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の 解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

リヤフォグランプの使い方★

フロントフォグランプ装着車

フロントフォグランプ装着車を除く

フロントフォグランプ装着車

ツマミを の位置にまわすと点灯し、 またはＯＦＦにまわすと消灯します。

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内のリヤフォグランプ表示灯（Ｐ.253参照）が橙色に点灯します。

フロントフォグランプ装着車を除く

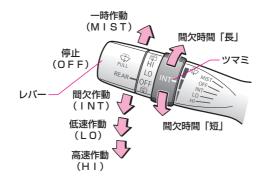
ツマミを の位置にまわすと点灯し、ＯＦＦにまわすと消灯します。

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内のリヤフォグランプ表示灯（Ｐ.253参照）が橙色に点灯します。

知識

リヤフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに後続車に、自分の車の存在を知らせるために使用します。

●視界が悪いとき以外に使用すると、後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

作動条件について

●ヘッドランプ、またはフロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

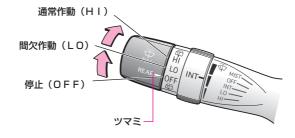
●リヤフォグランプが点灯しているときに、ヘッドランプを消灯させても、車幅灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。

●リヤフォグランプが点灯しているときに、ライトスイッチをＯＦＦにして車幅灯を消灯させると、リヤフォグランプも消灯します。

●リヤフォグランプが消灯したあとに、再度点灯させるためには、リヤフォグランプスイッチの操作が必要です。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ワイパー&ウォッシャースイッチの使い方

ワイパーの動かし方

■フロント

レバーを操作すると、上図のように作動します。

●間欠作動（ＩＮＴ）の位置のときツマミをまわすと、間欠時間を調整できます。

●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーを停止（ＯＦＦ）の位置から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと停止（ＯＦＦ）にもどります。

■リヤ

ツマミをまわすと、上図のように作動します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。

●ウインドゥガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。ガラスに張り付いたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
●洗車するときやワイパーゴムを交換するときなど、フロントワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側のワイパーアームから立ててください。また、もとにもどすときは、助手席側のワイパーアームからもどしてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをＯＦＦ、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード、またはＯＦＦにし､ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをＯＦＦ、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

作動条件について

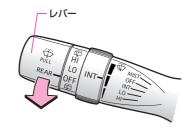
スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

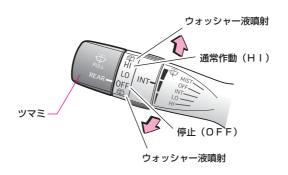
エンジン スイッチが“ ＯＮ ” のとき使用できます。

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。約10分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常どおり使用できるようになります。

ワイパーのＬＯ、ＨＩ作動について

フロント側ワイパーとリヤ側ワイパーとでは、作動状態が異なります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ウォッシャー液の噴射のしかた

■フロント

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。
●ウォッシャー液噴射後、ワイパーが数回作動します。

■リヤ

●作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミを通常作動（ＨＩ）から上の側にまわします。
●ツマミを停止（ＯＦＦ）から下の側にまわすと、ウォッシャー液が噴射されます。

寒冷時はウォッシャー液を使用しないでください。視界不良を起こすおそれがあります。

●寒冷時は、ウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
●必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、ガラスを傷つけるおそれがあります。
●ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。また、ノズルがつまって噴射状態が悪い場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

知 識

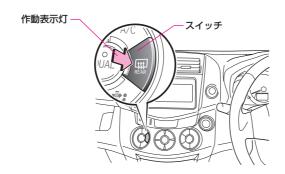
作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき使用できます。

ガラスに付いた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のランプなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

ウォッシャー液の補給については、P.447を参照してください。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）スイッチの使い方

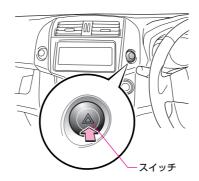
スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

知 識

リヤウインドゥデフォッガーについて

●バックドアガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。
●ミラーヒーター装着車は、スイッチを押すとミラーヒーターも同時に作動します。（P.224参照）

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき使用できます。

非常点滅灯スイッチの使い方

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、点滅中にもう一度押すと消灯します。

●点滅中はメーター内にある方向指示表示灯も点滅します。

バッテリーがあがるのを防ぐため、エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。

知 識

非常点滅灯について

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。

ホーンの使い方

ハンドルの マーク周辺部を押すと、ホーン（警音器）が鳴ります。

ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、ホーンが鳴らない場合があります。ハンドルの固定方法についてはP.220のハンドルの調整をご覧ください。

知 識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。

熱線入りウインドシールドガラススイッチの使い方

寒冷地仕様車

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

作動中はフロントウインドゥガラス下部の表面および運転席側フロントピラー部が熱くなりますので、手を触れないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

連続して長時間使用すると、補機バッテリーあがりの原因となります。

知 識

熱線入りウインドシールドガラスについて

フロントウインドゥガラス下部の表面を暖めて、ガラスとワイパーブレードの凍結を防ぎます。

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき使用できます。

DAC※スイッチの使い方

S-VSC装着車

次のような状態のとき、DACスイッチを使用してDACを作動させることで、急な下り坂を一定の低速度（およそ5km/h前後）で下ることができます。

●エンジンブレーキのみでは車を十分減速できないような急な坂道を一定の低速度で下る場合

●凹凸が激しい路面やすべりやすい坂道を一定の低速度で下る場合

DACの使い方

1 シフトレバーをⓂ（M1）またはⓇにします。

前進時はシフトレバーをⓂ（M1）にし、後退時はシフトレバーをⓇにします。

●シフトレバーがⓂ（M1）またはⓇ以外のときは、DACは作動しませんのでご注意ください。

2 DACスイッチを押します。

メーター内のDAC表示灯（P.256参照）が点灯します。これはDACが作動可能状態になったことを示します。

●DAC表示灯が点滅している場合は、DACが作動しません。DACの作動条件を確認してください。（P.297参照）

※Downhill Assist Control（ダウンヒル・アシスト・コントロール）の略

3 車速25km/h以下で、アクセルおよびブレーキペダルから足を離した状態で坂道を下ります。

ＤＡＣは車速25km／h以下のとき作動します。25km/hを超えているとＤＡＣ表示灯が点滅します。
ＤＡＣが作動しているときは、メーター内のスリップ表示灯（P.254参照）が点滅します。この状態のとき、制動灯が点灯しています。

●ＤＡＣ作動中にアクセルまたはブレーキペダルを踏むと、ＤＡＣは作動を停止します。このとき、“ドン”という音が聞こえたり、ペダルが押しもどされることがありますが、異常ではありません。

4 ＤＡＣの作動を解除するには、ＤＡＣスイッチを押します。

ＤＡＣは、徐々に作動を解除します。解除中はＤＡＣ表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

警告　ＤＡＣを過信しないでください。

●ＤＡＣを過信しないでください。極端に急な坂道、凍結路、泥道ではすべりやすいので一定の低速度（およそ5km/h前後）を維持できない場合があります。そのため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。慎重に運転してください。
●前進で走行中に、シフトレバーをⓇに入れたり、後退で走行中に、シフトレバーをⒹに入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

ＤＡＣをひんぱんに使用すると、ブレーキアクチュエーターの温度が上昇しすぎる場合があります。このような状態のときは、警告ブザーが継続的に鳴りＤＡＣ表示灯が点滅します。ただちに安全な場所に停車してください。しばらくして、ブザーが鳴り止みＤＡＣ表示灯が点滅から点灯にかわったとき、ＤＡＣは作動可能状態となります。この間、通常走行は可能です。ブザーが鳴り止まないときはシステムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

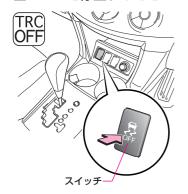
ＤＡＣの作動条件について

●ＤＡＣは以下の条件で作動可能状態になります。
- シフトレバーがⓂ（Ｍ１）またはⓇのとき
- ＤＡＣスイッチを押した状態のとき
- アクセルペダル、ブレーキペダルを踏まない状態のとき
- 低速走行（25km/h以下）で降下しているとき

●ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯が点灯しているときは、ＤＡＣは作動しません。

作動音について

ＤＡＣ作動中にエンジンルームから作動音が聞こえることがあります。これは、ＤＡＣが作動しているときの音で異常ではありません。

ＶＳＣ ＯＦＦスイッチの使い方（4WD車）

4WD車のS-ＶＳＣ装着車

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、ＴＲＣやS-ＶＳＣが作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。
このようなときに、ＶＳＣ ＯＦＦスイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

ＶＳＣ ＯＦＦの使い方

■ＴＲＣを停止するときは

1 **ＶＳＣ ＯＦＦスイッチを押します。**

メーター内のＴＲＣ ＯＦＦ表示灯（P.258参照）が点灯します。

●スリップ制御作動中はメーター内のスリップ表示灯（P.254参照）が点滅します。

●もう一度スイッチを押すとＴＲＣ作動状態にもどります。

■ＴＲＣとS-ＶＳＣを停止するときは

1 **停車時にＶＳＣ ＯＦＦスイッチを押し3秒以上保持します。**

メーター内のスリップ表示灯（P.254参照）とＶＳＣ ＯＦＦ表示灯（P.259参照）が点灯します。

●スリップ制御作動中はメーター内のスリップ表示灯（P.254参照）が点滅します。

●もう一度スイッチを押すとＴＲＣとS-ＶＳＣ作動状態にもどります。

S-VSCやTRCは、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外はS-VSC、TRCを作動停止状態にしないでください。S-VSC、TRCを作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で特に慎重な運転を心がけてください。

知 識

作動条件について

エンジンを始動すると、S-VSC、TRCが作動可能状態になります。

S-VSC、TRCの自動復帰について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- VSC OFFスイッチでS-VSC、TRCの作動を停止したあと、“エンジン スタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはOFFにすると、自動的にS-VSCとTRCは作動可能状態にもどります。
- TRCのみ作動を停止している場合は、車速が高くなるとTRCは作動を再開します。ただし、TRCとS-VSCの作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- VSC OFFスイッチでS-VSC、TRCの作動を停止したあと、エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”にすると、自動的にS-VSCとTRCは作動可能状態にもどります。
- TRCのみ作動を停止している場合は、車速が高くなるとTRCは作動を再開します。ただし、TRCとS-VSCの作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

TRCについて

TRCは、すべりやすい路面での発進や加速時に生じる駆動輪の空転を抑制し、車両の方向安定性と駆動力を確保しようする装置です。
作動については、「TRC」(P.380参照)をお読みください。

S-VSCについて

S-VSCは、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
作動については、「S-VSC」(P.382参照)をお読みください。

ＶＳＣ ＯＦＦスイッチの使い方（ＦＦ車）

ＦＦ車のS-ＶＳＣ装着車

次のような状態のとき、ＶＳＣ ＯＦＦスイッチを使用してＡＵＴＯ ＬＳＤを作動させせることで、駆動輪のうち、どちらかが空転して発進ができない状態から脱出することができます。

●脱輪時から脱出する場合

●駆動輪の片輪がぬかるみや新雪にのった状態で坂道から発進する場合

ＶＳＣ ＯＦＦの使い方

■ＡＵＴＯ ＬＳＤを作動させるときは

1 ＶＳＣ ＯＦＦスイッチを押します。

メーター内のＡＵＴＯ ＬＳＤ表示灯（P.257参照）とＶＳＣ ＯＦＦ表示灯（P.259参照）が点灯します。

これはＡＵＴＯ ＬＳＤが作動可能状態になったことを示します。

●ＡＵＴＯ ＬＳＤ作動中はメーター内のスリップ表示灯（P.254参照）が点滅します。

■ＴＲＣとS-ＶＳＣを停止するときは

1 停車時にＶＳＣ ＯＦＦスイッチを押し３秒以上保持します。

メーター内のＶＳＣ ＯＦＦ表示灯（P.259参照）が点灯します。

●スリップ制御作動中はメーター内のスリップ表示灯（P.254参照）が点滅します。

●もう一度スイッチを押すとＴＲＣとS-ＶＳＣ作動状態にもどります。

警告　ＡＵＴＯ　ＬＳＤを過信しないでください。

●ＡＵＴＯ　ＬＳＤを過信しないでください。極端に急な坂道、凍結路、泥道ではすべりやすいので脱出が困難な場合があります。そのため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。慎重に運転してください。
●ＡＵＴＯ　ＬＳＤ使用中の旋回走行時には、よく注意して走行してください。車輪がスリップして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ディファレンシャルに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

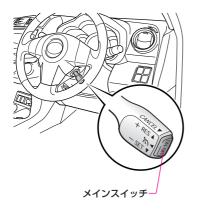
ＡＵＴＯ　ＬＳＤは、脱輪時や、砂地、ぬかるみなど走行抵抗が大きい路面でのみ使用してください。

●ＡＵＴＯ　ＬＳＤは、脱輪時や、砂地、ぬかるみなど走行抵抗が大きい路面でのみ使用してください。
●ＶＳＣ　ＯＦＦスイッチを操作する際は、タイヤが空転していない状態で行ってください。
●通常走行では使用しないでください。ＡＵＴＯ　ＬＳＤ使用後はＡＵＴＯ　ＬＳＤ表示灯が消灯していることを確認してから走行してください。
●ＡＵＴＯ　ＬＳＤをひんぱんに使用すると、ブレーキアクチュエーターの温度が上昇しすぎる場合があります。このような状態のときは、警告ブザーが継続的に鳴りスリップ表示灯（P.254参照）が点灯します。一時的にＡＵＴＯ　ＬＳＤが機能しなくなりますが、しばらくしてスリップ表示灯が消灯したとき、ＡＵＴＯ　ＬＳＤは作動可能状態となります。この間の通常走行は可能です。

知 識

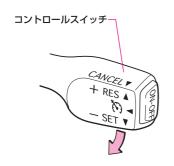
ＡＵＴＯ　ＬＳＤの作動条件について

●ＡＵＴＯ　ＬＳＤは以下の条件で作動可能状態になります。
- ＶＳＣ　ＯＦＦスイッチを押した状態のとき
- ＡＵＴＯ　ＬＳＤ表示灯（P.257）が点灯しているとき

●ＡＵＴＯ　ＬＳＤは以下の条件で自動的にキャンセルされＴＲＣモードになります。
- エンジン再始動時

作動音について

ＡＵＴＯ　ＬＳＤ作動中にエンジンルームから作動音が聞こえることがあります。これは、ＡＵＴＯ　ＬＳＤが作動しているときの音で異常ではありません。

クルーズコントロールの使い方★

シフトレバーが◐または◑（M7、M6、M5、M4のいずれか）のとき、アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度（約40km/h～100km/ｈ）で走行できるシステムです。

セット（定速走行）するには

1 **メインスイッチを押します。**

クルーズコントロールが作動待機状態になり、メーター内のクルーズコントロール表示灯（P.253参照）が点灯します。

2 **希望速度まで加速または減速します。**

3 **希望速度になったら、コントロールスイッチを下げ、手を離します。**

以上の操作で定速走行を開始します。

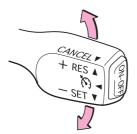
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

一時的に加速、減速するときは

■加速したいとき

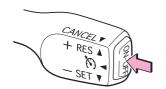
アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離せば、もとの定速走行状態にもどります。

■減速したいとき

ブレーキペダルを踏みます。
ブレーキペダルを踏むと、定速走行が解除されます。

もとの定速走行状態にもどしたいときは、コントロールスイッチを上げ、手を離します。

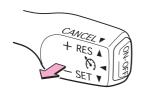
セット車速をかえるには

前ページの「セットするには」の***2***、***3***の手順で替える方法と、次のコントロールスイッチで替える方法があります。

1 **コントロールスイッチを操作します。**

- 上げ続けるとセット車速が上がります。
- 下げ続けるとセット車速が下がります。

2 **希望速度になったら、コントロールスイッチから手を離します。**

- コントロールスイッチを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度の微調整（約1.5km／h）ができます。

解除のしかた

■使用を中止するときは

メインスイッチを押してＯＦＦにします。
●メーター内のクルーズコントロール表示灯が消灯します。
●再度、定速走行するには、P.302の「セットするには」をお読みください。

■使用を一時的に中断するときは

コントロールスイッチを手前に引きます。
●作動待機状態にもどります。
●もとの定速走行状態にもどしたいときは、コントロールスイッチを上げ、手を離します。

システムの自動解除

次の場合は、自動的に定速走行が解除されます。
●ブレーキペダルを踏んだとき
●セットした速度より車速が約16km/h以上低下したとき
●車速が約40km/h以下になったとき
●コントロールスイッチを下げ続けて車速が約40km/h以下になったとき
●S-ＶＳＣの作動によりスリップ表示灯が点滅するとともにS-ＶＳＣ作動警告ブザーが鳴ったとき（車両が横すべりしそうになったときはP.305を参照してください。）

次の方法で定速走行状態が解除された場合は、コントロールスイッチを上げ、手を離すともとの定速走行状態にもどります。
ただし、車速が約40km/h以下になったとき、またはセットした速度より車速が約16km/h以上低下したときは、解除する前の定速走行状態にはもどりません。
●コントローススイッチを手前に引いての解除
●ブレーキペダルを踏んでの解除
●S-ＶＳＣの作動による解除

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告　クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにしてください。

●クルーズコントロールを使用しないときはメインスイッチをＯＦＦにしてください。誤ってクルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●次のような状況のときはクルーズコントロールを使用しないでください。使用すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道や急カーブのある道
  道路の状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な下り坂
  急な下り坂ではエンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度を越えてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

定速走行中に表示灯が点滅したときは、メインスイッチを一度ＯＦＦにしてから再度セットしてください。
以上の操作をしても、セットできないまたはセットしてもすぐ解除される場合はシステムの異常が考えられます。走行上支障はありませんがトヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

セット条件について

●セット車速は約40km/h～100km/hの間で設定できます。

●シフトレバーがⒹまたはⓂ（M7、M6、M5、M4のいずれか）、以外にあるときはセットできません。

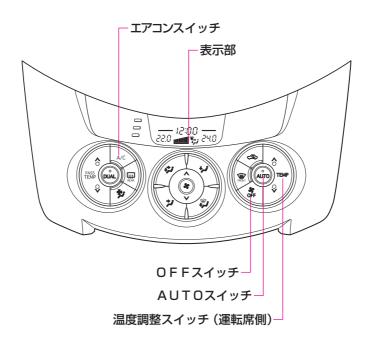
エンジンを停止したときは

メインスイッチは自動的にＯＦＦになります。

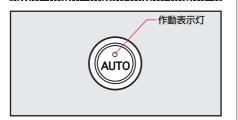
横すべりしそうになったときは

運転状況によっては横すべりしそうになったとき、スリップ表示灯やＳ-ＶＳＣ作動警告ブザーで警報する前に制御が解除されることがあります。

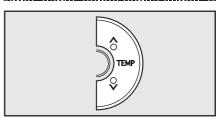
エンジンブレーキについて

クルーズコントロールを使用して定速走行しているときは、シフトレバーをⒹからⓂ、または7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行中にM6、M5、M4に操作してもクルーズコントロールが解除されないため、エンジンブレーキは効きません。
減速が必要なときは、コントロールスイッチで減速の操作をするか、またはブレーキペダルを踏んでください。

室内装備の取り扱い

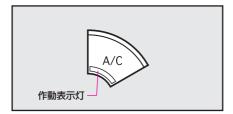
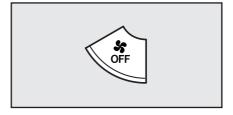
4

エアコンの取り扱い

オートエアコンの使い方

オート（ＡＵＴＯ）での使い方

ＡＵＴＯスイッチを押すと、ファンが作動し、吹き出し口・風量が自動的に調整され、外気導入と内気循環が自動的に切り替わり、設定温度となります。

自動調整にする

ＡＵＴＯスイッチを押します。
●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

温度を調整する

運転席側温度調整スイッチで希望する室内温度に設定します。
上げるときは ∧ 側、下げるときは ∨ 側を押します。
(0.5℃ずつ調整できます。)
●設定温度を18℃～32℃の間で調整することができます。
　● 最大冷房にするとＬＯ
　● 最大暖房にするとＨＩ
　の表示になります。
●設定温度は表示部に表示されます。

エアコンをＯＮにする

ファンが作動中のとき、エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房、除湿機能）がＯＮとＯＦＦに切り替わります。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

●外気温が0℃近くまで下がると、エアコンは作動しない場合があります。

ファンを止める

ＯＦＦスイッチを押します。

●ファンを停止させることができます。

注意 バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

●バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。
●エアコンスイッチの作動表示灯が点滅した場合は、システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチをＯＦＦにしてから、もう一度ＯＮにしてください。点滅がさらに続く場合は、スイッチをＯＦＦにしてトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

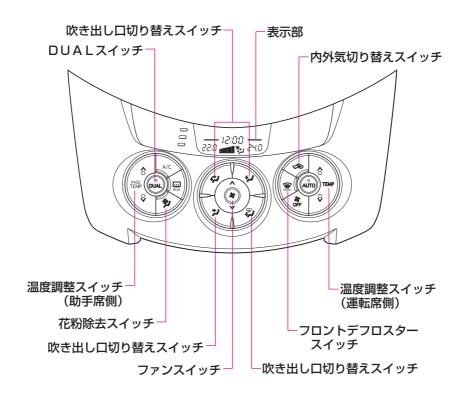
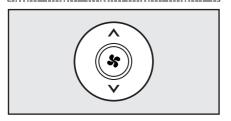
車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

便利機能について

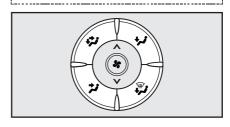
ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているとき、次のような機能があります。
●吹き出し口が または のとき、冬場などの寒いときには温風の準備ができるまで、しばらくの間ファンを停止します。
●吹き出し口が または のとき、夏場などの暑いときには冷風の準備ができるまで、数秒間ファンを停止します。

吹き出し口切り替えスイッチ、またはファンスイッチを操作したときは

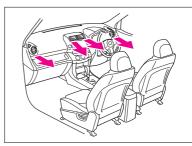
ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているときに
●吹き出し口切り替えスイッチ（P.312参照）を操作したときは設定した吹き出し口になり、ＡＵＴＯスイッチの作動表示灯が消灯します。
（風量は自動調整を継続します。）
●ファンスイッチ（P.312参照）を操作したときは設定した風量になり、ＡＵＴＯスイッチの作動表示灯が消灯します。
（吹き出し口は自動調整を継続します。）

エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

お好みの状態にするには

各スイッチを押すことで、それぞれの設定で使用することができます。

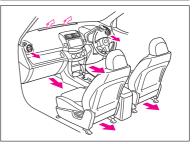
風量をかえる

ファンスイッチで風量を7段階に切り替えます。
風量を強くするときは ∧ 側、弱くするときは ∨ 側を押します。

- 選択している風量が表示部に表示されます。
- ファンが停止しているときに、スイッチを押すと、ファンが作動します。

吹き出し口をかえる

吹き出し口切り替えスイッチで吹き出し口を選択します。(次ページ参照)

- 選択している吹き出し口が表示部に表示されます。

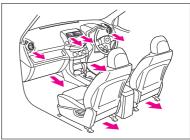
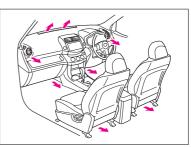
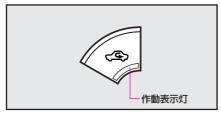
■吹き出し口選択の目安

上半身に送風するときは

表示部の表示

上半身と足元に送風するときは

表示部の表示

足元に送風するときは

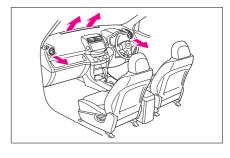
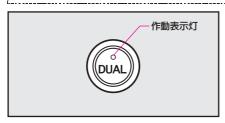
表示部の表示

⇧ は吹き出し口切り替えスイッチの を2回押したときは送風されません。

足元への送風とガラスの曇りを取るときは

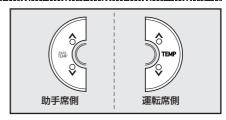
表示部の表示

外気導入・内気循環の切り替えをする

内外気切り替えスイッチを押すごとに、外気導入と内気循環に切り替わります。
作動表示灯が
●消灯しているときは外気導入
●点灯しているときは内気循環
になります。

表示	モード
消灯	**外気導入** 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
点灯	**内気循環** 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

ガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押し、内外気切り替えスイッチを外気導入にします。
●ファンが停止中のとき、スイッチを押すと、ファンが自動的に作動します。
●スイッチを押すと、エアコンが自動的にＯＮになります。
●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

<吹き出し口>

運転席・助手席で
それぞれ温度調整をする

ＤＵＡＬスイッチを押すごとに、連動モードと独立モードに切り替わります。
作動表示灯が
●消灯しているときは連動モード
●点灯しているときは独立モード
になります。

表示	モード
消灯	**連動モード** 運転席側スイッチ操作により運転席と助手席の設定温度を同じにします。
点灯	**独立モード** 運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

独立モードのときに運転席は運転席側スイッチ、助手席は助手席側スイッチを押して、希望する室内温度に設定することができます。
上げるときはスイッチの∧側、下げるときはスイッチの∨側を押します。（0.5℃ずつ調整できます。）
●運転席と助手席でそれぞれ独立した温度調整をすることができます。

	湿度が非常に高いときにエアコンスイッチを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。 外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が雲り、視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

	バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

知 識

内外気切り替えについて

●トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切り替えスイッチを内気循環にすると効果的です。
●長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。
●ＡＵＴＯスイッチがＯＮのときは、設定温度や室内温度・外気温度などにより自動的に内気循環、または外気導入へ切り替わることがあります。

より早くガラスの曇りを取るには

ガラスの曇りを取る操作（P.315）と併せて、次の操作を行います。
●エアコンを作動させる。（エアコンスイッチを押す。）
●風量を増す。（ファンスイッチを操作する。）
●設定温度を上げる。（温度調整スイッチを操作する。）

温度調整について

●独立モードから連動モードにもどすとき、運転席と助手席で設定温度が異なる場合は運転席側の設定温度になります。
●連動モードのとき、助手席側温度調整スイッチを操作すると、自動的に独立モードに切り替わります。

エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

花粉除去スイッチの使い方

中央、左側、右側吹き出し口からフィルターを通ったきれいな風を顔周辺に送風し、降乗車時やドアガラスを開けて走行したときなどに車室内に入った花粉を早期に除去します。

スイッチを押すと花粉除去モードに切り替わり、もう一度押すと通常制御にもどります。

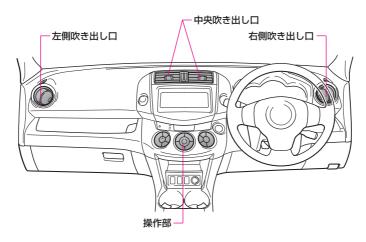
●花粉除去モード時はスイッチの作動表示灯が点灯します。

●車室内の花粉が除去されると、自動的に通常制御にもどります。ただし、ファンが停止しているときに使用した場合は、ＡＵＴＯ作動状態になります。
（通常は約3分後、外気温が低いときは約1分後に通常制御にもどります。）

知 識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

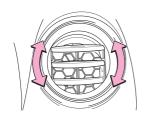
エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき使用できます。

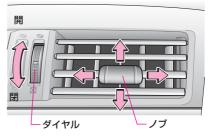
花粉除去スイッチについて

●花粉除去スイッチを押すと次のように制御されます。
- ファンが作動します。
- 内気循環に切り替わります。
- 吹き出し口は に切り替わります。（外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のため切り替わらない場合があります。）

●雨天時に花粉除去スイッチを押すと、ガラスが曇ることがあります。そのときは、フロントデフロスタースイッチ（P.315参照）を押してください。

●通常制御でも、フィルターを通ったきれいな空気が送風されます。

吹き出し口の調整

風向きのかえ方・吹き出し口の開閉のしかた

左右吹き出し口

●開けるときは、吹き出し口のフタの上側を押します。閉めるときは、フタの手前側を下に押します。

●風向きをかえるときは、吹き出し口のフタを上下左右に動かしたり、回転させます。

中央吹き出し口

●吹き出し口のノブを左右または上下に動かして風向きを調整します。

●ダイヤルで吹き出し口を開閉することができます。

知識

吹き出し口について

冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

プラズマクラスター®の使い方★

作動させるには

プラズマクラスタースイッチを押すとプラズマクラスター発生器が作動します。

●モードの切り替えは自動で行われます。
　プラズマクラスターモードのときは青色、マイナスイオンモードのときは緑色の作動表示灯が点灯します。

●右側吹き出し口から放出されます。

プラズマクラスター発生器は非常に高い電圧で作動します。分解・改造・修理などは危険ですので絶対に行わないでください。
修理などが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

プラズマクラスター発生器の吹き出し口付近にスプレーを噴霧したり、棒などの異物を挿入したりしないでください。故障や感電の原因となります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

知 識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき使用できます。

吹き出し口について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

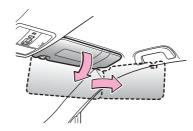
吹き出し口付近に汚れが付着する場合があります。その場合、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにしてから、やわらかい布などで清掃してください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

吹き出し口付近に汚れが付着する場合があります。その場合、エンジン スイッチを “ ＬＯＣＫ ” にしてから、やわらかい布などで清掃してください。

作動音について

プラズマクラスター発生器を作動させたとき、小さな作動音が聞こえる場合がありますが、これはプラズマクラスターイオン発生時に電子が電極に衝突する際に発生するもので、故障ではありません。

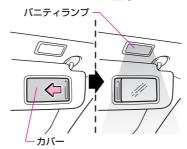
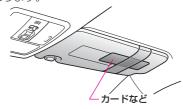
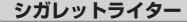
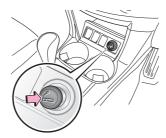
プラズマクラスターについて

プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよびPlasmaclusterはシャープ株式会社の商標です。

プラズマクラスターイオン／マイナスイオンについて

●プラズマクラスターイオンは、「除菌イオン」とよばれ、車内に浮遊するカビ菌の活動を抑制します。
●一般的にマイナスイオンは、渓流、山林部、滝などの周辺の空気中に多く存在しており、人に安らぎを与えるものとされています。
●非常に高い電圧で作動しますので、吹き出し口付近で静電気を感じることがあります。

室内装備品の使い方

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。
側面にまわして使用することもできます。

便利機能について

バニティ（化粧用）ミラー
サンバイザーの裏側にミラーがついています。カバーをスライドさせて使用します。
●カバーをスライドさせると、バニティランプが点灯します。

カードホルダー
サンバイザーの表側にあります。

シガレットライター

シガレットライターを押し込んで手を離します。
もとの位置にもどったら使用できます。

シガレットライターの金属部分に触れないでください。

●シガレットライターの金属部分に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
●シガレットライターの故障や周辺部の焼損を防ぐため、次のことをお守りください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- 他車のシガレットライターを差し込まないでください。
- ソケットからトヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。トヨタ純正品以外の電源を取り出した場合、シガレットライターを使用すると、赤熱したシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッションONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき使用できます。

移動式灰皿

使用するときは、フタを起こして開けます。

⚠警告

出火を防ぐため、次のことをお守りください。

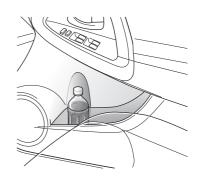
●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。

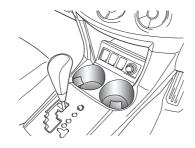
●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

知識

灰皿の収納場所について

フロントカップホルダーに収納することができます。(P.327参照)

ボトルホルダー

各席ドアにあります。
約500mlのペットボトルを収納することができます。

知識

ボトルホルダーについて

●必ずペットボトルのフタを閉めてから収納してください。

●走行するとき、ドアを開閉するときは、飲料水が入っている紙コップやガラス製の容器などを収納しないでください。飲料水などがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

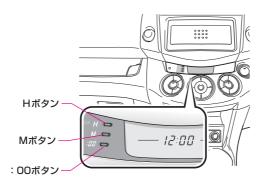
●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

カップホルダー

■フロント用

■リヤ用

リヤアームレストにあります。P.188の「アームレストの使い方」を参照してください。

警告

カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。

注意

カップホルダーを破損から守るため、カップホルダーに手をついたりしないでください。

時計

“時”“分”を調整するときは

Hボタンを押すと“時”、Mボタンを押すと“分”が早送りされます。

時報に合わせるときは

時報と同時に：00ボタンを押すと正時に合わせることができます。
●0～29分は切り下げられます。
●30～59分は切り上げられます。
（例）1：00～1：29の場合は1：00に、1：30～1：59の場合は2：00になります。

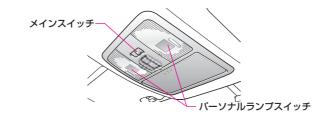
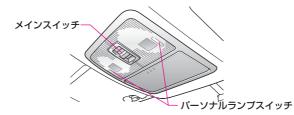
知 識

時計の表示について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのとき時刻が表示されます。
●秒表示はありませんが、次の場合は0秒から作動を開始します。
- Mボタンを押して分を調整後、Mボタンから手を離したとき
- ：00ボタンを押したとき

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”のとき時刻が表示されます。
●秒表示はありませんが、次の場合は0秒から作動を開始します。
- Mボタンを押して分を調整後、Mボタンから手を離したとき
- ：00ボタンを押したとき

フロントパーソナルランプ

ムーンルーフ装着車または、
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

上記以外

■パーソナルランプスイッチ

スイッチを押すと、押した側のライトが点灯し、もう一度押すと消灯します。

■メインスイッチ

●常に消灯させるには、スイッチをＯＦＦにします。

●スイッチをＤＯＯＲにしておくと、イルミネーテッドエントリーシステムにより点灯・消灯します。
詳しくはＰ.131、161の「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください。

注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

知 識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

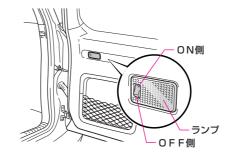
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチ の位置に関係なく使用できます。

ルームランプ

●常に点灯させるには、ＯＮにします。
●常に消灯させるには、ＯＦＦにします。
●スイッチをＤＯＯＲにしておくと、いずれかのドアを開けたとき点灯し、閉めると約15秒後に消灯します。詳しくはＰ.131、161の「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください。

	バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチ の位置に関係なく使用できます。

ラゲージルームランプ

●ＯＦＦのときは消灯します。
●ＯＮのときはバックドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

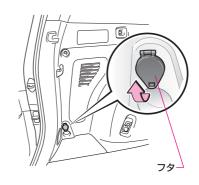
知 識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチ の位置に関係なく使用できます。

アクセサリーソケット

■フロント

コンソールボックスの下段ボックスにあります。

■リヤ

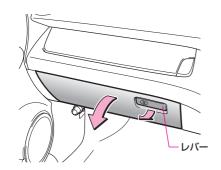
ラゲージルーム左側にあります。

車内で電気製品を使用することができるソケットです。
使用するときはフタを開けます。

アクセサリーソケットを使用しないときは、フタを閉めておいてください。

- アクセサリーソケットを使用しないときは、フタを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。
- エンジンが止まった状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。

知識

アクセサリーソケットについて

スマートエントリー & スタートシステム装着車

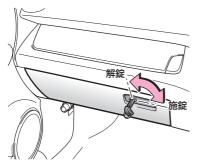
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのとき使用できます。
- 使用する電気製品は、必ずＤＣ１２Ｖで最大電流１０Ａ（最大消費電力120W）以下の電気製品を使用してください。
- 規定容量をこえる電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチが “ ＡＣＣ ” または “ ＯＮ ” のとき使用できます。
- 使用する電気製品は、必ずＤＣ１２Ｖで最大電流１０Ａ（最大消費電力120W）以下の電気製品を使用してください。
- 規定容量をこえる電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。

グローブボックス（エアコン送風機能付き）

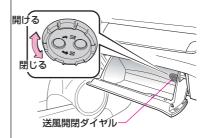
レバーを引いて開けます。

●閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

警告

グローブボックスのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

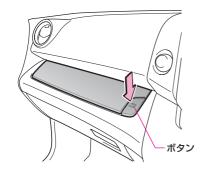
知 識

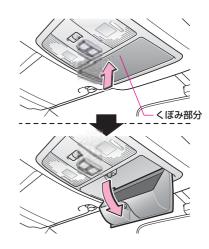
施錠について

メカニカルキーを差し込み、右にまわしたまま抜きます。

●サブキーは使用できません。

知 識

エアコン送風機能について

エアコンの風をグローブボックスへ送風することができます。
また、送風開閉ダイヤルを閉じることで、小物入れとしても使用できます。

●車室内を暖めるときは、エアコン送風機能を使用しないでください。足元から冷気が出ますので、エアコン送風機能を停止してください。

●下記の物は入れないでください。
- フタがされていない容器に入った物
- 割れ物、腐る物、匂いが強い物
- 取扱書、車検証など

助手席アッパーボックス

ボタンを押して開閉します。

警告

助手席アッパーボックスのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

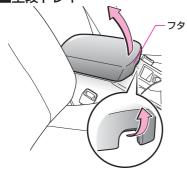
注意

急な下り坂では開けにくいことがあります。その場合は、無理に操作せず平坦な場所に移動して操作してください。無理に操作をすると、破損するおそれがあります。

オーバーヘッドコンソール

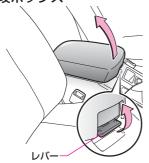
くぼみ部分を押すと開きます。

●閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

警告

●オーバーヘッドコンソールを開けたままや、重たいものを入れて走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどにものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

最大荷重………200ｇ

●メガネやライターを放置したまま、車から離れないでください。オーバーヘッドコンソール内に放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

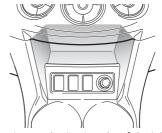
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の 解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

コンソールボックス

■上段トレイ

上段トレイを使用するときはフタを開けて使用します。

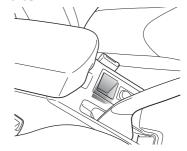
●閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

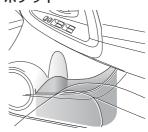
■下段ボックス

下段ボックスを使用するときは、レバーを引きながらフタを開けて使用します。

●閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

⚠警告

コンソールボックスのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

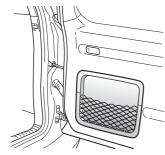
収納スペース

■センターロアボックス

中央インストルメントパネル下部にあります。

●ライトスイッチのＯＮ・ＯＦＦに連動して照明が点灯・消灯します。

■小物入れ

コンソールボックス下部にあります。

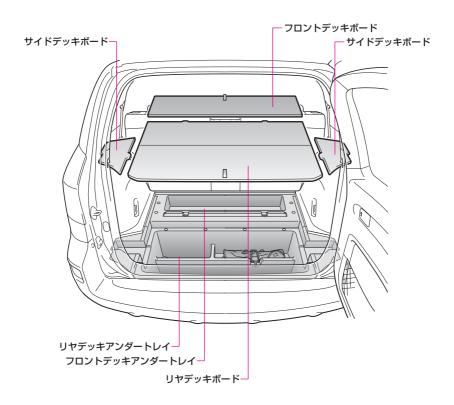
■ドアポケット

各席ドアにあります。（バックドアを除く）

■シートバックポケット

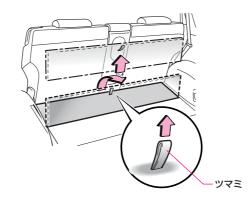
運転席・助手席シートのうしろにあります。

■バックドアポケット

バックドアにあります。

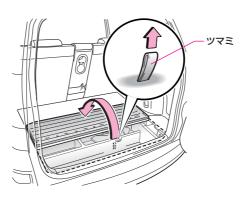
注意

シートバックポケットやバックドアポケットに、鋭利なものや重たいものを入れないでください。シートバックポケットやバックドアポケットが破損するおそれがあります。

ラゲージアンダースペース

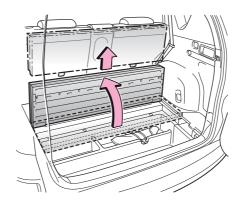
デッキボードの下には、小物などの収納や、トノカバーや工具が格納されているアンダートレイがあります。

デッキボードの開け方、取りはずし方

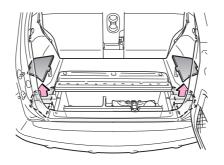
フロントデッキボード

フロントデッキアンダートレイを使用するときは、フロントデッキボードを開けます。

●ツマミを持って、起こします。取りはずすこともできます。

リヤデッキボード

リヤデッキアンダートレイを使用するときは､リヤデッキボードを開けます。

●リヤデッキボードは2段階で開けることができます。
　用途に合わせて調整してください。

■半開で使用するときは

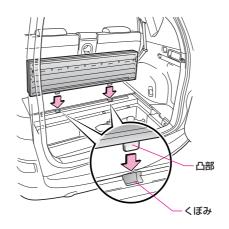
ツマミを持ってリヤデッキボード後部を、前方に倒します。

■全開で使用するときは

リヤデッキボード前部を起こします。取りはずすこともできます。

サイドデッキボード

リヤデッキボードを開いてから、取りはずしてください。

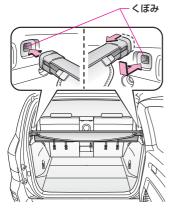
デッキボードをを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

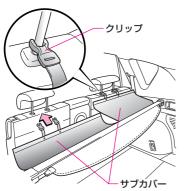
デッキボードの閉め方、取りつけ方

■取りつけるとき は

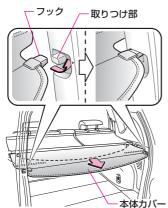
フロントデッキボード、サイドデッキボード

フロントデッキボード、サイドデッキボードは取りはずしたときと逆の手順で取りつけます。

リヤデッキボード

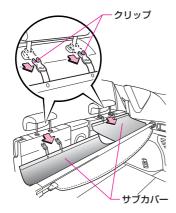
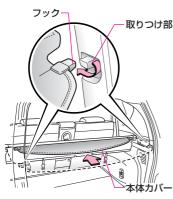
リヤデッキボードを取りつけるときは、デッキアンダートレイのくぼみとデッキボードの凸部を合わせて取りつけます。

■閉めるときは

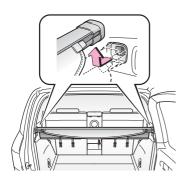
開けたときと逆の手順で取りつけます。

トノカバー

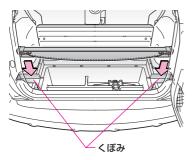
取りつけかた

1 トノカバー本体を取りつけます。

トノカバー本体左側をくぼみに取りつけ、トノカバー本体押さえながら右側を取りつけます。

2 サブカバーを取りつけます。

サブカバーのクリップをヘッドレストに取りつけます。

●クリップが取りつけられる位置までリヤシートを倒してください。（P.187参照）

3 本体カバーを取りつけます。

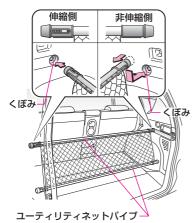
本体カバーを引き出し、カバー両側のフックを車両後方の左右の取りつけ部に差し込みます。

取りはずしかた

1 サブカバーのクリップをはずします。

2 本体カバー両側のフックを取りつけ部からはずし、カバーを巻き取ります。

3 トノカバー本体を取りはずします。

トノカバー本体を左側に押さえつけながら、右側を後方に水平に引き出すようにして取りはずします。

4 トノカバーを収納します。

リヤデッキッボードを開けてサイドデッキボードを取りはずし、トノカバーを左右のくぼみにはめ込んで収納します。

トノカバーの上に荷物を置いたり、お子さまをのせたりしないでください。トノカバーが破損し、荷物が損傷したり、お子さまが生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ユーティリティネット

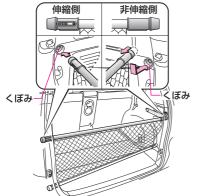
ハンモック状態にするには

1 **ユーティリティネットパイプの一本を前方のくぼみに取りつけます。**

パイプの伸縮側を、ラゲージルーム前方のくぼみに取りつけ、パイプを押さえながら非伸縮側を取りつけます。

2 **ユーティリティネットパイプのもう一本を後方のくぼみに取りつけます。**

前方側と同様にパイプの伸縮側を、ラゲージルーム後方のくぼみに取りつけ、パイプを押さえながら非伸縮側を取りつけます。

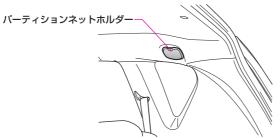
警告 **ハンモック状態で使用するときは、次のことをお守りください。**

●荷物を置くときは、リヤシートの背もたれ上端から荷物がはみ出さなようにしてください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●お子さまをを乗せないでください。パイプが折れたり、はずれたりしてお子さまが生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

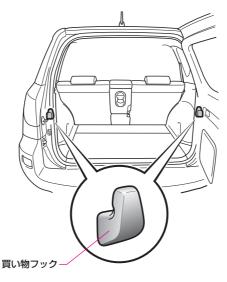
とくに重たいものや大きなものを置かないでください。
パイプが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。
最大荷重……………………10kg

荷物のずり落ち防止状態にするには

1 **ユーティリティネットパイプの一本を上側のくぼみに取りつけます。**

パイプの伸縮側を、ラゲージルーム後方左上側のくぼみに取りつけ、パイプを押さえながら非伸縮側を取りつけます。

2 **ユーティリティネットパイプのもう一本を下側のくぼみに取りつけます。**

前方と同様にパイプの伸縮側を、ラゲージルーム後方左下側のくぼみに取りつけ、パイプを押さえながら非伸縮側を取りつけます。

知識

パーティションネットホルダーについて

ラゲージルーム上部にあるホルダーは販売店オプションのパーティションネット用です。パーティションネットの取り扱いについては、トヨタ販売店にご相談ください。

買い物フック

買い物袋などを吊り下げておくことができます。

デッキフックとしても使用できます。

	とくに重たいものや大きなものをフックに吊り下げないでください。 フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。 **最大荷重**…………………**4kg**

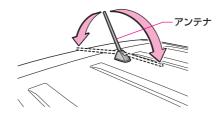
デッキフック

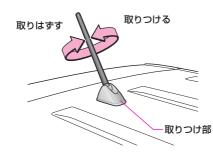
使用するときは、フックを取り出します。

注意

フックを使用しないときは、格納しておいてください。指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

コートフック

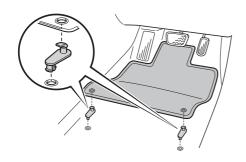
後席アシストグリップにコートフックがあります。

警告

コートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。

ＳＲＳカーテンシールドエアバッグが展開したときに飛ばされて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車)

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の 解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

アンテナ

アンテナは上図のように格納することができます。

取りはずすときは、アンテナをまわして取りつけ部から取りはずします。
取りつけるときは、アンテナを取りつけ部にねじ込み、しっかりと固定します。

■ラジオを装着された方は
ラジオ受信時は節度感のあるところまで立てて使用してください。

注意　**次のようなときにはアンテナを取りはずしてください。**

●自動洗車機にかけるときは、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。
●次のようなときはアンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを格納してください。
- 車庫の天井などにアンテナが当たるとき。
- カーカバーをかけるとき。

●洗車時などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取りつけてください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
- エンジン停止およびシフトレバーがⓅの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

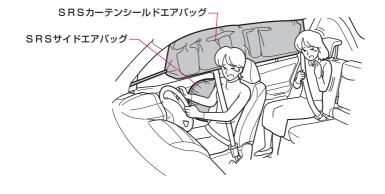
安全・快適装備の解説と注意

ＳＲＳ※エアバッグ

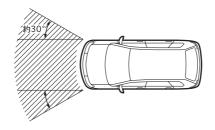
ＳＲＳエアバッグとは

ＳＲＳエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、ＳＲＳエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。
また、正しく取り扱えば効果のあるＳＲＳエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険を与えるおそれがあります。

運転席・助手席ＳＲＳエアバッグ

運転席ＳＲＳエアバッグ・助手席ＳＲＳエアバッグは、運転者または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を分散・緩和させる働きをするものです。
助手席ＳＲＳエアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

※ Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。

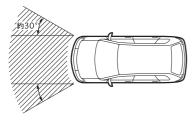
ＳＲＳサイドエアバッグ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ★

ＳＲＳサイドエアバッグは前席乗員、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは前後席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を側方から車両客室部に受けたときに、衝撃を受けた側のＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、ＳＲＳサイドエアバッグは前席乗員の胸などの上体に、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは前後席乗員のおもに頭部に作用する衝撃力を分散・緩和させる働きをするものです。
ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

ＳＲＳエアバッグの作動のしくみ

運転席・助手席ＳＲＳエアバッグの作動

車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃は車両前方・車両中央床部に取りつけられたセンサーで感知し、ＳＲＳエアバッグをふくらませるようコンピューターから信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

車両前方にグリルガードなどを装着すると、センサーが正常に衝撃を感知できなくなり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグの作動★

車両側面方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃はセンターピラー・リヤピラーに取りつけられたセンサーで感知し、ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグをふくらませるようコンピューターから信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

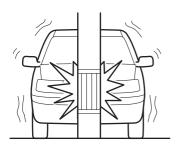
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＳＲＳエアバッグが作動するとき

シートベルトを正しく着用している乗員が、重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

作動する場合

運転席・助手席ＳＲＳエアバッグは、車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは、車両側面方向から乗員に重大な障害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

作動しにくい場合

■運転席・助手席ＳＲＳエアバッグ

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

●衝突時に変形・移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25km/h以下のときは作動しない場合があります。

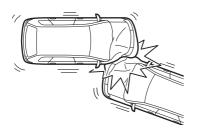
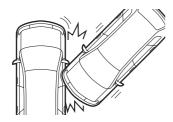
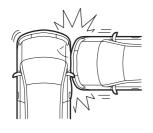
●衝突時に変形・移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合は作動しない場合があります。

次のような場合にも衝突による衝撃が緩められるため、作動しない場合があります。

●トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突した場合

●斜め前方から衝撃を受けた場合

衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、作動する車速は高くなります。

●例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。

●衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

■SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグ

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

●斜め側面から衝撃を受けた場合

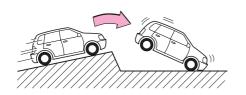
●客室部以外の側面に衝撃を受けた場合

本来の効果を発揮しない場合

次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けた場合
（運転席・助手席ＳＲＳエアバッグ）

●車両が横転、転覆した場合

車両下部に衝撃を受けた場合

次のような車両下部に強い衝撃を受けた場合には、作動する場合があります。

●縁石などにぶつかった場合

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合

警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

乗車するときには必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にＳＲＳエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.194をお読みください。
- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。ＳＲＳエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

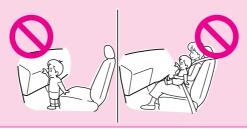
<運転者の方は>

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

<助手席乗員の方は>

助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。
シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。
シートの調整、正しい姿勢についてはP.182をお読みください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、ドアにもたれかかったり、フロント・センター・リヤピラーやルーフサイド部に近づかないようにしてください。ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。

警告

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。
- 助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。（P.49参照）
- やむを得ず前向きにして助手席に子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後調整位置をいちばんうしろにして取りつけてください。

- お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

警告 **ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。**

●車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをしないでください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。
- ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロント・センター・リヤピラー、およびルーフサイド部や天井の取りはずし・取りつけなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺を分解・修理しないでください。

- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部、または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなります。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。

- インストルメントパネル上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- ●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

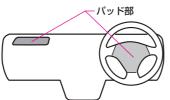
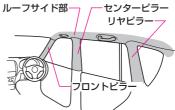
- ●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントウインドゥガラス、サイドドアガラス、フロント・センター・リヤピラーおよびルーフサイド部、アシストグリップや天井などＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー・ハンズフリーマイク・ハンガーなどを取りつけないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに、飛ばされて危険です。

- ●後席アシストグリップ部のコートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。
- ●無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- ●車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

●ステアリングパッド・インストルメントパネル上部などＳＲＳエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

●ＳＲＳエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、ＳＲＳエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。

●ＳＲＳエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある人は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出られない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、ＳＲＳエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱いかたは、まれに皮膚を刺激する場合があります。
●衝突したときなどに、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドゥガラスが破損することがあります。
●一度作動したＳＲＳエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でＳＲＳエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではＳＲＳエアバッグは作動しません。
●車やＳＲＳエアバッグを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。ＳＲＳエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
●ＳＲＳエアバッグが収納されているパッド部およびフロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●エンジン停止時およびＳＲＳエアバッグ作動時はフューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを一度ＯＦＦにします。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●エンジン停止時およびＳＲＳエアバッグ作動時はフューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、エンジン スイッチを一度 “ ＬＯＣＫ ” にします。

シートベルト関係

シートベルトの働き

プリテンショナー＆フォースリミッター付 シートベルト

フロントシートベルト

●プリテンショナー機構は、前席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
●フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

プリテンショナー機構

【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

フォースリミッター機構

【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

ＥＬＲ機構付シートベルト

シートベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

警告 プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

●プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用する。（P.194参照）
- シートを正しい運転姿勢の取れる位置に調整する。（P.182参照）

●プリテンショナー付シートベルトの取りつけ・取りはずし・分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリテンショナー付シートベルトが作動するとＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

注意 車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。

●車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

知 識

プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

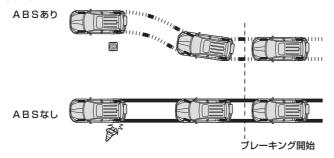
プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱いときには、作動しない場合があります。

●コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき。

なお､次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けたとき

●車両が横転、転覆したとき

作動後について

プリテンショナー付シートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

ＥＢＤ※1付ＡＢＳ※2&ブレーキアシスト

ＡＢＳ&ブレーキアシストとは

ＡＢＳの働き

ＡＢＳは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことによりスリップを抑制します。

ブレーキアシストの働き

ブレーキアシストは、緊急制動時の運転に不慣れな運転者がパニック状態に陥ったときなどに、ブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合や、定員乗車で坂道を降りるときなどにドライバーのペダル踏力を増加させ、制動力を確保する装置です。しかし、ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界がありますので、過信することなく安全運転を心がけましょう。

また、ＡＢＳ&ブレーキアシストは、車輪に取りつけられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.82の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

※1 ＥＢＤは、Electronic Brake force Distribution（エレクトロニック・ブレーキフォース・ディストリビューション）の略で「電子制動力配分制御」の意味。
※2 ＡＢＳは、Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

ＡＢＳ&ブレーキアシストが作動しているとき

運転について

●急ブレーキ時は、ＡＢＳ&ブレーキアシストが効果を発揮するように、ブレーキペダルをできるだけ速く、強く踏み続けることが必要です。

●急ブレーキ時にポンピングブレーキ※をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。
※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。

思いきり踏む。

踏み続ける。

ゆるめたり、ポンピングはしない。

作動について

ＡＢＳが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●ＡＢＳの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。

●ＡＢＳの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥に入ったりすることがあります。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

Ｓ-ＶＳＣ装着車

ブレーキペダルを急速度で踏んだときブレーキが強くかかるようになり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。また、ＡＢＳが作動することがあります。

Ｓ-ＶＳＣ装着車を除く

ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、ＡＢＳが作動することがあります。

ＥＢＤの働き

ＡＢＳの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、4輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性の確保に貢献します。

警告　ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストを過信しないでください。

●**ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストを過信しないでください。**
ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
- ＥＢＤ付ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。
  ※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●**ＥＢＤ付ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。**
次の場合などは、ＥＢＤ付ＡＢＳのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
- 砂利道、新雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

●**ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。**

知 識

作動条件について

●ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシスト（S-ＶＳＣ装着車）は、車速が約10km/hをこえると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動を止めます。
●雨の日に、マンホールのフタ・橋の継ぎ目・工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ＥＢＤ付ＡＢＳが作動しやすくなります。

作動音について

●エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、ＥＢＤ付ＡＢＳの作動をチェックしているときの音で異常ではありません。
●ブレーキペダルを踏んだとき小さな打音が聞こえることがあります。これは、ブレーキアシストの機構が作動しているときの音で異常ではありません。（S-ＶＳＣ装着車を除く）

アクティブトルクコントロール4WD

アクティブトルクコントロール4WDとは

4WD車

アクティブトルクコントロール4WDの働き

アクティブトルクコントロール4WDは、常に駆動力を自動的に4輪に配分し、安定した操縦性に寄与する装置です。

●アクティブトルクコントロール4WDの取り扱い上の注意がP.72の「4WD車についての注意」に記載されていますので、よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転を心がけるようにしましょう。

タイヤについて

アクティブトルクコントロール4WDは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.82の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

警告　**宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。**

●脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。

- 4輪の空気圧の差が著しいとき
- 空気圧が指定値からはずれているとき

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.415参照）

●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.461参照）

Super ＣＶＴ－ｉ

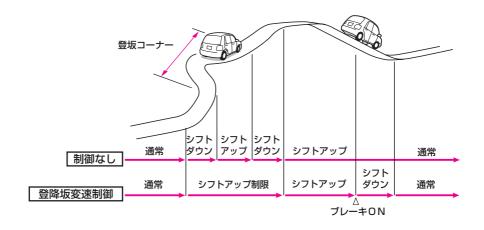
Super ＣＶＴ－ｉとは

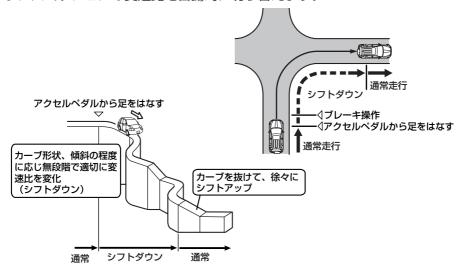
Super　ＣＶＴ－ｉは、無段変速システムやロックアップシステム、登降坂変速制御システムとの統合制御などにより、なめらかで快適な走行と燃費性能を両立させた電子制御無段変速機です。

無段変速システムの働き

無段変速システムは、一対のプーリーと金属ベルトによって無段に変速を行います。そのため、変速ショックの少ないスムーズな走行が可能です。
また、エンジンの出力を効率よく引き出すことができるため、優れた低燃費性を実現しています。

ロックアップシステムの働き

トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。
●シフトレバーが Ⓓ または Ⓜ にあれば、自動的に作動します。

登降坂変速制御システムの働き

アップダウンのあるワインディング路などをシフトレバーを**D**にして走行しているときに登坂していると判断された場合、シフトアップを制限し、スムーズな走行を実現します。
また、降坂時では降坂していると判断された場合、ブレーキを踏むと自動的にシフトダウンしエンジンブレーキがかかります。

走行中、エンジン警告灯（P.267参照）が点灯したときは、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

NAVI・AＩ※－SHIFT★

NAVI・AＩ※－SHIFTとは

シフトレバーが**D**、車速が約15～100km/hのとき、作動します。
作動中は、ナビゲーションの道路形状情報（コーナー・交差点）、道路勾配情報、運転者のアクセル・ブレーキ操作の情報をもとに、オートマチックトランスミッションの変速比を自動的に切り替えます。

状況により作動しないことがありますので、NAVI・AＩ－SHIFTを過信せず、常に道路状況に注意し、安全な速度で走行してください。

知識

作動条件について

以下のときは、NAVI・AＩ－SHIFTは作動しません。
- NAVI・AＩ－SHIFTを「しない」にしたとき
- シフトレバーが**D**以外のとき
- スポーツシーケンシャルシフトモードに切り替えたとき
- 車速が約15km/h以下、または約100km/h以上のとき
- ＧＰＳボイスナビゲーションの地図の道路上に自車位置マークがのっていないとき
- ＧＰＳボイスナビゲーションが目的地案内をしていないときの交差点走行時。ただし、交差点走行時でも走行状況によりNAVI・AＩ－SHIFTが作動する場合があります。

※ Artificial Intelligenceの略で、「人工知能」の意味。

盗難防止システム

盗難防止システムとは

車両の盗難防止のために、キーに信号発信機を内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにしたシステムです。
●キーに登録された信号は車ごとに異なります。
●車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

● " エンジン スタート ストップ " スイッチをＯＦＦにすると、システムが作動し、セキュリティ表示灯（P.253参照）が点滅します。
●登録された電子キーを携帯し、" エンジン スタート ストップ " スイッチを押すと、システムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●キーをエンジン スイッチから抜くと、システムが作動し、セキュリティ表示灯（P.253参照）が点滅します。
●登録されたマスターキー、およびサブキーをエンジン スイッチに差し込むとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

注意　盗難防止システムの故障を防ぐために次のことをお守りください。

●マスターキーおよびサブキーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障を防ぐために次のことをお守りください。
- ●キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- ●ダッシュボードの上など高温になる場所に置かないでください。
- ●磁気を帯びたキーホルダーなどをつけないでください。
- ●キーを超音波洗浄機などでは洗浄しないでください。

●エンジンイモビライザーシステムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

知 識

メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●キーグリップに金属製のリングをのせたままのとき

●キーグリップにほかのキーの金属部が接しているとき

●キーがほかの車両のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵のもの）と重なっているとき

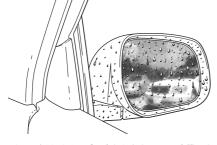
●キーがほかの車両のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵のもの）と近いとき

●キーグリップに金属製のものが接しているとき

知 識

盗難防止システムのキーについて

キーは、同じ車両でマスターキーは最大5本、サブキーは最大3本まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

ミラー・ガラス関係

レインクリアリングミラー

レインクリアリングミラーとは？

ドアミラーの鏡面には親水膜のコーティングがしてあり、雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくします。鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光を当てることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能も持っています。

普通のドアミラー

レインクリアリングミラー

※イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。

●ミラーヒーター装着車ではミラーヒーターを作動させると、水膜が晴れ、よりクリアな視界が得られます。ミラーヒーターの操作については、P.224を参照してください。

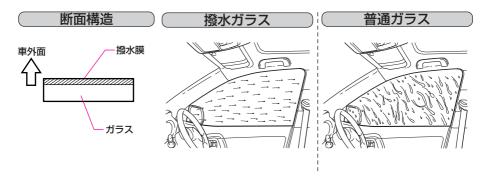
●通常の手入れは水洗いをするだけで十分です。

●霧雨や小雨などの少量の水滴に対しては親水効果が低下します。

●次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に1・2日間太陽光に当てることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときはP.409のレインクリアリングミラーの回復作業を行ってください。

- 鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手で触れたり汚れた布などで拭いたとき
- 洗車により鏡面の洗剤やワックスが付着したとき
- 地下、屋内駐車場など日の当たらない場所に長時間駐車したとき

●次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。

- 鏡面にシリコーン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき
- 鏡面に傷をつけたとき

親水効果を持続させるため、またドアミラーの傷つきを防止するため、次の注意事項を必ず守ってください。

●撥水剤（シリコーン入りのスプレー・溶剤など）・油膜取り剤（コンパウンド入りのスプレー・溶剤など）は使用しないでください。また、ドアガラスやボディに撥水剤・油膜取り剤・ワックスを使用するときは、ドアミラーの鏡面をタオルなどで覆い、ドアミラーに付着しないようにしてください。万一付着したときは、カーシャンプーやガラスクリーナーなどで洗浄したあと、多量の水で洗い流してください。（カーシャンプーやガラスクリーナーの中には、シリコーン・コンパウンドが入っているものもありますので、成分表をよくお読みください。）

●砂のついた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷つけるものでこすらないでください。

●鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。親水膜の効果を持続させるため、鏡面の凍結部分はプラスチック板などで削り落とさないでください。

撥水機能付ガラス

撥水機能付ガラスとは？

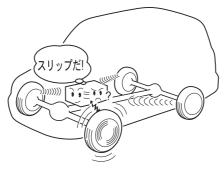
フロントドアガラスには、撥水膜のコーティングがしてあり、ガラスについた雨水などをはじき、雨天時の視界を良くします。また、コーティングにより、泥・油膜・水アカがつきにくくなり、霜や着氷も落としやすくなります。

※イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。

水滴をはじく持続期間には限りがあります。長持ちさせるために次の注意事項を必ず守ってください。

●撥水機能付ガラスが汚れているときは、なるべく早めにやわらかい湿った布などで清掃してください。
●ガラスの泥などの汚れがひどいときは、汚れを取り除いてから、フロントドアガラスの開閉を行ってください。
●撥水機能付ガラスを清掃するときは、コンパウンド（みがき粉）の入ったガラスクリーナーやワックスは使用しないでください。また、ガラスクリーナー使用時に白曇りする場合は、湿った布で拭き取ってください。
●自動洗車機を使用するときは、撥水機能付ガラス表面の泥などの汚れを落としてから洗車してください。
●金属製のもので霜取りなどをしないでください。
●撥水機能付ガラスは消耗品です。水滴のはじきが悪くなったときは、補修が必要です。また、コーティングを除去することもできます。詳しくは、トヨタ販売店におたずねください。

ＴＲＣ

ＴＲＣ※とは

S-ＶＳＣ装着車

ＴＲＣの働き

すべりやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生ずる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

●車輪がスリップしはじめると車輪速センサーからの情報でコンピューターがスリップを感知し、エンジンに対して出力を一瞬下げるようにし、また、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを防止します。
  - ＴＲＣが作動すると、スリップ表示灯（Ｐ.254参照）が点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

ＴＲＣのしくみ

タイヤのスリップは4輪に取りつけられたセンサーからの信号を比較し、いずれかの信号のみほかの車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけたり、エンジンの出力を一時的に抑えたりして、スリップを抑制させます。

※ ＴＲＣは、Traction Control（トラクション・コントロール）の略。

ＴＲＣとタイヤの関係について

ＴＲＣは、車輪についているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4輪の中で1輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方がかわり、コンピューターがスリップと判断します。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.82の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ＴＲＣを過信しないでください。ＴＲＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、スリップ表示灯（P.254参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知 識

作動条件について

スマートエントリー&スタートシステム装着車

●通常は“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると、ＴＲＣが作動可能状態になります。

●ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯（P.259参照）が点灯しているときは、ＴＲＣは作動しません。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●通常はエンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると、ＴＲＣが作動可能状態になります。

●ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯（P.259参照）が点灯しているときは、ＴＲＣは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

S-ＶＳＣ★

S-ＶＳＣ※とは

S-ＶＳＣは、電動パワーステアリングと協調制御し、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキやエンジンの出力などを制御して、車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

●S-ＶＳＣが作動すると、スリップ表示灯（P.254参照）が点滅します。
●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.82の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

S-ＶＳＣを過信しないでください。S-ＶＳＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、S-ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（P.254）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

作動条件について

●S-ＶＳＣは車速が約15km/hをこえると作動できるようになります。
●ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯（P.259）が点灯しているときは、S-ＶＳＣは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

※ S-ＶＳＣは、Steering-assisted Vehicle Stability Control（ステアリングアシステッド・ビークル・スタビリティ・コントロール）の略。

DAC

DAC※とは

S-VSC装着車

DACの働き

DACは、シフトレバーをⓂ（M1）またはⓇにしてエンジンブレーキだけでは十分減速できないような険しい急な坂道や凹凸が激しい路面やすべりやすい坂道を下るときに、タイヤをロックすることなく一定の低速度（およそ5km/h前後）を保ち、ブレーキやアクセル操作に気を遣うことなくステアリング操作を行うことができる装置です。

制御の切り替え

シフトレバーをⓂ（M1）またはⓇにして、DACスイッチを押すとメーター内の表示灯（P.256参照）が点灯し作動可能状態になります。

●DAC作動中は、メーター内のスリップ表示灯（P.254参照）が点滅します。また、同時に制動灯も点灯します。

●DAC表示灯が点滅している場合は、DACの作動条件を確認してください。（P.297参照）

警告　DACを過信しないでください。

●DACを過信しないでください。極端に急な坂道、凍結路、泥道ではすべりやすいので一定の低速度（およそ5km/h前後）を維持できない場合があります。そのため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。慎重に運転してください。

●前進で走行中は、シフトレバーをⓇに入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

DACをひんぱんに使用すると、ブレーキアクチュエーターの温度が上昇しすぎる場合があります。このような状態のときは、警告ブザーが継続的に鳴りDAC表示灯（P.256参照）が点滅します。ただちに安全な場所に停車してください。しばらくして、ブザーが鳴り止み表示灯が点滅から点灯にかわったとき、DACは作動可能状態となります。この間の通常走行は可能です。

※ DACは、Downhill Assist Control（ダウンヒル・アシスト・コントロール）の略

AUTO LSD★

AUTO LSD※とは

ＦＦ車のS-ＶＳＣ装着車

ＡＵＴＯ ＬＳＤの働き

脱輪時や、片輪がぬかるみや新雪に乗った状態での坂道からの発進時など、駆動輪のうち、どちらかが空転して発進ができない場合に、もう一方のタイヤへの駆動トルクを増大させることにより脱出を容易にするシステムです。

ＡＵＴＯ ＬＳＤのしくみ

〈ＡＵＴＯ ＬＳＤ非作動時〉

〈ＡＵＴＯ ＬＳＤ作動時〉

スリップや空転している駆動輪にブレーキをかけ、左右の駆動輪の回転差を抑え、ディファレンシャルの差動を弱めることにより、もう一方のタイヤへの駆動力を増大させます。

制御の切り替え

エンジン始動中にＶＳＣ ＯＦＦスイッチを一度押すと、メーター内のＡＵＴＯ ＬＳＤ表示灯（P.257参照）とＶＳＣ ＯＦＦ表示灯（P.259参照）が点灯し作動可能状態になります。もう一度押すとＴＲＣモードになり、メーター内のＡＵＴＯ ＬＳＤ表示灯（P.257参照）とＶＳＣ ＯＦＦ表示灯（P.259参照）が消灯します。

●ＡＵＴＯ ＬＳＤ作動中は、メーター内のスリップ表示灯（P.254参照）が点滅します。

●駆動輪のブレーキが高温になっている場合は作動しません。

●ＡＵＴＯ ＬＳＤ表示灯（P.257参照）が点滅したときは、ＴＲＣ、ＡＵＴＯ ＬＳＤ、ヒルスタートアシストコントロールおよびダウンヒルアシストコントロールが作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

※LSDは、Limited Slip Differential（リミテッド・スリップ・ディファレンシャル）の略。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

AUTO LSDを過信しないでください。

●AUTO LSDを過信しないでください。極端に急な坂道、凍結路、泥道ではすべりやすいので脱出が困難な場合があります。そのため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。慎重に運転してください。
●AUTO LSD使用中の旋回走行時には、よく注意して走行してください。車輪がスリップして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ディファレンシャルに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

AUTO LSDは、脱輪時や、砂地、ぬかるみなど走行抵抗が大きい路面でのみ使用してください。

●AUTO LSDは、脱輪時や、砂地、ぬかるみなど走行抵抗が大きい路面でのみ使用してください。
●VSC OFFスイッチを操作する際は、タイヤが空転していない状態で行ってください。
●通常走行では使用しないでください。AUTO LSD使用後はAUTO LSD表示灯が消灯していることを確認してから走行してください。
●AUTO LSDをひんぱんに使用すると、ブレーキアクチュエーターの温度が上昇しすぎる場合があります。このような状態のときは、警告ブザーが継続的に鳴りスリップ表示灯（P.254参照）が点灯します。一時的にAUTO LSDが機能しなくなりますが、しばらくしてスリップ表示灯が消灯したとき、AUTO LSDは作動可能状態となります。この間の通常走行は可能です。

ヒルスタートアシストコントロール

ヒルスタートアシストコントロールとは

S-ＶＳＣ装着車

ヒルスタートアシストコントロールの働き

ヒルスタートアシストコントロールは、急な上り坂やすべりやすい上り坂を発進するとき、ブレーキからアクセルへ踏みかえる際に発生する車両の後退を自動的なブレーキで防止し、発進を容易にする装置です。

制御の切り替え

ヒルスタートアシストコントロールは、ブレーキペダルを踏んで停車中に更にブレーキペダルを踏み込むと、作動条件（Ｐ.238参照）が満たされていたときに“ピッ”とブザーが一回鳴り作動状態になります。

●ヒルスタートアシストコントロール作動中は、スリップ表示灯（Ｐ.254参照）が点滅します。また、同時に制動灯も点灯します。

●作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約2秒間です。

警告　ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に発進してください。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための装置ではありません。坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ディスチャージヘッドランプ

ディスチャージヘッドランプとは

ディスチャージヘッドランプは、バルブ管内のガスと金属ヨウ化物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知 識

オートレベリング（上下照射方向自動調整）システムについて

荷物の積載状況などによる車両姿勢の変化に対応して、ヘッドランプの光軸を自動的に調整する装置です。

6 車との上手な付き合い方

雨の日の運転について

雨の日の運転

すべりやすい路面は慎重に走行してください

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日はハイドロプレーニング現象※でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

警告 **すべりやすい路面では、慎重に運転してください。**

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冠水した道路は走行しないでください

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷を与えるおそれがあるので走行しないでください。

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）

●プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備・点検

エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。（P.460の「推奨するエンジンオイル」参照）

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	−12℃
寒冷地	50%	−35℃

アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

バッテリーの液量・比重を点検する

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量・比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

●タイヤを取り替えるときは、必ずP.82の「タイヤについての注意」を参照してください。
●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
●必ずＲＡＶ4指定のトヨタ純正品を使用してください。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると車体側にあたり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

寒冷地用ワイパーブレードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
●寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時季は、通常のワイパーブレードを使用してください。

運転する前に

屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

ガラスについた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使うと、ガラスを傷つけずに落とすことができます。

フロントウインドゥガラスについた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントウインドゥガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

足まわりなどについた氷塊は

車体などに傷をつけないように取り除いてください。

外気取り入れ口に積もった雪は

フロントウインドゥ前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。
雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー・ドアミラー・ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。
スイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

ドアが凍結したときは

お湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

靴についた雪をよく落とす

ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

すべりやすい路面では“急”のつく操作はしない

急発進・急ハンドル・急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。
橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。

シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フェンダー裏側についた氷は

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置についた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーン、または冬用タイヤを装着してください。タイヤを取り替えるときは、必ずP.82の「タイヤについての注意」を参照してください。

警告 **冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。**

●指定サイズのタイヤを使用してください。
●指定空気圧に調整してください。
●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

タイヤチェーン

●タイヤチェーンは前2輪に取りつけてください。
●タイヤチェーンの取り扱い方法はタイヤチェーンに付属の取り扱い説明書にしたがってください。
●タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
●必ずＲＡＶ4指定のトヨタ純正品を使用してください。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると車体側にあたり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤチェーンを取りつける前に

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりかけます。以下の手順により準備作業を行います。

〈手順〉

1 エンジンを停止します。

シフトレバーを🅟にし、エンジンを止めます。

2 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3 工具を用意します。

ジャッキ・ジャッキハンドルを用意します。（Ｐ.466の「ジャッキ・工具」参照）

4 タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取りつける場合には、輪止めが必要です。

●輪止めについては、トヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

警告　タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は約30km/h以下、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため、必ず慎重に走行してください。

●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

タイヤチェーンを取りつけるときは、ホイールやホイールキャップに傷をつけないよう注意してください。

●アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに傷がつくことがあります。

●トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

駐車するときは

エンジンをかけたままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは

パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをⓅにし、輪止めをします。

■やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをⓅにします。

- 輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボンネット側を風下に向ける

風の当たる部分は、想像以上に低温となりますので、バッテリー性能低下を防ぐためにもボンネット側をできるだけ風下に向けて駐車してください。

ワイパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍りついたりします。ワイパーアームは立てて駐車してください。フロントワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側のワイパーアームから立ててください。また、もとにもどすときは、助手席側のワイパーアームからもどしてください。

経済的な運転

環境にやさしく経済的な運転をするために

長時間停車するときは、エンジンを停止します。
5分間のアイドリングをやめて、ガソリン約65ccの節約。
▶CO_2 約420g削減（10回／月）

不要な荷物はおろして走行。
10kgの荷物をおろして50km走ると、ガソリン約15ccの節約。
▶CO_2 約130g削減（650km／月）

空ぶかしは禁物。
空ぶかしを1回やめて、ガソリン約6ccの節約。
▶CO_2 約1150g削減（300回／月）

エアコンは少し控えめに。
エアコンを6分間停止して、ガソリン約70ccの節約。
▶CO_2 約1340g削減（3時間／月）

タイヤの空気圧は、こまめにチェック。
適正値で50km走ると50kPa ｛0.5kg/㎠｝ 減のときに比べて、ガソリン約150ccの節約。
▶CO_2 約1250g削減（650km／月）

発進・加速はスムーズに。
急発進を1回やめてガソリン約17cc、急加速を1回やめて約11ccの節約。
▶CO_2 約360g削減（各20回／月）

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

経済速度でロスなし走行。
一般道路で40〜50km/h、高速道路では80km/hがベスト。
100km/hを80km/hにして、燃費が約10〜30%向上。
●法定速度を守り、安全運転を心がけてください。

たとえば下り坂、減速
早めにアクセルをもどしエンジンブレーキを使いましょう。
ガソリンエンジンでは、燃料噴射の停止により、燃費が良くなります。

平地走行でも
アクセルペダルから思いきって足を離してみてください。
思ったほどスピードは落ちないものです。燃料噴射の停止を上手に活用しましょう。一定走行ならアクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど、低燃費となります。

環境保護のために

使用済み部品・廃オイル類は適正な処理をする

●バッテリーは、鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務づけられています。
バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。

●タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●エンジンオイルは、放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●不凍液は､冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。川などに流すと、水質汚濁の原因となりますので、不凍液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。

●エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスＣＦＣ12）は、大気に放出されると、オゾン層の破壊を進めます。
トヨタでは、オゾン層を破壊しない代替フロンガス（ＨＦＣ134a）に全車切り替えを完了しています（93年完了）。
それでも、代替フロンガス（ＨＦＣ134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検を併せて行い、もれ箇所を修理したうえで、ガス充てんをしてください。

7 メンテナンス

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

洗車・ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

月に1度はワックスがけを行ってください

月に1度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

注意　塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。

●塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死骸などが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、科学物質などの落下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

外装の手入れ

洗車するときは

十分水をかけながら汚れを洗い落とし、洗い落としたあとは、水を拭き取ります。

●車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
●車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
●汚れのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
●はん点が残らないように、水を拭き取ります。

自動洗車機を使うときは

●ドアミラーを格納し、アンテナは取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取りつけて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
●ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
●洗車機によっては、リヤスポイラーがひっかかり洗車できない場合や、傷ついたり破損するおそれがあります。

高圧洗車機を使うときは

●ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。
●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

アルミホイールの手入れ

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。
●光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

ワックスがけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）に行います。

撥水機能付ガラス・レインクリアリングミラーについて

手入れについてはP.377の「レインクリアリングミラー」、P.379の「撥水機能付ガラス」の注意事項を必ず守ってください。

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流します。

2 水を含ませたきれいな柔らかい布などで汚れを落とします。

3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流します。

4 きれいな柔らかい布などで鏡面についた水をふき取ります。

5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を5時間程度当てます。
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります。）

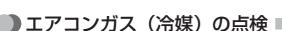
⚠警告　エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品がショートして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
●寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。
●洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

洗車をするときは、けがをしないように注意してください。

●下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。
●洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷がつきます。
●ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどでこすったりしないでください。破損したり、劣化を早めることがあります。

室内の清掃

カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。

⚠警告　車内に水をかけないでください。

●車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
●内装（とくにインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⚠注意　クリーナーに含まれる成分に注意してください。

●内装の手入れをするときは、ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので、よく確認のうえ使用してください。
●芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンなど）に直接触れさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
●バックドアガラスの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●バックドアガラスの内側を掃除するときは、熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
●ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は、水、またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください
●内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

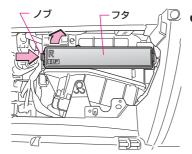
エアコンの手入れ

エアコンガス（冷媒）の点検

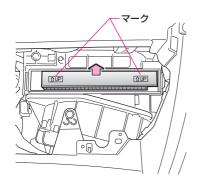
冷媒が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検・補充をしてください。

クリーンエアフィルターの交換

1 スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにします。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にします。

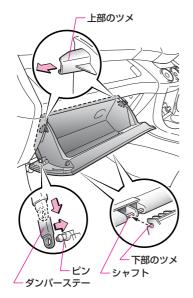
2 グローブボックスをはずします。

グローブボックスを開け、側面を内側に押して、上部のツメを片方ずつはずしてから、ダンパーステーのピンをはずし、グローブボックスを軽く手前に引きながら徐々に下げ、下側のツメをはずして取りはずします。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

3 **フィルターケースのフタをはずします。**
フタの左側にあるノブをつまみながら手前に引いて、取りはずします。

4 **フィルター交換時のみフィルターを交換します。**
フィルターを取りはずし、新しいフィルターに交換します。

●フィルターにある「⇧UP」のマークの矢印が上になるように確実に取りつけます。

5 **フィルターケースのフタを取りつけます。**
フィルターケースの切り欠きにフタのツメをあわせて取りつけます。

●フタの「⇧UP」マークの矢印が上になるようにして確実に取りつけます。

6 **グローブボックスを取りつけます。**

グローブボックス下部のツメの切り欠きをシャフトの面に合わせてはめ込み、ダンパーステーにピンを取りつけてから、グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片方ずつはめて、グローブボックスを閉めます。

注意 **エアフィルターを交換するときは、次のことをお守りください。**

●エアコンの風量が著しく減少したときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

●エアフィルターの裏と表を間違えないように、エアフィルターをフィルターケースに確実に取りつけてください。

●必ずエアフィルターを装着した状態でエアコンを使用してください。エアフィルターを装着せずにエアコンを使用すると故障の原因となることがあります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●フィルターの清掃・交換は、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにしてから行ってください。

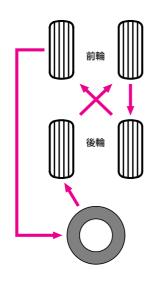
スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

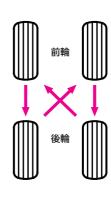
●フィルターの清掃・交換は、エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”にしてから行ってください。

知識

エアフィルターの清掃・交換について

●エアコンにはエアフィルターが取りつけられています。快適にお使いいただくため定期的な清掃・交換をおすすめします。
●エアフィルターの交換は工具なしで行うことができます。
●エアフィルターの清掃、交換用エアフィルターについてはトヨタ販売店にご相談ください。

清掃の目安…15,000km【7,500km】ごと。
交換の目安…30,000km【15,000km】ごと。
【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

タイヤの点検

タイヤローテーション（タイヤ位置交換）

タイヤの摩耗を4輪ともに均等にし、寿命をのばすために、5,000kmごとにタイヤローテーションを行います。

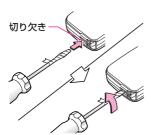
●搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。（スペアタイヤ装着車）

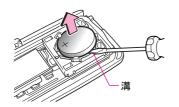
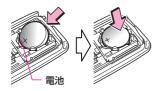
スペアタイヤ装着車

スペアタイヤ非装着車

注意 日常点検として必ずタイヤを点検してください。

●日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。（P.82「タイヤについての注意」参照）

●タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。（P.95「その他の注意」参照）

スマートエントリー&スタートシステム装着車

電子キーの電池交換

1 メカニカルキーを取り出します。
ノブのキーマークのある側を押しながら、メカニカルキーを引き出します。

2 キーカバーをはずします。
市販のマイナスドライバーの先端を電子キーの切り欠きに差し込み、ひねりながらカバーをはずします。
●傷付き防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

3 電池をはずします。
市販の精密ドライバーなどを溝に挿入し、電池を取り出します。

4 新しい電池を取りつけます。
電池を斜めに挿入し、上から押さえつけ、確実に取りつけます。
●電池の⊕側を上にして取りつけます。

5 キーカバーを取りつけます。

6 メカニカルキーを取りつけます。

7 作動確認をします。
いずれかのスイッチを押したとき、本体のＬＥＤが点灯することを確認します。

取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

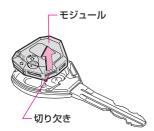
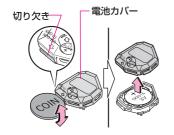
- 電池交換時にはネジなどの部品を紛失しないようにご注意ください。
- 電池以外の部品にふれたり、動かしたりしないでください。
- 電池の ⊕ 極と ⊖ 極は必ず正しい向きにして取りつけてください。
- 電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。
- 基盤などの内部部品を取り出さないでください。

電池について

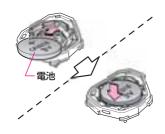
使用電池……リチウム電池ＣＲ1632
電池はトヨタ販売店、時計店、カメラ店などでお求めください。

電池交換について

電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

ワイヤレスドアロックリモコンの電池交換

1 カバーをはずします。

市販の精密ドライバーなどで切り欠き部分をこじって、カバーをはずします。

●カバーの傷つき防止のために、ドライバーの先端に薄手のテープを巻いておきます。

2 モジュールをはずします。

切り欠きに爪などをかけて、モジュールを本体から取り出します。

3 電池カバーをはずします。

切り欠きにコインなどをかけて、電池カバーを取りはずします。

4 電池を交換します。

古い電池を取り出し、新しい電池の⊕側を上にして挿入します。

5 電池カバーを確実に取りつけます。

6 モジュールのキーカバーを取りつけます。
モジュールを本体の中にもどし、キーカバーを取りつけます。

7 作動確認をします。

取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

- 電池交換時にはネジなどの部品を紛失しないようにご注意ください。
- 電池以外の部品にふれたり、動かしたりしないでください。
- 電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取りつけてください。
- 電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。
- 基盤などの内部部品を取り出さないでください。

知 識

電池について

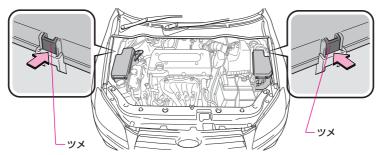
使用電池……リチウム電池ＣＲ2016
電池はトヨタ販売店、時計店、カメラ店などでお求めください。

電池交換について

電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

ヒューズの点検・交換

ヒューズの点検・交換のしかた

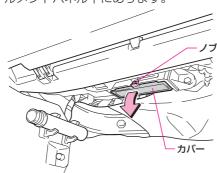
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。
次の手順でヒューズの点検・交換を行ってください。
●ヒューズについてはトヨタ販売店にご相談ください。

1 スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにします。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＬＯＣＫ ” にします。

2 **ヒューズボックスを開けます。**

ヒューズラベルが、フタまたはカバーに表示されています。

■エンジンルーム内ヒューズボックス

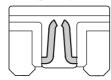
ツメを押しながらカバーを取りはずします。

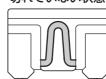
■室内ヒューズボックス

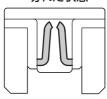
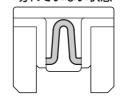
助手席インストルメントパネル下にあります。

ノブを引いてカバーを取りはずします。

3 ヒューズの点検をします。

故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。

- ●ヒューズはずし、予備ヒューズは、エンジンルーム内ヒューズボックス（運転席側）の中に入っています。（P.422参照）
- ●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。
- ●ヒューズについてはトヨタ販売店にご相談ください。

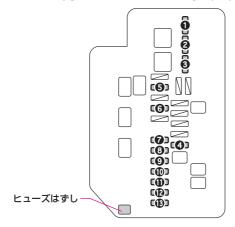
4 ヒューズを交換します。

ヒューズが切れていたら、ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

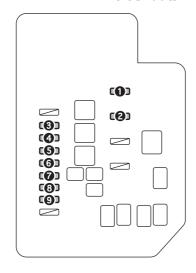
- ●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。
- ●以下の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
  - ●取り替えても再びヒューズが切れるとき
  - ●取り替えても電気系統の装置が働かないとき

切れた状態

切れていない状態

切れた状態

切れていない状態

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ヒューズの表

■エンジンルーム内ヒューズボックス（運転席側）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	SPARE	30A	予備ヒューズ
❷	SPARE	20A	予備ヒューズ
❸	SPARE	10A	予備ヒューズ
❹	DEICER	20A	熱線入りウインドシールドガラス
❺	ECU−B2	7.5A	エアコンシステム
❻	STR LOCK	20A	電子制御ステアリングロック
❼	RAD NO.1	20A	ナビゲーションシステム
❽	ECU−B	10A	ボデーECU、メーター、時計、 ヒーターコントロールパネル
❾	DOME	10A	イルミネーテッドエントリーシステム、 バニティランプ、室内灯、ラゲージルームランプ
❿	HEAD LH	10A	ヘッドランプ（左）ハイビーム
⓫	HEAD RH	10A	ヘッドランプ（右）ハイビーム
⓬	HEAD LL	15A	ヘッドランプ（左）ロービーム
⓭	HEAD RL	15A	ヘッドランプ（右）ロービーム

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

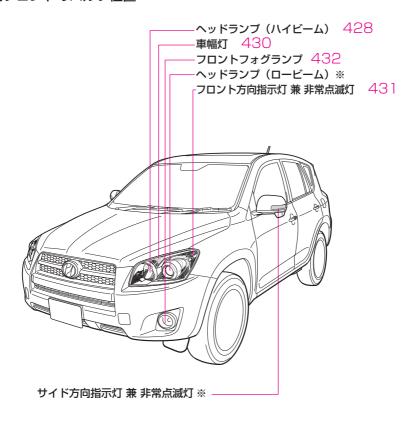
■エンジンルーム内ヒューズボックス（助手席側）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	ＥＦＩ　ＭＡＩＮ	20A	ＥＦＩコンピューター
❷	HORN	10A	ホーン
❸	AM2	30A	スターター
❹	ＩG2	15A	インジェクター、イグナイタ
❺	HAZ	10A	非常点滅灯
❻	ETCS	10A	ＥＦＩコンピュータ
❼	AM2─2	7.5A	メインボデーＥＣＵ
❽	ＥＦＩ　NO.1	10A	ＥＦＩコンピュータ
❾	ＥＦＩ　NO.2	10A	ＥＦＩコンピュータ

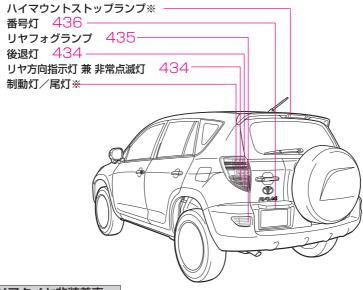
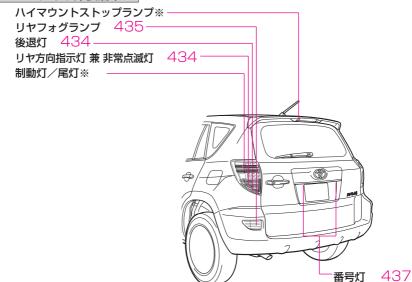
＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

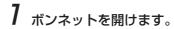
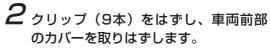
■室内ヒューズボックス

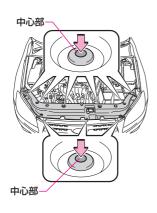
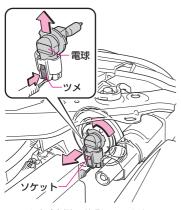
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	―	―	―
❷	―	―	―
❸	WIP	25A	ワイパー
❹	RR WIP	15A	リヤワイパー
❺	WSH	15A	ウォッシャー
❻	ECU―IG1	10A	ABS、S-VSC、4WD、電動パワーステアリング
❼	ECU―IG2	10A	エアコン
❽	OBD	7.5A	ダイアグノーシスコネクター
❾	STOP	10A	制動灯
❿	―	―	―
⓫	DOOR	25A	ドアECU
⓬	ACC―B	25A	ACCリレー
⓭	4WD	7.5A	4WDコンピューター
⓮	FR FOG	15A	フロントフォグランプ
⓯	AM1	7.5A	IGリレー、ACCリレー、スターターリレー
⓰	TAIL	10A	尾灯
⓱	PANEL	7.5A	スイッチ照明、エアコン照明
⓲	GAUGE1	10A	後退灯、オルタネーター
⓳	P FR DOOR	20A	助手席側前席パワーウインドゥ
⓴	RL DOOR	20A	助手席側後席パワーウインドゥ
㉑	RR DOOR	20A	運転席側後席パワーウインドゥ
㉒	S／ROOF	25A	ムーンルーフ
㉓	CIG	15A	シガレットライター
㉔	ACC	7.5A	電動格納式ドアミラー、シフトロックシステム
㉕	―	―	―
㉖	MIR HTR	10A	ミラーヒーター
㉗	PWR OUTLET	15A	アクセサリーソケット
㉘	―	―	―
㉙	RR FOG	10A	リヤフォグランプ
㉚	IGN	7.5A	EFIコンピューター、エアバッグコンピューター
㉛	GAUGE2	7.5A	メーター

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

外装の電球（バルブ）交換

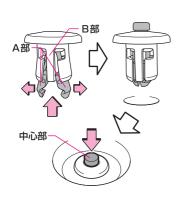
この車の外装には、下図で示した電球（バルブ）があります。
●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。
●※印が記載してある電球の交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■フロントのバルブ位置

■リヤのバルブ位置

スペアタイヤ装着車

スペアタイヤ非装着車

ヘッドランプ（ハイビーム）

■取りはずしかた

1 ボンネットを開けます。

2 クリップ（9本）をはずし、車両前部のカバーを取りはずします。

クリップの中心部を押し込んでロックをはずし、引き抜きます。

●取りはずしたクリップを紛失しないように注意してください。

3 運転席側ではクリップをはずし、ウォッシャー液注入口の位置を移動します。

クリップの中心部を押し込んでロックをはずし、引き抜きます。

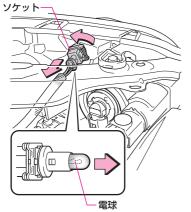
●取りはずしたクリップを紛失しないように注意してください。

※ 図は助手席側で説明しています。

4 ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ツメを押してソケットから電球を取りはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

取りはずしたクリップを取りつけるときは、クリップを左図の状態のようにA部を広げながら押し込みB部に収納し、クリップをカバーの穴に差し込みクリップの中心部を押し込みます。

車幅灯

■取りはずしかた

1 ボンネットを開けます。

2 クリップ（9本）をはずし、車両前部のカバーを取りはずします。

（P.428参照）

3 運転席側ではクリップをはずし、ウォッシャー液注入口の位置を移動します。

（P.428参照）

※ 図は助手席側で説明しています。

4 ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ソケットから電球を引き抜きます。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずしかた

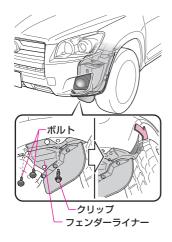
1 ボンネットを開けます。

2 クリップ（9本）をはずし、車両前部のカバーを取りはずします。

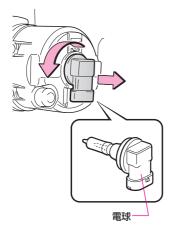
（P.428参照）

3 運転席側ではクリップをはずし、ウォッシャー液注入口の位置を移動します。

（P.428参照）

4 ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ソケットから電球を取りはずします。

※ 図は助手席側で説明しています。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

フロントフォグランプ

■取りはずしかた

1 **ボルトとクリップをはずし、フェンダーライナーをずらします。**

ボルト（2本）とクリップ（1本）をはずし、フェンダーライナーとバンパーの間から手が入れられるように、フェンダーライナーをうしろ側へずらします。

2 **ツメを押して電球からソケットを取りはずします。**

3 **電球を矢印の方向にまわして取り出します。**

※ 図は助手席側で説明しています。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

フロントフォグランプの電球を交換するときは、けがなどをしないよう十分に注意してください。

めくったフェンダーライナーとバンパーとの隙間に手を入れて作業するときは、フェンダーライナーやボディの角などで手を切らないよう軍手などを着用し、けがをしないよう注意してください。

リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯、後退灯

※ 図は助手席側で説明しています。

■取りはずしかた

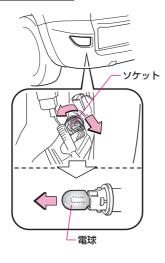
1 バックドアを開けます。

2 カバーをはずします。

カバーの切り欠き（2カ所）にマイナスドライバーを差し込んで取りはずします。

●傷つき防止のため、マイナスドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

4 交換したい電球を取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ソケットから電球を引き抜きます。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

リヤフォグランプ

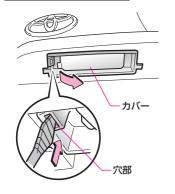
寒冷地仕様車

■取りはずしかた

ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、電球を引き抜きます。

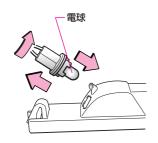
■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

警告

運転席側のリヤフォグランプを交換するときは、マフラーが冷えてから交換してください。エンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、手や足が触れるとやけどをするおそれがあり危険です。

※ 図は助手席側で説明しています。

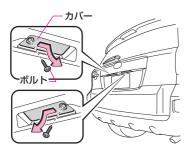
番号灯

スペアタイヤ装着車

■取りはずしかた

1 **カバーを取りはずします。**

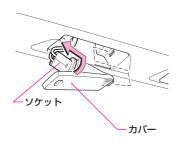
カバーの穴部にマイナスドライバーを差し込み、穴部を矢印の方向（運転席側）に押しながら、カバーを引き出します。

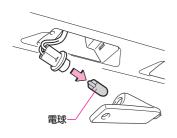
●傷つき防止のため、マイナスドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

2 **ソケットと電球を取りはずします。**

ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を引き抜きます。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

番号灯

スペアタイヤ非装着車

■取りはずしかた

1 カバーを取りはずします。

ボルトをはずし、カバーを取りはずします。

2 ソケットとカバーを取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして、ソケットからカバーを取りはずします。

3 電球を取りはずします。

ソケットから電球を引き抜きます。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

電球の交換をするときは必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

●ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

電球は十分注意して取り扱ってください。

●ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。

●必ず同じワット数の電球を使用してください。（P.457参照）

●電球および電球固定具の取りつけは確実に行ってください。取りつけが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。

●電球の交換をするときは、工具や電球、電球固定具、ソケットなどをなくさないように注意して作業してください。

知 識

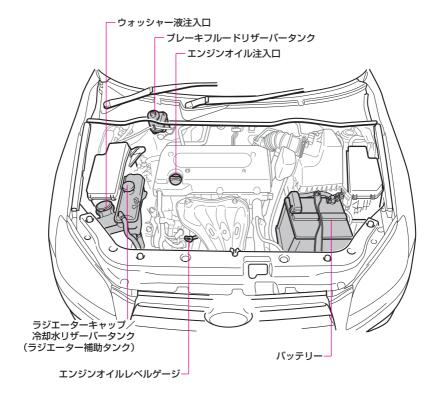
ランプの曇りについて

ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯、後退灯がはずしづらい場合は

カバーをはずしたあと、ツメから配線をはずし、ソケットを取りはずします。

日常点検

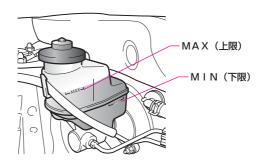
日常点検について

日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時・給油時などを目安に実施してください。

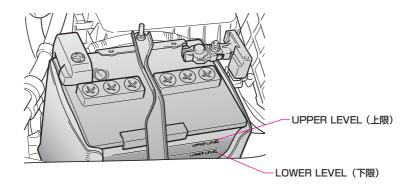
ここでは、点検内容を簡単に説明します。

- 基準値については、P.456の「メンテナンスデータ」を参照してください。
- 点検方法および実施時の注意事項は、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

エンジンルームの点検

ウォッシャー液注入口
ブレーキフルードリザーバータンク
エンジンオイル注入口
ラジエーターキャップ／
冷却水リザーバータンク
（ラジエーター補助タンク）
バッテリー
エンジンオイルレベルゲージ

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていないことを確認してください。万一、置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

ブレーキの液量

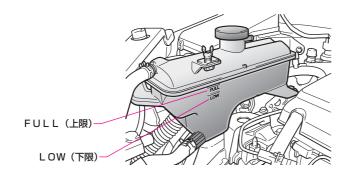
ブレーキフルードの量がリザーバータンクのＭＡＸ（上限）とＭＩＮ（下限）の間にあるかを点検します。

ブレーキフルードが不足していると、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

バッテリーの液量

バッテリー液面が各液槽ともバッテリーのUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間にあるかを車両をゆするなどして点検します。

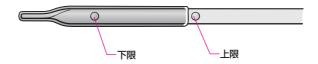
注意

バッテリー液が不足すると、バッテリーあがりやバッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

知 識

バッテリーについて

UPPER LEVEL・LOWER LEVELの表示は搭載されるバッテリーにより、意匠・表示されている場所が異なります。

冷却水の量

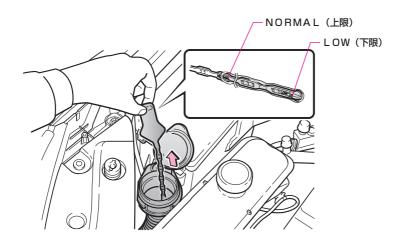
冷却水の量がリザーバータンクのＦＵＬＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあるかを点検します。

エンジンが十分に冷えてから点検します。

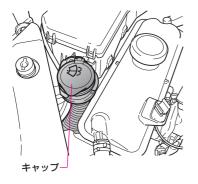
冷却水の量が不足しているとラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。また、水のみで使用していると、寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ずスーパーロングライフクーラント（不凍液）を適切な濃度でご使用ください。

エンジンオイルの量

エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。

エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

- ●エンジンを止めてください。
  - ●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●エンジンオイルの温度が低いときに点検・交換してください。
- ●エンジンが止まっていても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

エンジンオイルは、定期的に点検・交換してください。

- ●定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼きつきなどを起こしてエンジンに損傷を与えるため、定期的に点検・交換をしてください。
  - ●エンジンオイルはエンジン内部の潤滑・冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- ●オイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。
- ●エンジンオイルを点検するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように、布などを当てて点検してください。万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

ウインドゥウォッシャーの液量

ウォッシャー液注入口のキャップを開け、液面がＮＯＲＭＡＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあることを、レベルゲージで確認します。
●液面がＬＯＷに近づいたらウォッシャー液を補給してください。

■ウォッシャー液を補給するには

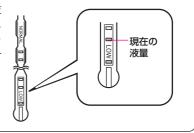
1 キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2 ウォッシャー液を補給します。

補給が終わったら、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。

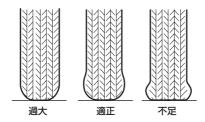
エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみになるおそれがあります。

知 識

リヤワイパーのウォッシャー液の補給について

リヤワイパー用ウォッシャータンクはフロントワイパー用と兼用です。

ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわった（ＬＯＷの位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

車のまわりの点検

タイヤの点検については、P.82の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤの空気圧

タイヤが冷えている（走行前）状態でタイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）を見て、空気圧が適正であるかを点検します。

●月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
●空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※ 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

知識

指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはメンテナンスデータ（P.461）でご確認ください。

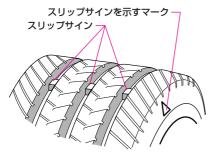
●スペアタイヤも点検してください。（スペアタイヤ装着車）

●指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくと、タイヤを目視点検するときに参考になります。

●指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。

「タイヤ空気圧」の表

タイヤのき裂・損傷

タイヤの側面や接地部全周に著しい傷やき裂がないかを点検します。また、釘・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。

タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
　また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
　走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常摩耗

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※

〈例：スリップサインが出ている状態〉※

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現れていないかを点検します。また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

※ 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

警告

摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※ 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

灯火装置・方向指示器の汚れ・損傷

各ランプのレンズに、汚れや破損・ヒビ割れなどがないかを点検します。

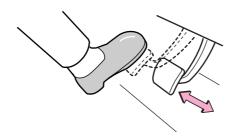
知 識

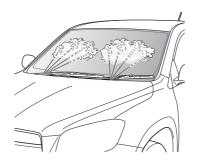
ランプの曇りについて

ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

運転席に座っての点検

パーキングブレーキの引きしろ

パーキングブレーキが止まるまでゆっくりと引き、“カチカチ”音が基準値の範囲で止まるかを点検します。

エンジンのかかり具合

エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合いは良いかを点検します。
また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

ブレーキペダルの踏みしろ

エンジンを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。

ウインドゥウォッシャーの噴射状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーを作動させ、噴射状態を点検します。

ワイパーの払拭状態

ウインドゥウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。

洗車するときやワイパーゴムを交換するときなど、フロントワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側のワイパーアームから立ててください。また、もとにもどすときは、助手席側のワイパーアームからもどしてください。

灯火装置・方向指示器の作用

各灯火装置・方向指示器を作動させ、ランプが点灯・点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検

ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。

	走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあったり、止まったりしないかを点検します。また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ

メンテナンスデータ

点検基準値

<table>
<tr><th colspan="3">項　　目</th><th>メンテナンスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ブレーキペダル</td><td colspan="2">遊び［mm］
（負圧なしの状態）</td><td>1〜6</td></tr>
<tr><td rowspan="2">踏み込んだときの
床板とのすき間［mm］
〔踏力500N｛50kgf｝〕
（エンジンONの状態）</td><td>S-VSC装着車</td><td>105</td></tr>
<tr><td>S-VSC装着車
を除く</td><td>80</td></tr>
<tr><td>パーキング
ブレーキ</td><td colspan="2">引きしろ［ノッチ※］
〔操作力200N｛20kgf｝〕</td><td>6〜8</td></tr>
<tr><td>Vリブドベルト</td><td colspan="2">たわみ量</td><td>非調整式</td></tr>
</table>

※ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

電球のワット数

項	目	メンテナンスデータ
電　　球	W（ワット）数	ヘッドランプ ●ハイビーム ……………………………… 60W （バルブタイプ：ＨＢ3） ●ロービーム ……………………………… 35W （バルブタイプ：D4S） 車幅灯…………………………………………… 5W フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ）※1 …………………21W サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯 …… ＬＥＤ※2 フロントフォグランプ★ ………………… 55W （バルブタイプ：Ｈ11） 番号灯…………………………………………… 5W 制動灯／尾灯 …………………………ＬＥＤ※2 リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ）※1 …………………21W 後退灯 ……………………………………… 16W リヤフォグランプ★ ……………………… 21W ハイマウントストップランプ ………ＬＥＤ※2 バニティミラーランプ……………………… 8W フロントパーソナルランプ………………… 8W ルームランプ………………………………… 8W ラゲージルームランプ……………………… 5W 足元照明★ ……………………………ＬＥＤ※2

※1 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。
※2 ＬＥＤは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光素子です。

冷却水・油脂類の容量と銘柄

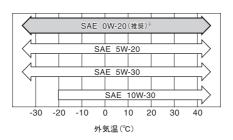
使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

項　　目		容量［L］ （参考値）	指　定　銘　柄
冷　却　水		6.2	トヨタ純正スーパー ロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度30%　－12℃ 濃度50%　－35℃
オートマチック トランスアクスルフルード （ディファレンシャル）		8.7	トヨタ純正 ＣＶＴフルードＴＣ
トランスファーオイル	4WD車	0.45	トヨタ純正ハイポイド ギヤオイルＳＸ (API GL-5, SAE85W-90)
リヤディファレンシャル オイル	4WD車	0.5	トヨタ純正ハイポイド ギヤオイルＳＸ (API GL-5, SAE85W-90)
ブレーキフルード		——	トヨタ純正ブレーキ フルード2500H

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

項　　目	容量［L］（参考値）		指定銘柄
	オイルのみ交換時充てん量	オイルとオイルフィルター交換時充てん量	
エンジンオイル	4.1	4.3	トヨタ純正 モーターオイルSM 0W-20 ※ （API SM，EC/ILSAC GF-4，SAE 0W-20） トヨタ純正 モーターオイルSM 5W-30 （API SM，EC/ILSAC GF-4，SAE 5W-30） トヨタ純正 モーターオイルSM 10W-30 （API SM，EC/ILSAC GF-4，SAE 10W-30） トヨタ純正 モーターオイルSL 5W-20 （API SL，EC SAE 5W-20） トヨタ純正 モーターオイルSL 10W-30 （API SL，EC SAE 10W-30）

※ 0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■指定するエンジンオイル
ＡＰＩ規格ＳＭ／ＥＣ、ＳＬ／ＥＣか、ILSAC規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサック サーティフィケーション）マークがついています。

ＡＰＩマーク

ILSAC CERTIFICATIONマーク

●下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

ウォッシャータンク容量

項目		メンテナンスデータ	
ウォッシャータンク	容量［L］（参考値）	寒冷地仕様車を除く	2.5
		寒冷地仕様車	4.8

燃料の量と種類

項目		メンテナンスデータ	
燃料（フューエルタンク）	容量［L］（参考値）	無鉛レギュラーガソリン	60

タイヤ・ホイールの仕様

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="3">項目
タイヤサイズ</th><th colspan="4">ホイールサイズ</th></tr>
<tr><th colspan="2">リムサイズ</th><th rowspan="2">P.C.D.</th><th rowspan="2">オフセット量</th></tr>
<tr><th>スチールホイール</th><th>アルミホイール</th></tr>
<tr><td rowspan="2">標準タイヤ</td><td>225／65R 17　101H</td><td>17×6.5J</td><td>17×7J</td><td rowspan="2">114.3mm ×5（穴）</td><td>45mm</td></tr>
<tr><td>235／55R 18　99H</td><td></td><td>18×7.5J</td><td>39mm</td></tr>
</table>

タイヤの種類	タイヤが冷えているときの空気圧 [kPa {kg/cm²}]
225／65R 17　101H	220 {2.2}
235／55R 18　99H	220 {2.2}

装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。装着されているタイヤサイズごとに、ステアリングギヤの設定が異なっているため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着すると、車の性能（車両の安定性など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。
そのため、例えば225／65R17 101Hタイヤが装着されている車両に235／55R18 99Hタイヤを装着することはできません。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式	グレード
RAV4	ACA31W	2AZ－FE（2.4Lガソリン）	4WD（4輪駆動）	STYLE
RAV4	ACA31W	2AZ－FE（2.4Lガソリン）	4WD（4輪駆動）	SPORT
RAV4	ACA31W	2AZ－FE（2.4Lガソリン）	4WD（4輪駆動）	X
RAV4	ACA36W	2AZ－FE（2.4Lガソリン）	FF（前輪駆動）	STYLE
RAV4	ACA36W	2AZ－FE（2.4Lガソリン）	FF（前輪駆動）	X

ユーザーカスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能

以下の機能を変更することができます。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

項目	機能の内容	設定（太字が初期設定）
ワイヤレスドアロック機能（P.165参照）	ドアを施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅、ブザー音	**点滅する、ブザー音あり**／点滅しない、ブザー音なし
	解錠後のドアを開けなかったときの再施錠するまでの時間	**約30秒**／約60秒／約120秒
イルミネーテッドエントリーシステム（P.131参照）	ドアを開けてから閉めたときの消灯までのタイマー時間	**約15秒**／約7.5秒／約30秒
	“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしたときの点灯、消灯作動	**約15秒間点灯**／点灯しない
	“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、運転席ドア、助手席ドアまたはバックドアを解錠したときの点灯、消灯作動	**約15秒間点灯**／点灯しない
コンライト（P.280参照）	コンライトセンサーの感度調整	**レベル3**／レベル1～5
	コンライトシステムが車幅灯・尾灯・番号灯を点灯するまでの時間の調整	**標準**／長め

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

項目	機能の内容	設定（太字が初期設定）
ワイヤレスドアロック機能（P.165参照）	ドアを施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅、ブザー音	**点滅する**／点滅しない
	解錠後のドアを開けなかったときの再施錠するまでの時間	**約30秒**／約60秒／約120秒
イルミネーテッドエントリーシステム（P.161参照）	ドアを開けてから閉めたときの消灯までのタイマー時間	**約15秒**／約7.5秒／約30秒
	エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にしたときの点灯、消灯作動	**約15秒間点灯**／点灯しない
	エンジン スイッチが“ＬＯＣＫ”のとき、運転席ドアを解錠したときの点灯、消灯作動	**約15秒間点灯**／点灯しない
コンライト（P.280参照）	コンライトセンサーの感度調整	**レベル3**／レベル1～5
	コンライトシステムが車幅灯・尾灯・番号灯を点灯するまでの時間の調整	**標準**／長め

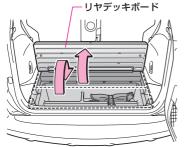
8 万一のとき

工具・スペアタイヤ・発炎筒

ジャッキ、工具、スペアタイヤの格納場所

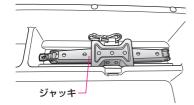
●工具袋、ジャッキは、リヤデッキアンダートレイに格納されています。
●工具袋には、次のものが入っています。

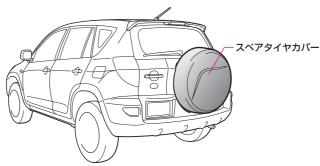
■Aタイプ

■Bタイプ

●スペアタイヤについては、P.468の「スペアタイヤ」を参照してください。
●スペアタイヤ非装着車は、ジャッキ、工具袋以外にパンク修理キットも格納されています。タイヤパンク応急修理キットについてはP.488をお読みください。
●ジャッキ、工具の種類、発炎筒の使い方など、万一のとき困らないようにあらかじめ確認しておきましょう。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

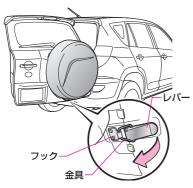
ジャッキ、工具

取り出しかた

1 リヤデッキボードを全開にします。
(P.338参照)

2 **工具袋、ジャッキを取り出します。**
固定バンドをはずします。
工具袋を取りはずし、ジャッキを取り出します。
●格納するときは、ジャッキを格納し、工具袋を格納し、固定バンドを取りつけます。

警告 **工具やジャッキを使用したあとは、確実に格納してください。**

●工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意 車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

スペアタイヤ ★

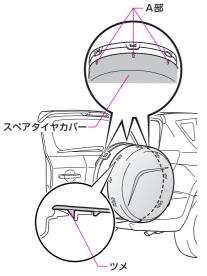
スペアタイヤはバックドアのスペアタイヤカバー内に格納されています。

スペアタイヤカバーの取りはずしかた

1 平らな場所に移動します。

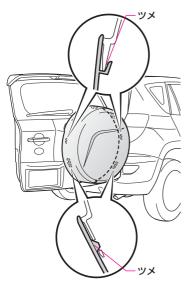
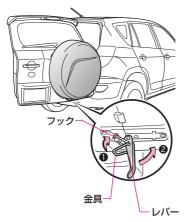
交通のじゃまにならず、安全に作業できる地面が平らな場所に移動します。

2 金具をはずします。

バックドア開けて、スペアタイヤカバー下部にある金具を、レバーを引いてフックからはずします。

3 スペアタイヤカバーを取りはずします。

スペアタイヤカバーの下側を持ち上げながら後方へずらし、取りはずします。

●スペアタイヤカバーを直接地面に置くときは、傷がつかないように表面を上にして置いてください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

スペアタイヤカバーの取りつけかた

1 **スペアタイヤカバーのツメをカバー受けの穴にはめ込みます。**
スペアタイヤカバー上部についているA部（3カ所）を目印にして、車体側のカバー受け上部の穴にカバー内のツメ（3カ所）をはめ込みます。

2 **残りのツメ（4カ所）をカバー受けにはめ込みます。**
カバーを軽くゆさぶり、カバー内のツメ（4カ所）が確実に車体側のカバー受けにかかっていることを、確認してください。

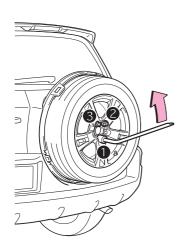
3 金具をフックに引っかけてロックします。

バックドアを開け、スペアタイヤカバー下部にある金具を、❶フックに引っかけて❷レバーを引き、ロックします。

● “カチッ”と音がしたことを確認してください。

⚠ 警告　スペアタイヤカバーを取りつけたときは、カバーを軽くゆさぶって確実に固定されていることを確認してください。

●スペアタイヤカバーを取りつけたときは、カバーを軽くゆさぶって確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中などにスペアタイヤカバーがはずれるなど思わぬ事故につながり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●スペアタイヤがない状態のまま、スペアタイヤカバーを取りつけて走行しないでください。走行中にスペアタイヤカバーがはずれるなど思わぬ事故につながり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意　スペアタイヤカバーの脱着は平坦な場所で行ってください。

●スペアタイヤカバーの脱着を行うときは平坦な場所で行ってください。傾斜した場所では、バックドアが急に開閉してしまい、腕や手を挟み、けがをするおそれがあります。

●スペアタイヤカバーの金具をはずすときや、ロックするときは必ずバックドアを開けてから行ってください。閉めたまま行うと金具をはずすことやロックすることができず、バンパーに傷がつくおそれがあります。

スペアタイヤの取りはずしかた

1 **スペアタイヤカバーを取りはずします。**
P.468参照

2 **バックドアを閉めます。**

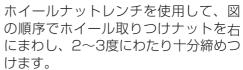
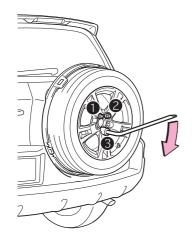
3 **ホイール取りつけナットをゆるめます。**
ホイールナットレンチを使用して、図の順序でホイール取りつけナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

4 **手でホイール取りつけナットを左にまわして、取りはずします。**

5 **タイヤを取りはずします。**
アルミホイールを直接地面に置くときは、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。

注意	**スペアタイヤを取りはずすときは、バックドアを閉めてから行ってください。**

●スペアタイヤを取りはずすときは、バックドアを閉めてから行ってください。バックドアが開いていると、バックドアが急に開閉してしまい、腕や手を挟み、けがをするおそれがあります。
●スペアタイヤを取りはずすときは、足の上などに落とさないように注意してください。
●スペアタイヤを取りはずすときは、ジャッキアップする前に取りはずしてください。

スペアタイヤの取りつけかた

1 **スペアタイヤのシート部や裏側の取りつけ面の汚れを拭き取ります。**

2 **ホイール取りつけナットを取りつけます。**

手でホイール取りつけナットを右にまわして仮締めします。

3 **ホイール取りつけナットを締めつけます。**

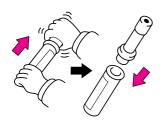
ホイールナットレンチを使用して、図の順序でホイール取りつけナットを右にまわし、2～3度にわたり十分締めつけます。

締めつけトルク：

約90N・m {900kgf・cm}

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

注意 **タイヤが確実に固定されていることを確認してください。**

- スペアタイヤを取りつけたあとは、タイヤが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。
- 必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.461で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。
- スペアタイヤを取りつけるときは、バックドアを閉めてから行ってください。バックドアが開いていると、バックドアが急に開閉してしまい、腕や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- ディスクホイールのシート部やディスクホイール裏側の取りつけ面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取りつけナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
- ホイールナットレンチをパイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。
- ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。

発炎筒の使い方

格納場所

助手席足元に備えつけてあります。

発炎筒の使い方

1 **発炎筒を組み立てます。**
本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。

2 **着火します。**
キャップの頭部のすり薬でこすると、着火します。

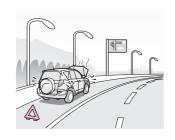
警告　発炎筒は正しく取り扱ってください。

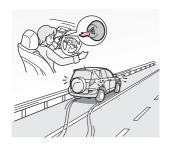
- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意　発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

知識

発炎筒について

- 発炎時間は約5分間ですので、非常点滅灯を併用してください。
- 発炎筒には有効期間があります。本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店でお求めください。

故障したときは

路上で故障したときは

非常点滅灯（P.292の「非常点滅灯スイッチの使い方」参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず、路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務づけられています。）

緊急を要するときは発炎筒で合図します。
P.474「発炎筒の使い方」参照。

動けなくなったときは

踏切で動けなくなったときは

シフトレバーを🅝にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは、発炎筒を使用してください。

道路で動けなくなったときは

シフトレバーを🅝にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

●困ったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは（スペアタイヤ装着車）

タイヤの交換

タイヤの交換については、P.82の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。
スペアタイヤ非装着車は、パンク修理キットが装着されています。タイヤパンク応急修理キットについてはP.488をお読みください。

タイヤ交換するまえに

1 平らな場所に移動します。
交通のじゃまにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりかけます。

3 エンジンを停止します。
シフトレバーをⓅにし、エンジンを止めます。

4 車の存在を知らせます。
必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールナットレンチを用意します。
P.466参照

6 輪止めを用意します。
ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。
輪止めについては、トヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

7 スペアタイヤを用意します。
P.468参照

センターオーナメントの取りはずしかた

スチールホイール装着車

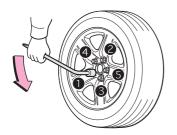
ホイールナットレンチの先をディスクホイールとキャップの間に差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。（2～3カ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます。）

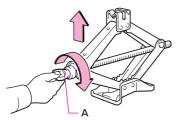
センターオーナメントに直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあり危険です。

ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ホイール、センターオーナメントが損傷するおそれがあります。

タイヤ交換のしかた

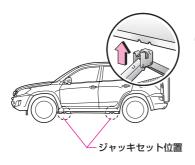
1 **ジャッキを置きます。**

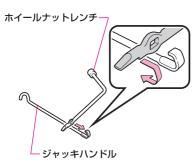
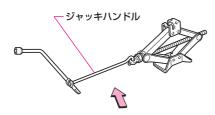
取りかえるタイヤに近いジャッキセット位置の下に置きます。
地面が平らで固く、ジャッキが安定することを確認します。

2 **輪止めをします。**

ジャッキアップする位置と対角にあるタイヤに輪止めをします。
前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。（図は右側後輪を持ち上げる場合を示しています。）

3 **スチールホイール装着車は、センターオーナメントを取りはずします。**

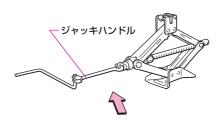
センターオーナメントの取りはずし方については、P.479の「センターオーナメントの取りはずしかた」を参照してください。

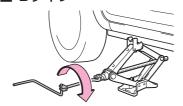
4 **ナットをゆるめます。**

ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

5 **ジャッキを上げます。**

ジャッキのＡの部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。

6 ジャッキセット位置にジャッキをかけます。

ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。

7 ジャッキハンドルを組みつけます。（Aタイプのみ）

ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組みつけます。

8 ジャッキハンドルを取りつけます。

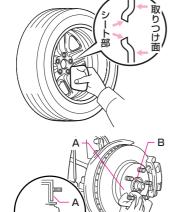
ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に差し込みます。

■Aタイプ

■ Bタイプ

■Aタイプ

■ Bタイプ

9 ジャッキアップします。

ジャッキハンドルを右にまわしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

10 ナットを取りはずします。

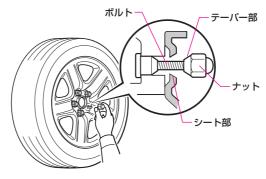
手でナットを左にまわして、取りはずします。

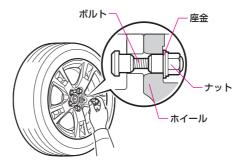
11 タイヤを取りはずします。

アルミホイールを直接地面に置くときは、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。

12 交換するタイヤを取りつけます。

●タイヤを取りつけるときは、ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面の汚れを拭き取ってから取りつけてください。

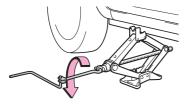
●図のＡ・Ｂ面の汚れを拭き取ります。

13 ナットを仮締めします。

タイヤががたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。

ディスクホイール取りつけボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパー部（アルミホイールの場合、座金の裏側）の汚れ、異物を取り除いてください。

■スチールホイールからスチールホイールにかえるとき

ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。

■アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールに当たるまで仮締めします。

■Aタイプ

■ Bタイプ

14 車体をおろします。

ジャッキハンドルを左にまわして車体をおろします。

15 ナットを締めつけます。

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2～3度にわたり十分締めつけます。

●締めつけトルク：
約105N・m ｛1050kgf・cm｝

16 センターオーナメントを取りつけます。

アルミホイール装着車は、はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取りつけます。

スチールホイール装着車は、はずしたセンターオーナメントを、交換したタイヤに取りつけます。

17 工具・ジャッキ・タイヤを片づけます。

18 タイヤの空気圧を点検してください。

P.461参照

パンクしたまま走行しないでください。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイール・サスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

●ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないと車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。
- 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
- ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
- 車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。

●ジャッキアップした車体をおろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

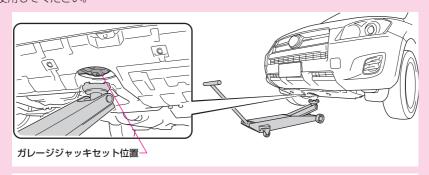
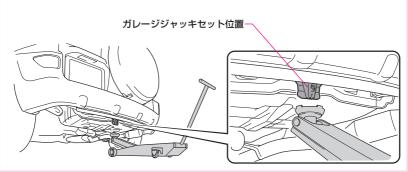
●ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締めつけトルク：約105N・m ｛1050kgf・cm｝

●ナットを取りつけるときは、必ずテーパー部を内側にして取りつけてください。（P.85参照）

●タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットを使用してください。

●ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部やディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。
つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●新品と交換するときは、スペアタイヤを含んだ5輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

警告　**パンクしたまま走行しないでください。**

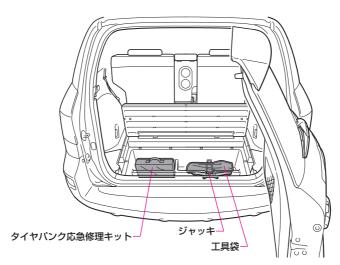
車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取り扱い説明書を十分に確認の上、使用してください。

ガレージジャッキは、受皿の形状がガレージジャッキセット位置に適したサイズの受皿タイプを使用してください。

注意　ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。

- ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。
- センターオーナメントは、直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあります。
- スチールホイール装着車のセンターオーナメントをはずすときは、ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ディスクホイール・センターオーナメントが損傷するおそれがあります。
- ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取りつけナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
- アルミホイール装着車のナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。
- ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。
- 傷・変形があるホイール取りつけナット・ディスクホイールなどは使用しないでください。
- タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。

タイヤパンク応急修理キット

タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク修理キット装着車

タイヤパンク応急修理キット装着車は、工場出荷時の状態ではスペアタイヤが搭載されていません。
パンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットを使用してください。

タイヤパンク応急修理キットの格納場所

タイヤパンク応急修理キットは、ラゲージルーム左側に格納されています。

タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク応急修理キットは、パンクしたときにトヨタ販売店まで車両を移動するためにパンクを応急修理するものです。

●タイヤのトレッド部（接地部）にクギやネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（P.492参照）

●タイヤパンク応急修理キットの修理剤1本につき、タイヤ1本を応急修理することができます。

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

タイヤパンク応急修理キットの修理剤を飲用しないでください。

●タイヤパンク応急修理キットの修理剤を飲用しないでください。飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用した場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●タイヤパンク応急修理キットの修理剤が目に入ったり皮膚についた場合は、すぐに多量の水で洗浄してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

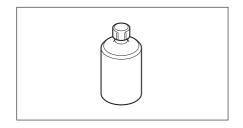
●タイヤパンク応急修理キットは、指定の格納場所（前ページ参照）など、お子さまの手に届かない場所に保管してください。

●パンクの応急修理をするときは、できるだけ平坦で交通のさまたげにならない安全な場所に駐車してから作業してください。

●タイヤパンク応急修理キットの修理剤が衣服などに付着すると、シミになる場合がありますのでご注意ください。

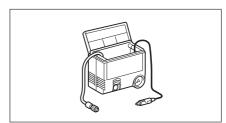
知識

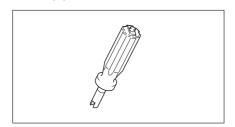
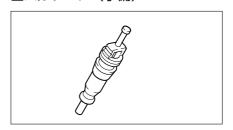
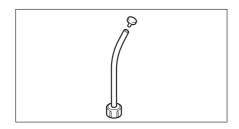
パンク、バーストについて

以下のようなときは、パンクやバーストが考えられます。

●ハンドルがとられるとき。

●異常な振動があるとき。

●車両が異常に傾いたとき。

パンク応急修理後について

ホイールは付着した修理剤を拭き取れば再使用できます。ただし、バルブは新しいものと取り替えてください。こぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。

タイヤパンク応急修理キットの内容

■修理剤

■コンプレッサー

■コア回し

■バルブコア（予備）

■注入ホース

■延長ホース（修理剤抜き取り用）

■速度制限ラベル

■修理剤注入済みラベル

知識

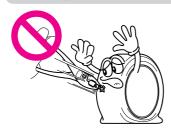
修理剤について

有効期限

●修理剤には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。
●有効期限が切れる前に交換する必要があります。交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

使用環境温度 …………−30℃〜+60℃
（外気温が使用環境温度以外のときは使用できません。）

応急修理をする前に

タイヤパンク応急修理キットの修理剤を使用する前に、タイヤの損傷状態を確認します。

応急修理が可能な場合

トレッド部（接地部）にクギやネジなどが刺さった程度であれば、応急修理できます。

知 識

タイヤに刺さったクギやネジについて

タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かずに応急修理してください。抜いてしまうと、タイヤパンク応急修理キットの修理剤では応急修理が不可能になる場合があります。

応急修理が不可能な場合

以下のときは、タイヤパンク応急修理キットの修理剤では応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

●ほとんど空気のない状態で走行してタイヤが損傷しているとき

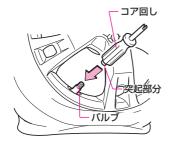
●サイドウォールの亀裂・損傷によるパンク

●タイヤとホイールが明らかにはずれているとき

●トレッドの4mm以上の切り傷や刺し傷

●ホイールが破損しているとき

●2本以上のタイヤがパンクしたとき（修理剤1本につき、応急修理できるタイヤは1本です。）

応急修理のしかた

1 **応急修理が可能か、タイヤの状態を確認します。**

確認方法はP.492を参照してください。

2 **バルブからキャップをはずします。**

タイヤのバルブについているキャップをはずします。

3 **コア回しの突起部分を押しあてて、空気を抜きます。**

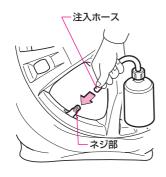
バルブにコア回しのうしろについている突起部分を押しあてて、タイヤの空気を完全に抜きます。

4 **バルブコアをコア回しで抜き取ります。**

コア回しでバルブコアを左にまわして、バルブコアを抜き取ります。

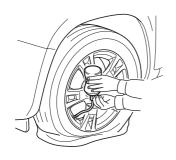
- バルブコアは砂地や汚れた地面の上に直接置かないで、きれいな所に保管してください。

5 修理剤の容器を上下に数回よく振ります。

修理剤

6 修理剤のキャップをはずし注入ホースをねじ込みます。

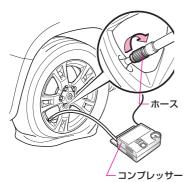
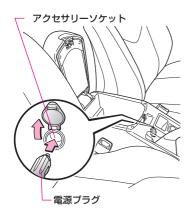
ねじ込むにしたがって容器のアルミシールが破れます。

7 注入ホースから栓をはずします。

8 注入ホースをバルブのネジ部に差し込みます。

9 修理剤をタイヤ内に全て注入します。

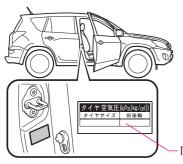
左図のように容器と注入ホースをバルブより上にして傾け、手で容器を押して中の修理剤を絞り出します。

●修理剤の空容器は、タイヤ交換時に、使用済の修理剤の回収に使用しますので、トヨタ販売店までお持ちください。

●修理剤を使用した場合は、再び、新しい修理剤を車両に装備しておく必要がありますので、トヨタ販売店にご相談ください。

10 修理剤注入済みラベルを貼ります。

11 バルブコアをコア回しでねじ込みます。

注入ホースをバルブから引き抜き、はずしていたバルブコアを、コア回しを使って右にまわし、バルブにしっかりとねじ込みます。

12 コンプレッサーのホースをタイヤのバルブにねじ込みます。

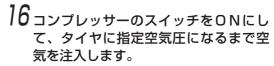
13 電源プラグをアクセサリーソケットに差し込みます。

コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリーソケットに差し込みます。

14

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにします。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＡＣＣ ” にします。

15 指定空気圧を確認します。

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.461で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。

16 コンプレッサーのスイッチをＯＮにして、タイヤに指定空気圧になるまで空気を注入します。

コンプレッサーについている圧力計で確認し、指定空気圧になったらスイッチをＯＦＦにします。

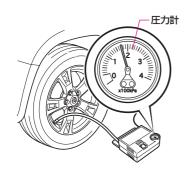
●8分以内に指定空気圧にならない場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができません。トヨタ販売店にご連絡ください。

17 空気を入れ過ぎたときは、コア回しの突起部分を押しあてて、空気を抜きます。

バルブにコア回しのうしろについている突起部分を押しあてて、タイヤの空気を抜いて指定空気圧に調整します。

18 空気の注入が完了したら、ホースをタイヤのバルブからはずします。

19 電源プラグを抜きます。

コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリーソケットから抜きます。

20 修理剤をタイヤ内に均一に行き渡らせます。

修理剤をタイヤ内に均一に行き渡らせるため、ただちに約10分間または約5km走行してください。

21 **再度コンプレッサーを接続します。**

約10分間または約5km走行したら、できるだけ平坦で交通のさまたげにならない安全な場所に停車して、再度コンプレッサーを接続します。

22 **タイヤの空気圧をコンプレッサーの圧力計で確認します。**

130kPa｛1.3kg／cm²｝以上あるとき

再度コンプレッサーで指定空気圧まで入れ直してください。

130kPa｛1.3kg／cm²｝未満のとき

タイヤの損傷がひどすぎて修理剤ではパンクを応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

23 トヨタ販売店へ移動します。

速度制限ラベルを運転席から見やすいところに貼りつけ、急ブレーキ、急ハンドルをさけ、80km/h以下で慎重に運転してトヨタ販売店へ行きます。タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

ステアリングホイールのパッド部分などのＳＲＳエアバッグ展開部に速度制限ラベルを貼らないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、メーターやドアガラスなどの、運転に支障をきたすところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

応急修理をするときは以下の項目を必ずお守りください。

- 修理剤に注入ホースをねじ込んだ状態で、修理剤の容器を振ると、修理剤が吹き出すおそれがあります。
- タイヤに空気が残っているときに、コア回しをいきおいよくまわすと、バルブコアが飛び出しますのでご注意ください。
- 修理剤を注入するときに注入ホースの差し込みがゆるいと、修理剤注入時、修理剤が吹き出すおそれがあります。
- コア回しでバルブコアをねじ込むときは、手でまわしてください。工具などを使用するとコア回しが破損するおそれがあります。
- コンプレッサーを使用するときは、車両にタイヤを付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続し作業を行ってください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにしてコンプレッサーを使用すると、バッテリーの状態によっては、バッテリーがあがることがあります。
- コンプレッサーを使用するときは、コンプレッサーが熱くなる場合がありますので、コンプレッサーの内部を触らないでください。

応急修理をするときは以下の項目を必ずお守りください。

●コンプレッサーは10分以上連続運転しないでください。モーターが過熱し損傷するおそれがあります。再度、使用するときはコンプレッサーが冷えてからにしてください。
●降雨時などでは、コンプレッサーに水がかからないようにしてください。
●砂地など土ほこりの多い場所にコンプレッサーを直接置いて使用しないでください。
●コンプレッサーを分解・改造しないでください。また、衝撃を与えないでください。
●コンプレッサーは無給油タイプですので、オイルなどを注油しないでください。
●応急修理を行ったタイヤで走行するときは慎重に走行してください。カーブを曲がるときは、とくに気をつけてください。

知識

コンプレッサーについて

●コンプレッサーは乗用車タイプの空気充填用です。
●コンプレッサーのスイッチをＯＮにすると、大きな作動音がしますが、異常ではありません。
●コンプレッサーの電源は、自動車用12Ｖ専用です。24Ｖや他の電源は接続しないでください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーあがりとは？

次のような状態が、バッテリーあがりです。

●スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。

●ヘッドランプがいつもより暗い。

●ホーンの音が小さい、または鳴らない。

処置のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

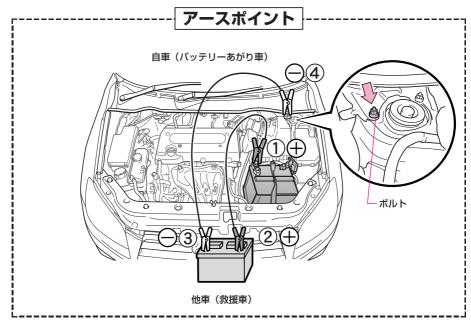
1 **ブースターケーブルをつなぎます。**

バッテリーの ⊕ 端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。

①自車のバッテリーの ⊕ 端子

②救援車のバッテリーの ⊕ 端子

③救援車のバッテリーの ⊖ 端子

④次ページの図で指示している箇所（アースを取る。）

2 **バッテリーを充電します。**

救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

3 **自車のエンジンをかけます。**

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

4 ブースターケーブルをはずします。

ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンを停止したままランプをつけたりエアコンなどを使わないようにしてください。
●エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要な電装品の電源を切ってください。

警告 **火気をバッテリーに近づけないでください。**

●必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないとバッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ④の接続は自車バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
- ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
- 火気をバッテリーに近づけないでください。

●充電中はバッテリーに近づかないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
●ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締めつけてください。確実に締めつけないと、走行中にクランプがはずれて、ショートするなどして車両火災につながるおそれがあり危険です。

救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

●他車（救援車）のバッテリーは12Vでなければなりません。12V用バッテリーであることを確認してから行ってください。
●バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

車両バッテリー脱着時について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●車両は常に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態（アクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモード）を記憶しているため、車両バッテリーを再接続したときは、車両バッテリーをはずす前のスイッチの状態に復帰します。修理などで車両バッテリーをはずすときは、必ずスイッチをＯＦＦにしてから行ってください。
車両バッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前のスイッチの状態がわからないときは、とくに注意してください。
●車両のバッテリー脱着後、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを一度押すだけではエンジンが始動しないことがあります。その場合は、もう一度スイッチを押してください。
●車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは？

次のような状態が、オーバーヒートです。
- ●水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する。
- ●ボンネットから蒸気が立ちのぼる。

処置のしかた

1 **車を止めます。**
車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合は、ＯＦＦにします。

2 **ボンネットの確認をします。**
ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

■ボンネットから蒸気が出ていない場合
ボンネットを開けて、そのままエンジンをかけておきます。

■ボンネットから蒸気が出ている場合
エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しを良くするためにボンネットを開けエンジンをかけます。

3 冷却用ファンを確認します。

ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときはエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡してください。

4 エンジンを停止します。

水温計の針が下がってきたら、エンジンを止めます。

5 冷却水量などを確認します。

エンジンが冷えてからリザーバータンクの冷却水量の確認およびラジエーターコア部（放熱部）が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。

6 冷却水を補給します。

冷却水量が不足していたら、リザーバータンクに冷却水を補給します。

●冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 トヨタ販売店で点検を受けます。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

●移動途中で再び水温計の針が上昇してきたときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にすることで、ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。

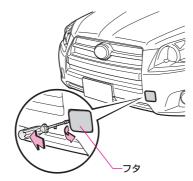
警告　やけどなどしないように十分気をつけてください。

●ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。
●リザーバータンクが熱いときはキャップを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、リザーバータンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。
●エンジンがまわっているときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

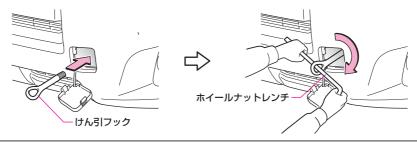
冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

けん引について

けん引のしかた

けん引してもらうときは、できるだけトヨタ販売店、またはＪＡＦなどに依頼してください。とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。

●エンジンがまわっているのに車が動かない。

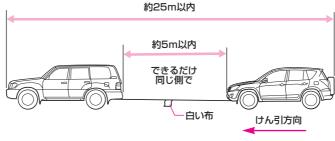
●異常な音がする。

けん引してもらうときは

このけん引フックはけん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。

1 **けん引フック、ホイールナットレンチを取り出します。**

Ｐ.466参照

2 **けん引フック取りつけ部のフタを取りはずします。**

フタの内側を押してすき間を作り、フタとバンパーのすき間にはいる程度の薄刃のマイナスドライバー先端に、バンパー傷つき防止のため薄手のテープを巻いて差し込み、フタをはずします。

3 **けん引フックをホイールナットレンチを用いて確実に取りつけます。**

4 ロープをかけます。

ボディに傷をつけないようにして、ロープをけん引フックにかけます。必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ずつけてください。

5 エンジンをかけます。

エンジンをできるだけかけておいてください。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

エンジンがかからないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッションＯＮモードにします。

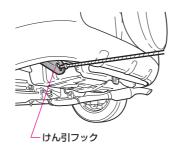
スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを “ ＡＣＣ ” または “ ＯＮ ” にします。

6 発進します。

シフトレバーを🅝にして、パーキングブレーキを解除します。

7 前の車に注意します。

けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

けん引が終わったら、けん引フックをはずし、バンパーのフタを確実に取りつけてください。

●けん引フック、ホイールナットレンチは、指定の場所に格納します。（P.466参照）

けん引するときは

けん引フックは、リヤバンパー下部の助手席側にあります。

●けん引フックは、一般路上で故障した他車（故障車）をやむを得ずロープによりけん引するためのものです。

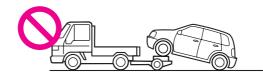
●自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

警告 けん引される車は慎重に運転してください。

●けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

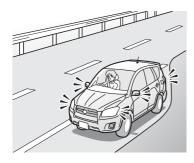
●けん引する車は急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。
また、万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにしないでください。ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●エンジンキーを抜いたり、エンジン スイッチを “ ＬＯＣＫ ” の位置にしないでください。
キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジン スイッチが “ ＬＯＣＫ ” の位置だとキーが抜けるおそれがあります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。

●長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
●4WD車の場合、4輪接地でけん引するか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼きつきを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず4輪を持ち上げて運搬してください。

●けん引速度30km/h以下、けん引距離80km以内で、前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらの場合は車両積載車などにより、4輪とも持ち上げて運搬してください。
●スタック脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。
●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷がつくおそれがあります。
●スタック※したときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。
※ ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください

1 **続発事故を防止します。**
ほかの交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを停止します。

2 **負傷者がいる場合は、応急手当を行います。**
医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

3 **警察への届け出をします。**

4 **相手方の確認とメモ（氏名・住所・電話番号）を取ります。**

5 **ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。**

車両を緊急停止するには

緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 **ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。**
ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常よりも強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 **シフトレバーをⓃに入れます。**

■シフトレバーがⓃに入った場合

3 **減速後、車を安全な道路脇に停めます。**

4 **エンジンを停止します。**

■シフトレバーがⓃに入らない場合

3 **ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。**

4 スマートエントリー &
スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止します。

スマートエントリー &
スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチを3秒以上押し続けてエンジンを停止します。

警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

さくいん

さくいん

五十音さくいん

症状から調べたいときや、万一のときの処置については、色付き文字の項目をご覧ください。

- マークは、スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車の参照ページです。
- マークは、スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車の参照ページです。

あ

い

う

え

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の 解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

く

け

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

て

と

な

に

ね

は

ま

み

む

め

ゆ

よ

ら

り

る

れ

ろ

わ

警告灯さくいん

RAV4

フ-30

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター
全国共通・フリーコール
0800-700-7700
オープン時間　365日　9:00〜18:00
所在地　〒450 - 0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

●印刷　ＩB-2011年11月24日　●発行-2011年12月１日　初版

M 42840
01999—42840